

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 23 号 (2017 年度)

KPMNH Yearbook
No. 23

2017. 4-2018. 3

Web版



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN
Jun. 2018

ごあいさつ

常日頃より、当博物館の活動につきまして、ご理解とご支援・ご協力をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

この度、2017年度における当博物館の活動実績を詳細に記した「神奈川県立生命の星・地球博物館 年報 第23号」を刊行いたしましたので、ご覧いただけますようお願いいたします。

2017年度も、「集める」（資料収集・整理保管）、「調べる」（調査研究）、「伝える」（展示・普及）の3つの基本的活動を進めてまいりました。各活動実績の詳細につきましては、項目ごとに記載しました。それらをご覧いただければ、学芸員と事務職員一同が、限られた予算と人員の中で非常に努力していることをご理解いただけると思います。

しかし、職員の努力だけでは解決できない課題もあります。1995年の開館以来23年が過ぎ、建物や施設設備の老朽化、収蔵スペースの深刻な狭隘化、常設展示の陳腐化などの課題が顕在化してきています。今から25年前、神奈川県立博物館の再編整備構想が進められた理由の一つには、実は同じような状況がありました。これらの課題の解決に当たっては、設置者である神奈川県をはじめ県議会、そして県民の皆様の理解と協力が不可欠です。博物館関係者の間では、博物館の活動と運営にあたっては「対話と連携」が大切であるとよく言われますが、まさしく博物館設置者と管理者、そして利用者の間での対話と連携が必要です。

最近、世の中では東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への外国人観光客誘客をはじめとする観光重点施策が重要視されています。博物館・美術館もその流れの中に飲み込まれようとしています。大勢の方に見ていただくことは大切ですが、その前提には資料や標本の適切な保存保管・管理が不可欠です。

博物館の活動は継続的なものであり、その活動成果の蓄積がさらにまた博物館を支えることにつながります。これからも「集める、調べる、伝える」という基本的活動を軸として、自然史資料の蓄積と研究を継続的に進め、その成果を展示や普及活動に活かしながら、貴重な資料を将来・未来につなぐことを務めてまいります。

今後も、皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

2018年6月
神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 **平田 大二**

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として

地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ		5.6. 博物館のボランティア活動	76
神奈川県立生命の星・地球博物館の使命		5.7. 広報	78
シンボルマーク・ロゴタイプ		6. 刊行物	81
I 沿革	4	6.1. 定期刊行物	81
1. 沿革	4	6.2. 刊行物販売状況	83
2. 2017年度の主な出来事	5	7. 情報システム	84
II 機能	6	7.1. システムの概要	84
1. 運営管理機能	6	7.2. サブシステムの紹介	85
1.1. 事業体系	6	7.3. インターネットの利用	86
1.2. 組織	7	7.4. 情報提供	86
1.3. 職員名簿	8	8. 連携機能	88
1.4. 利用者	9	8.1. 友の会	88
1.5. 歳入歳出決算	9	8.2. サロン・ド・小田原	90
2. 情報発信機能	10	8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	90
2.1. 常設展示	10	8.4. 館内施設等の状況	93
2.2. 特別展示	15	III 資料	94
2.3. その他の展示	19	1. 条例・規則	94
2.4. SEISA ミュージアムシアター	19	1.1. 神奈川県立の博物館条例	94
2.5. ミューズ・フェスタ 2018	22	1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	95
3. シンクタンク機能	24	1.3. 神奈川県立の博物館の利用に関する規則	96
3.1. 調査研究事業	24	2. 館年表	98
3.2. 研究助成金による研究	25	2.1. 再編整備決定から開館まで	98
3.3. 著作活動・学会発表等	26	2.2. 開館から2017年度末まで	98
3.4. レファレンス対応人数	40	3. 資料統計	100
3.5. 各種委員・役員・非常勤講師	41	3.1. 利用者状況	100
3.6. 講師依頼等	45	3.2. 年度別利用者数の推移	101
3.7. 学術交流	48	3.3. 特別展・企画展開催実績	102
3.8. 他施設・団体への協力	48	3.4. 資料登録実績	104
3.9. 外部研究者の受け入れ	49	3.5. ウェブサイトアクセス実績	106
3.10. 名誉館員	49	3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	106
4. データバンク機能	50	3.7. FishPix のアクセス実績	107
4.1. 資料概況	50	3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録	108
4.2. 図書資料収集状況	59	3.9. 来館者アンケート	112
4.3. 資料利用状況	60	4. 調査研究関連資料	115
4.4. 資料燻蒸	62	4.1. 研究成果	115
5. 学習支援機能	62	4.2. 研究成果（外部資金助成等・共同研究等）	123
5.1. 生涯学習への対応	62	5. 施設概要	127
5.2. 学校教育への対応	68	5.1. 土地・建物	127
5.3. 博物館実習	71	5.2. 設備	128
5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	73	5.3. 面積表	130
5.5. 学習指導員による学習支援活動	73	5.4. 平面図	131

I 沿革

1. 沿革

1986年	12月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988年	7月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名誉教授））から提言
1989年	3月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990年	3月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10月	建築基本設計着手
1991年	3月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10月	第一期造成工事着手
1992年	4月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の4班体制となる
	10月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994年	12月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995年	1月 1日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3部4課を置く
	3月	博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3月 8日	平成6年度第1回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3月 20日	開館記念式典実施
	3月 21日	一般公開開始
	5月 7日	入館者10万人到達（41日目）
	9月 24日	入館者30万人到達（158日目）
1996年	4月	シンボルマーク製作
	4月 17日	入館者50万人到達（321日目）
1997年	7月 23日	入館者100万人到達（705日目）
1998年	3月 30日	天皇陛下・皇后陛下行幸啓
	11月 3日	入館者150万人到達（1,090日目）
2000年	3月 31日	濱田隆士館長退任
	4月 1日	青木淳一館長就任
	8月 6日	入館者200万人到達（1,613日目）
2001年	3月 27日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002年	7月 19日	入館者250万人到達（2,206日目）
2004年	5月 25日	入館者300万人到達（2,770日目）
2006年	3月 31日	青木淳一館長退任
	4月 1日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。 斎藤靖二館長就任
	7月 8日	入館者350万人到達（3,409日目）
2008年	8月 12日	入館者400万人到達（4,062日目）
2010年	10月 21日	入館者450万人到達（4,863日目）
2012年	8月 3日	入館者500万人到達（5,183日目）
2013年	10月 8日	天皇陛下行幸
2014年	1月 13日	入館者550万人到達（5,716日目）
	3月 31日	斎藤靖二館長退任
	4月 1日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015年	8月 29日	入館者600万人到達（6,190日目）
2017年	5月 3日	入館者650万人到達（6,667日目）

2. 2017年度の主な出来事

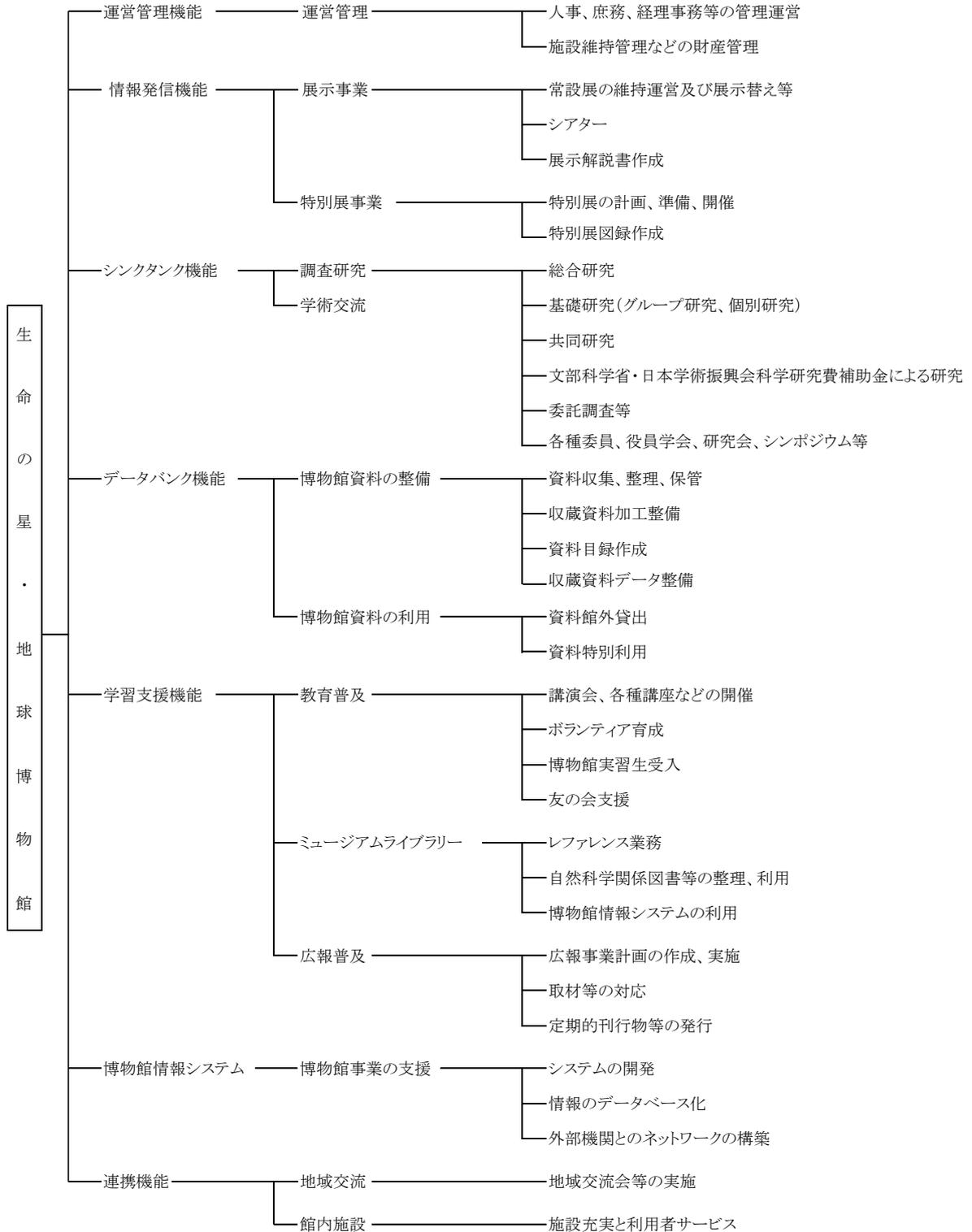
2017年	4月	1日			定期人事異動
	5月	3日			入館者 650 万人到達 (6,667 日目)
	6月	12日	～	16日	燻蒸
	7月	15日	～	11月 5日	特別展「地球を『はぎ取る』～地層が伝える大地の記憶～」
	7月	18日	～	8月 31日	夏休み期間中無休開館期間
	8月	16日			サロン・ド・小田原「シーラカンスから海を学ぶーシーラカンス研究最前線ー」
	9月	9日			特別展関連 講演会「地層はぎ取り標本の作り方」・「はぎ取り試料から明らかにする古生物の行動」
	9月	12日			防災訓練
	9月	30日			サロン・ド・小田原「地球の現場の保存と再現 なぜ、地層をはぎ取るのかー芸術と地質学のコラボレーションー」
	10月	21日			公開シンポジウム「“はぎ取り”で保存するー土壌、遺構、地層の世界ー」
2018年	12月	16日	～	2月 25日	企画展「レッドデータの生物ー知って守ろう 神奈川の生き物たちー」
	1月	20日			サロン・ド・小田原「希少昆虫の保全現場最前線ーレッドリストが救うものー」
	1月	28日	～	2月 10日	博物館ボランティア入門講座 (2～3日間)
	3月	10日	～	11日	ミュージズ・フェスタ2018
	3月	11日			シンポジウム「沈黙の春 第二章? 田んぼの生き物の危機」
	3月	17日	～	5月 6日	子ども自然科学作品展
	3月	24日			サロン・ド・小田原「大きな標本をてのひらサイズに? フォトグラメトリーと博物館」

博物館の再編整備の決定以降、2017年度までの出来事の概略に関しては、Ⅲ 資料の項 (98～99 ページ) に掲載した。

Ⅱ 機能

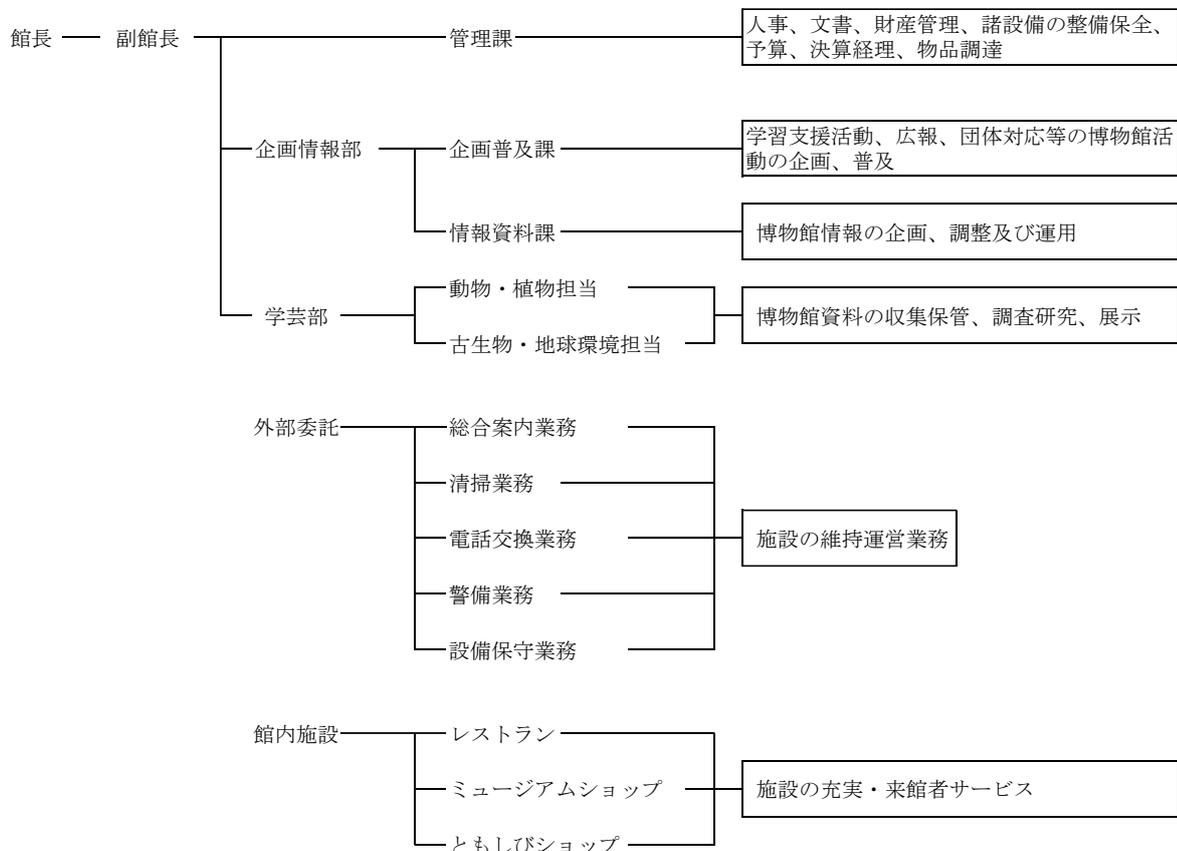
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

平成 29 年 4 月 1 日現在											
区分	常勤				非常勤					合計	
	館長	事務職	学芸員	司書	名誉館長	事務職	技術職	学芸員	司書		指導員
名誉館長					1						1
館長	1										1
副館長		1									1
管理課		8				1	1				10
企画情報部	部長	1									1
	企画普及課		3	4			1			5	13
	情報資料課		1	2	1		1		2	1	8
	小計		5	6	1		2		2	1	5
学芸部	部長			1							1
	動物・植物			7							7
	古生物・地球環境			5							5
	小計			13							13
合計	1	14	19	1	1	3	1	2	1	5	48
					35					13	

指導員＝博物館学習指導員、再任用職員は常勤に含む

1.3. 職員名簿

[平成29年4月1日～平成30年3月31日]				
職名		氏名	担当分野/備考	
名誉館長(非常勤)		斎藤 靖二	地学(堆積学)	
館長(再任用)		平田 大二	地学(鉱物)	
副館長		萩生田 美穂子		
管理課	課長	村尾 昌昭		
	副主幹	原 良治		
	主査(事務)	鈴木 泉		
	〃	水野 進	～H29.4.30	
	〃	稲見 浩太郎	H29.5.1～	
	主事	寺田 真織		
	〃	黒澤 こと美		
	〃(再任用)	田村 哲		
	〃	内田 功		
	非常勤技師	清田 哲		
	非常勤事務補助	秋山 幸子	～H29.5.31	
〃	工藤 美和子	H29.7.5～		
企画情報部	部長	秋澤 潔史		
	企画普及課	課長*	佐藤 武宏	動物(無脊椎動物)
		主任学芸員*	田口 公則	古生物(貝類)
		主任学芸員*	石浜 佐栄子	地学(地球化学)
		主事	城所 由佳	
		副主幹(再任用)	平賀 保彦	
		主任学芸員(再任用)*	勝山 輝男	植物(維管束植物)
		主事(再任用)	芝山 一彦	
		非常勤事務補助	本杉 弥生	
		非常勤博物館学習指導員	小宮 孝俊	
			加藤 淑和	
	中村 俊文			
	高橋 綾子			
	山田 茂広			
	情報資料課	課長*	田中 徳久	植物(植物生態)
		学芸員*	渡辺 恭平	動物(昆虫類)
		主事	鈴木 まり絵	
		副主幹(再任用)	土屋 定夫	
		非常勤学芸員*	大坪 奏	アーカイブズ
		非常勤学芸員*	林 宏美	アーカイブズ
非常勤事務補助		加藤 恵美		
非常勤司書		小林 瑞穂		
学芸部	部長	瀬能 宏	動物(魚類)	
	動物・植物担当	チームリーダー・主任学芸員	加藤 ゆき	動物(鳥類)
		主任学芸員	苅部 治紀	動物(昆虫類)
		学芸員	大西 亘	植物(維管束植物)
		〃	折原 貴道	植物(菌類)
		〃	松本 涼子	動物(両生爬虫類)
		〃	鈴木 聡	動物(哺乳類)
		主任学芸員(再任用)	広谷 浩子	動物(霊長類)
	古生物・地球環境担当	チームリーダー・主任学芸員	新井田 秀一	環境科学(海洋光学)
		主任研究員	笠間 友博	地学(地質)
		主任学芸員	大島 光春	古生物(哺乳類)
		〃	樽 創	古生物(哺乳類)
		〃	山下 浩之	地学(岩石)
		〃		
〃				

*学芸部を兼務

1.4. 利用者

2017年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は40ページ、それ以外の利用者状況詳細は100～101ページ、開館以来の入館者数統計は101ページを参照のこと。

◆博物館利用者 341,443人

2017年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「学芸員への質問・相談利用者」の合計。

◆入館者 319,134人（1,104人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

◆常設展入場者 239,678人（829人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

◆ライブラリー利用者 91,143人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

◆講座・観察会・研修等参加者 17,212人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、学芸ボランティア・ライブラリーボランティア・展示解説ボランティア、大学生の博物館実務実習の参加者数。

◆特別展・企画展等入場者 94,284人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

◆学芸員への質問・相談者 5,091人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、出前などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

1.5. 歳入歳出決算

平成29年度歳入

科目	金額(千円)	内訳	
教育財産使用料	1,932	レストランほか 建物使用料	
博物館使用料	50,624	観覧料収入	
		常設展	46,724
		特別展	3,900
立替収入	1,467	レストランほか 電気・ガス・水道料	
図書等売払収入	1,460	展示解説書等販売収入	
雑入	24	ライブラリー複写代	
合計	55,507		

平成29年度歳出(社会教育費のみ)

科目	金額(千円)	内訳
維持運営費	184,914	館の維持管理及び事業運営
博物館事業費	15,170	総合案内業務・特別展の開催 総合研究・基礎研究・調査研究報告 書の作成・博物館資料収集・収蔵展 示資料修繕、加工・各種講座・講演 会等の開催・図書等資料整備・広報 資料作成
情報システム 整備費	2,170	データ入力等
整備事業費	1,491	書架増設
合計	203,745	

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トウプクサーラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を繰り返し上映している。この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障がい者への対応を行っているが、2006年7月より日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2017年度の展示変更及び更新

①生命を考える展示室 「オオサンショウウオ」入れ替え

[展示期間] 2017年6月7日～

[展示概要] 生命展示室の陸上への適応にて展示されているオオサンショウウオの剥製を萩博物館特別展に貸し出した。これを機に、絶滅種であるヨーロッパのオオサンショウウオ化石 (*Andrias tschudii*) に入れ替えた。

[展示内容] ヨーロッパのオオサンショウウオ化石1点。新生代中新世ドイツ連邦共和国から産出。

[担当] 松本涼子

②生命を考える展示室 展示照明更新

[展示期間] 2017年9月12日～

[展示概要] 展示ステージ上の既存白熱球照明が、通常の使用でも熱く危険と考えられるため、LED照明に更新した。

[展示内容] 生命展示室「恐竜の世界」展示ステージ上の、頭骨とショーケースを照らす照明2基をLED照明に更新した。

[担当] 大島光春・新井田秀一

③地球を考える展示室および生命を考える展示室
展示グラフィックパネル等更新

[展示期間] 2018年3月13日～

[展示概要] 展示グラフィックパネルに表示されている点字が破損したものが9点あり、同じ内容のものを制作し更新した。また、パネルを固定するスタンドが1台破損したため、同等の規格で制作し更新した。

[展示内容] パネル更新: ギベオンいん石、オデッサいん石、ティラノサウルス・レックス、*Arbores vivorum*、頭の上を泳いでいる魚たち、鯨偶蹄目偶蹄類、昆虫の世界、多様性が生まれるしくみ、もし地球が太陽に近ければ/もし地球が小さければ

[担当] 新井田秀一

④自然との共生を考える展示室 スタンド更新

[展示概要] ヒカゲヘゴの展示ラベルスタンドが破損したため、新規作成し、交換した。

[担当] 新井田秀一

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。2017年度の機器更新は次の通りである。

ジャンボブック展示室の展示照明更新

[展示期間] 2017年9月12日～

[展示概要] 本型展示ケースのスポットライトを、ハロゲンランプからLEDへ更新した。

[展示内容] 本型展示ケースは27台ある。スポットライトは本型展示ケース1台あたり4基、インデックスに1基設置しているため、総数109基をLED照明に更新した。

[担当] 新井田秀一

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

① 情報展示パネル

友の会紹介コーナー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

[展示更新] 随時、とくに活動報告など

[担当] 博物館友の会広報部

博物館周辺の身近な自然

[展示内容] 『自然を楽しむみち』のコースおよび解説1～9の紹介

② ミニ企画展示コーナー

最長3ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的としてつぎの「ミニ企画展示」を開催した。

「自然科学のとびら」86号とその関連資料の紹介

[展示内容] 拡大印刷した本誌とその内容に沿って、「登録30万点目の維管束植物」や「砂の性質を使ったおもちゃ」など、記事に関連した資料などを合わせて展示した。

[開催期間] 2017年3月24日～2017年4月16日

[担当] 田口公則、田中徳久、石浜佐栄子

箱根ジオパークフォトコンテスト作品展

～南足柄市編入記念～

[展示内容] 5月10日の「地質の日」の関連展示として、箱根ジオパーク推進協議会が、南足柄市編入記念として実施した箱根ジオパークフォトコンテストの入賞作品等を展示紹介した。

[開催期間] 2017年4月18日～2017年5月21日

[担当] 県西地域県政総合センター企画調整部商工観光課（小田）、田口公則

「自然科学のとびら」87号の紹介

[展示内容] 拡大印刷した本誌を掲示、紹介した。

[開催期間] 2017年6月20日～2017年8月5日

[担当] 田口公則

日本地質学会選定「県の石」展 その1

[展示内容] 5月10日の「地質の日」に関連して、日本地質学会が各都道府県の岩石・鉱物・化石を選定し発表した「県の石」をポスターパネル（産業技術研究所地質調査総合センター作成）と当館所蔵標本を用いて紹介した。

1. 産業技術総合研究所地質調査総合センター出版の「県の石」ポスターパネル（北海道・東北地方の県の石、関東地方の県の石、中部地方（北陸地方）の県の石、中部地方（東海、甲信地方）の県の石（計4枚）

2. 当館所蔵の各地方県の石（35件）

[開催期間] 2017年8月13日～2017年8月31日

[担当] 田口公則、大島光春、山下浩之

[協力] 博物館実習生

ヒアリってどんなアリ？

—正しく恐れ、準備をしよう！—

[展示内容] 2017年夏、日本で初めて確認され注目を集めたヒアリに関連して、外来アリについての正しい知識を身に付けてもらうという趣旨で企画した。展示では、ヒア리를代表とする侵略的外来種にあたる外来アリの標本、外来アリが引き

起こす問題、それらの国内での状況、今後予測される被害（人、農産物、生態系）、対応策などを紹介したほか、また、在来のアリで人体に被害をもたらすものも紹介した。

[開催期間] 2017年9月5日～2017年11月5日

[担当] 荻部治紀

[協力] 自然環境研究センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム

地層実験 —お天気のをしましま— を“よむ”

特別展「地球を『はぎ取る』」で作った

114日間の地層

[展示内容] 特別展「地球を“はぎ取る”～地層が伝える大地の記憶～」(2017年7月15日から11月5日)では地層に関する基本的な原理を視覚的に伝えるため、特別展の期間中、天気と入館者数に応じて1日1層ずつ地層をため続ける実験を行った。本ミニ企画展示では、この実験で作った地層を紹介し、この地層を読み解きながら特別展の期間中どんなことが起こったのかを振り返った。

[開催期間] 2017年11月17日～2017年12月3日

[担当] 石浜佐栄子、田口公則

生命の星・地球博物館 7つの“逸品”

—70万点以上の収集資料、

その一部を特別公開！—

[展示内容] 自然史標本は、生物がそこで生きていた証拠であり、大地の生い立ちを解明する手がかりであり、地球の一部である。当博物館では、収集した標本を採集地などの付帯情報とともに登録し、研究や展示に活用できるよう将来にわたって保管している。2016年度までに登録された標

本・画像等は70万点を超え、どれもが貴重な“家宝”といえる。本展示では、その中から面白いエピソードをもつ標本7点を特別に収蔵庫から出し、期間限定で紹介した。

・シーボルトが日本で採集したカニ

・昭和天皇が採集したカニを描いた細密画(12月14日および21日に展示物の入れ替え)

・一尾しか見つからない魚

・これから研究されるのを待つ魚

・天然記念物になったサル化石

・学芸員が深海で採集したサメの歯

・学術上最も貴重なナメコの絵

[開催期間] 2017年12月6日～2017年12月27日

[担当] 石浜佐栄子、瀬能 宏、佐藤武宏、樽 創、山下浩之、折原貴道

『里蜂—さとばち—』古民家とハチはともだち

[展示内容] 本年2017年に県内随一の古民家の保存施設である川崎市立日本民家園が、開園50周年を迎えた。この記念すべき年にあわせて、生命の星・地球博物館の学芸員とボランティアによる調査隊が、川崎市立日本民家園と川崎市青少年科学館の協力を得て、敷地内の建造物に住む里蜂を調査した。その結果、都市部に囲まれた地域であるにもかかわらず、驚くほど多種多様なハチたちが生き残っていることが判明した。本展示では、調査で得られたハチの標本と新発見を展示し、古民家とハチ、双方の切り口から里山の自然を紹介した。

[開催期間] 2018年1月11日～2018年4月8日

(好評につき期間延長した)

[担当] 渡辺恭平

2.1.5. トータルサイン計画

開館より 20 数年が経過し、当初に設置したサインは、経年劣化してきた。また、その後に追加されたサインは、規格等の不統一性など、必ずしも来館者にとって利用しやすいものではない状況が生じてきた。

そこで、来館者にわかりやすいデザイン構築を目指し、2017 年度より「トータルサイン計画」として、主に誘導サイン等の改善および更新、整備をすすめた。

更新・整備したサイン

場所	内容
館内エントランスホール南側階段周り（1～3階）	階数表示、フロア案内の新設
屋外、博物館入口歩道橋下	大看板のリニューアル（館内看板サインボード 12）



2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2017年度は特別展を1回、企画展を1回開催した。

2.2.1. 特別展

特別展 地球を「はぎ取る」

～地層が伝える大地の記憶～

[開催期間] 2017年7月15日(土)～11月5日(日)

103日間

[会場] 特別展示室

[後援] 神奈川新聞社、テレビ神奈川、一般社団法人日本地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、日本ペドロジー学会、箱根ジオパーク推進協議会

[協力] 農研機構・農業環境変動研究センター

[展示担当] 石浜佐栄子、山下浩之、新井田秀一、笠間友博、田口公則、大島光春

[資料点数] はぎ取り・型取り・切り取り標本39点(期間限定展示を含む)、岩石・化石等35点、その他実験・映像等約20点

[展示内容] 地層の中には、過去の時の流れ、地震や火山噴火などの地質現象、堆積した場所に関してなど、様々な情報が記録されている。地層は、動植物や岩石鉱物などと異なり、標本として単純に収集することが難しいが、「地層はぎ取り」という技法を用いると、地層を原状のままはがし取って実物標本化し、保存することができる。

地層の中に秘められた大地の歴史や、地層の繊細な模様の美しさ、また「地層はぎ取り」技法を用いた標本収集とその意義について、「地層はぎ取り」標本を中心とした実物標本を通して分かりやすく紹介した。地層のでき方や地質現象の原理を理解するための実験展示やワークショップ、野外観察会や講演会等もあわせて実施した。

◎時の記憶(導入)

地層とはどのようなものであるかを紹介し、地層が時の流れを記録していることを伝える導入展示を行った。

【展示物】塩原層群宮島層(小型額入り)はぎ取り、相模層群の凝灰質砂層(トンネル型)はぎ取り、堆積岩標本13種、天気日縞の実験装置、はぎ取りTV動画

◎事件の記憶

地震、液状化、乱泥流、津波、火山噴火、人類の活動、境界事変など、地層は様々な地質現象を記録していることを紹介した。

【展示物】平山断層型取り、断層実験装置、鏡肌、液状化実験装置、液状化による噴砂脈はぎ取り(中井・高洲第三小・小田原城トレンチ)、砂泥互層はぎ取りと動画、津波堆積物はぎ取り、火山噴出物とはぎ取り(箱根東京テフラ・始良Tn・富士宝永スコリア)、K/Pg境界実物ブロック標本・スフェルール層・津波堆積物、杉田貝塚断面はぎ取り、河川地形実験模型

◎場所の記憶

深い海、浅い海、沿岸、陸上、河川、湖など、地層は堆積した場所の情報を記録していることを紹介した。

【展示物】犬山チャート型取り、チャート、放散虫模型、コンボリユートを含む千倉層群畑層はぎ取り、斜交葉理を含む小柴層はぎ取り、境川遊水地はぎ取りと実物標本、下原層はぎ取り、塩原層群宮島層(整然部)はぎ取り、水月湖コア、河岸段丘礫層はぎ取り、砂浜海岸のはぎ取り、三保松

原土壌と松の根のはぎ取り、土壌のはぎ取りやブレパレート

◎現場の記憶

地層はぎ取り技法をはじめとした、現場を保存する手法や、それらの標本や情報を保存していくことの意義について紹介した。

【展示物】御用米曲輪はぎ取り、真鶴岬はぎ取り & レプリカ、マガキのブロック標本、鉄仮面、はぎ取り作業に仕様する道具や3D写真・動画など

◎今月のはぎ取り標本（床置き展示）

エントランスホールを使って、普段巻いて保存してある地層はぎ取り標本を床に大きく広げ、間近に観察できるようにするとともに、はぎ取り標本の形状や保存形態について紹介した。

【展示物】Km-3 テフラはぎ取り（7/12-8/11）、国府津-松田断層はぎ取り（8/12-9/10）、杉田東漸寺貝塚自然貝層はぎ取り（9/13-10/9）、塩原層群宮島層（乱堆積部）はぎ取り（10/12-11/5）

〔特別展図録〕 2017年7月14日発行、108pp.

編集：山下浩之・石浜佐栄子

執筆：石浜佐栄子・笠間友博・田口公則・

大島光春・山下浩之

表紙デザイン：本杉弥生

キャラクター：加藤恵美

〔ポスター・チラシ・招待券〕

本杉弥生（デザイン）

〔入場者数〕 56,414人

〔関連行事〕

◎関連ワークショップ「地層バイキング〜ホットメルトで地層はぎ取り体験」

《日時》 2017年7月17日（月・祝）13時～15時、

8月13日（日）10時～12時および13～15時、

8月16日（水）10時～12時および13～15時、

8月17日（木）10時～12時および13～15時、

9月24日（日）13時～15時

《場所》 当館実習実験室

《講師》 笠間友博ほか

《参加者数》 各日90名、140名、157名、227名、128名

◎ワンポイント展示解説

《日時》 2017年7月16日（日）、8月6日（日）、9月3日（日）、10月1日（日）、11月5日（日）

各日とも11時～、13時15分～の1日2回

《場所》 当館特別展示室

《講師》 笠間友博、石浜佐栄子、田口公則

《参加者数》 各日34名、73名、40名、24名、101名

◎講座「しましま地層のナゾをとく」

《日時》 2017年8月11日（金・祝）10時～12時

《場所》 当館実習実験室、特別展示室

《講師》 石浜佐栄子

《対象》 小学4～6年生

《参加者数》 20名

◎講座「先生のための地層学入門」

《日時》 2017年8月12日（土）10時～12時

《場所》 当館実習実験室、特別展示室

《講師》 石浜佐栄子

《対象》 教員

《参加者数》 12名

◎講座「秋の地形地質観察会」

《日時》 2017年9月18日（月・祝）

《場所》 山北町～南足柄市

《講師》 石浜佐栄子・山下浩之

《対象》 小学4年生～成人

※荒天のため中止

◎講演会

《日時》 2017年9月9日（土）13時30分～15時30分

《場所》 当館講義室、特別展示室

《講師》 清家弘治（東京大学大気海洋研究所）

《演題》 はぎ取り試料から明らかにする古生物の行動

《講師》 石浜佐栄子

《演題》 地層はぎ取り標本の作り方

《参加者数》 37名

- ◎サロン・ド・小田原（友の会との共催）
 《日時》2017年9月30日（土）14時～16時20分
 《場所》当館講義室、展示室
 《講師》森山哲和（考古造形研究所）、平田大二（当館館長）
 《演題》地球の現場の保存と再現
 なぜ、地層をはぎ取るのか
 —芸術と地質学のコラボレーション—
 《参加者数》41名
- ◎公開シンポジウム「“はぎ取り”で保存する
 —土壌、遺跡、地層の世界—
 《日時》2017年10月21日（土）13時～16時20分
 《場所》当館ミュージアムシアター
 《話題提供》大倉利明（農研機構・農業環境変動研究センター）、橋口 豊（横浜市歴史博物館）、森山哲和（考古造形研究所）、笠間友博、田口公則（司会）
 《参加者数》80名

- ◎地話懇話会（友の会関連行事）
 《日時》2017年8月23日（水）15時～16時30分
 《場所》当館講義室、特別展示室
 《講師》石浜佐栄子
 《対象》友の会会員
 《参加者数》33名
- ◎大磯丘陵の地質を巡る（野外観察会）（友の会関連行事）
 《日時》2017年10月15日（日）
 《場所》二宮町周辺
 《講師》石浜佐栄子、山下浩之
 《対象》友の会会員
 ※荒天のため中止
 [新聞連載] 神奈川新聞の紙面にて「大地の記憶
 神奈川の地層をはぐ」と題して、全8回の連載を行った。

2.2.2. 企画展

- 企画展 レッドデータの生物
 —知って守ろう 神奈川の生き物たち—
 [開催期間] 2017年12月16日（土）～2018年2月25日（日）47日間
 [会場] 特別展示室
 [後援] 環境省関東地方環境事務所、神奈川新聞社
 [協力] 県環境農政局緑政部自然環境保全課、神奈川県植物誌調査会
 [資料借用] 箱根町立郷土資料館、鎌倉市図書館、藤沢市文書館、横浜開港資料館
 [展示協力] 加賀玲子、木村洋子、高橋理恵、石原龍雄、Jonathan Agar、当館両生爬虫類ボランティア
 [展示担当] 松本涼子、鈴木 聡、瀬能 宏、田中徳久、佐藤武宏、加藤ゆき、苅部治紀、大西 亘、折原貴道、渡辺恭平、勝山輝男、広谷浩子
 [資料点数] 標本229点、模型2点、印刷物6点、解説パネル31点

- [展示内容] 当館では、神奈川県内の動植物の生息状況を調査し、絶滅の危険性を種ごとにランク付けしたレッドデータブックを、他の都道府県に先駆けて1995年に出版した。近年改訂された2006年版レッドデータブックに掲載された野生動植物は1,662種に上る。しかし、生物を取り巻く環境は刻一刻と変化し続けているため、3回目の調査が必須であり、現在改訂に向けた準備が神奈川県によって進められている。この展示では、過去から現在まで県内外のレッドデータブック作成の取り組みを広く紹介することにより、この活動の重要性について普及を図った。

- ◎レッドデータブックができるまで
 神奈川県における生物多様性の現状やその保全の必要性を紹介した上で、保全のために必要なレッドリスト・レッドデータブックの歴史、およびこれらが作成されるまでのプロセスをパネル解説

および様々な団体が発行するレッドデータブックの展示で紹介した。

◎神奈川のレッドデータ種

神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 に掲載されている種の生息状況、生息環境、保全の現状等を分類群ごとに標本や模型で紹介した。

◎レッドデータ生物を守るために

保全活動の現場におけるレッドデータブックの活用例をパネル解説で紹介した。

◎レッドデータブックの改訂に向けて

現在進められているレッドデータブックの改訂作業の内容や課題をパネル解説で紹介した。

◎地図上で探そう絶滅種・絶滅危惧種の生息地

4 m 四方の神奈川県の地図上に絶滅種および絶滅危惧種のアイコンを表示し、これらの生息環境を示す展示を行った。

◎神奈川の今と昔

スライドショーで過去の神奈川県の自然環境を紹介した。

◎こどもワークショップコーナー

こどもを対象として、レッドリストに掲載された動植物を認識してもらうための普及コーナーを設けた（レッドデータすごろく）。

◎情報コーナー

神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 に掲載されている生物の分類群およびカテゴリーごとの集計表を展示したほか、「あなたが見かけたレッドデータ生物を地図上に貼ってみよう」と題した地図を用意し、来館者からレッドデータ生物の生息情報を募った。また、神奈川県等が作成した生物多様性に関するパンフレットの配布を行った。

《ポスター・チラシ》植松美月（神奈川県立産業技術短期大学校産業デザイン科 2 年）

《入場者数》 25,734 人

《関連行事》

◎講座 レッドデータの生物を描く～プロに学ぶサイエンスイラストレーション講座～

《日時》 2018 年 2 月 25 日（日）10 時 30 分～16 時

《場所》 当館実習実験室

《講師》 菊谷詩子 氏（サイエンスイラストレーター）、松本涼子

《参加者数》 11 名

◎サロン・ド・小田原

《日時》 2018 年 1 月 20 日（土）14 時～15 時 30 分

《場所》 当館講義室

《講師》 須田真一（中央大学保全生態研究室研究員）

《演題》 希少昆虫の保全現場最前線ーレッドリストが救うものー

《参加者数》 41 名

[新聞連載] 2018 年 1 月 12 日（金）より、毎週金曜日（第 6 回のみ木曜日）の神奈川新聞の紙面にて「知ってほしい レッドデータ」と称して連載を行った。当館学芸員がレッドデータブックの内容や役割について執筆した。

・第一回

《連載日》 2018 年 1 月 12 日（金）

《題目》 「絶滅危惧」を示す赤

《執筆》 瀬能 宏

・第二回

《連載日》 2018 年 1 月 19 日（金）

《題目》 数値が物語る深刻さ

《執筆》 瀬能 宏

・第三回

《連載日》 2018 年 1 月 26 日（金）

《題目》 水田で進行する危機

《執筆》 鈴木 聡

・第四回

《連載日》 2018 年 2 月 2 日（金）

《題目》 山地で進む森林消失

《執筆》 田中徳久

・第五回

《連載日》 2018 年 2 月 9 日（金）

《題目》 リストを保全に活用

《執筆》 苅部治紀

・第六回

《連載日》2018年2月15日（木）

《題目》改訂作業に託す思い

《執筆》松本涼子

2.3. その他の展示

2.3.1. 子ども自然科学作品展

[開催期間] 2018年3月17日（土）～5月6日（日）

開催日数 43日（2017年度内は12日）

[会場] 1F 特別展示室

[企画担当] 石浜佐栄子（企画普及課）

[展示担当] 小宮孝俊、加藤淑和、中村俊文、
高橋綾子、山田茂広（学習指導員）

[入場者数] 11,588人（3月31日までは4,043人）

[内容] 児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みを支援・奨励して発展させることを目的に、自然科学分野における研究作品（夏休みの自由研究など）を当館に集めて、分野ごとに展示を行った。

募集は県西地区の公立小・中学校に対して行い、

24校69名の児童・生徒による69点の作品が寄せられた。内訳は小学校14校39点、中学校10校30点、また分野別でみると動物15点（昆虫を除く無脊椎動物7点、魚類5点、鳥類1点、複合2点）、昆虫15点、植物24点、菌類3点、地学6点、地球環境5点、古生物1点であった。各校教諭の指導・協力により選考されたものである。

すべての作品には当館学芸員からの講評コメントを添えて、児童・生徒の取り組みを支援、奨励を図った。また「交流会」を開催して、児童・生徒と学芸員が、質問や助言などを直接交わせる場とした。

2.3.2. 子ども自然科学作品展交流会

[日時] 2018年3月17日（土）

[会場] 1F 東側講義室および特別展示室

[参加者数] 85人（小学生出品者26人、
中学生出品者5名、保護者・教員等54人）

[内容] 作品展初日に、出品した児童・生徒及び保護

者を含む関係者と当館学芸員とが直接交流できる場を設けた。当館館長の挨拶、企画普及課長の講評の後、特別展示室に場所を移し出品者と学芸員が懇談した。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像）を上映している。また、学会や講演会開催時においては主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011年4月1日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

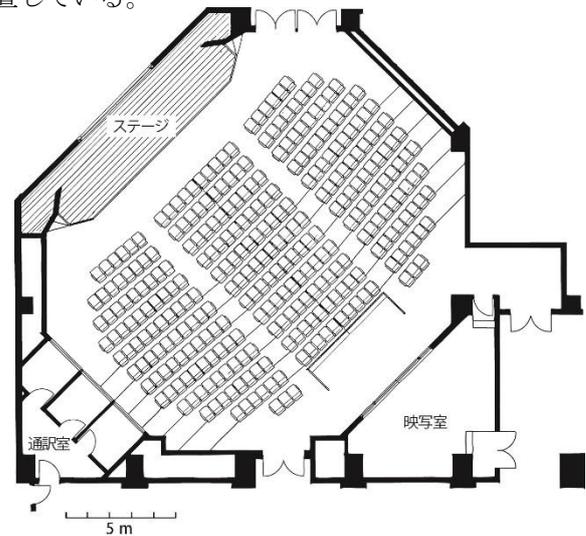
2.4.1. シアターの概要

座席は 308 席。車椅子用のスペースは 5 席。中央部にある 115 席（車椅子用 5 席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の 5 選択押しボタンスイッチを設置している。

照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

なお、映像機器については 2013 年にデジタルハイビジョン対応機器に更新した。音響機器については 2016 年に更新した。



シアター見取り図

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を 3 本と、インタラクティブ・クイズ映像を 1 本の計 4 種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2 本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は 15 分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013 年 8 月 3 日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって世界に紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は 20 分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」、「動物の親子」の 6

種類である。最初に、どのテーマを行いたいのか来館者が選択し、1位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。

	選択者数	選択率	選択により1位になった数＝上映回数													上映割合	
			合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	地球は生きている	4,059	15.4%	37	1	4	0	4	3	5	2	3	3	5	1	6	6.7%
2	植物は変身の天才だ！	2,538	9.6%	12	1	1	0	5	1	0	0	1	0	0	0	3	2.2%
3	魚のサバイバル	7,398	28.1%	227	18	15	19	24	45	18	22	16	9	13	12	16	41.0%
4	動物の足跡捜査隊	6,879	26.1%	191	17	20	7	20	34	9	13	14	13	11	11	22	34.5%
5	ヒトの謎を科学する！	5,460	20.7%	86	5	10	4	15	16	6	5	1	2	7	6	9	15.5%
6	動物の親子	35	0.1%	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2%
	合計	26,369	100.0%	554	42	50	30	68	99	38	42	35	27	36	30	57	100.0%

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

学校休業期と重なる多客期（2017年4月1日～5日、4月29日～5月7日、7月15日～8月31日、2018年3月24日～31日）についてはインタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

SEISA ミュージアムシアター上映プログラム

通常期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:00～13:20	インタラクティブ・クイズ映像
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

多客期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	12:30～12:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:30～13:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:15	生命の星・地球 生命の輪舞
15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根	

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像およびインタラクティブクイズの通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。

2.5. ミューズ・フェスタ 2018

「開かれた博物館」としての活動の充実といっそうの発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などととも、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を 2002 年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

[日時] 2018 年 3 月 10 日(土)、11 日(日)の 2 日間
[場所] 特別展示室、講義室、実習実験室、SEISA ミュージウムシアター他
[運営体制] 小田原市入生田自治会、小田原市郷土文化館、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

[関連会議] ミューズ・フェスタ 2018 実行委員会
2017 年 10 月 19 日(木) 西側講義室
参加団体の確認と各団体の取り組み、開催までのスケジュールなど

2.5.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー

[日時] 3 月 10 日(土) 9 時 30 分～10 時
[場所] SEISA ミュージウムシアター
[内容] フェスタ 2018 の開催を祝って、地元の「入生田山神社子供祭囃子」によるお囃子。

[日時] 3 月 11 日(日) 11 時～11 時 30 分

[場所] 講義室
[内容] バイオリンを中心とした室内アンサンブル。

2. 童謡合唱

[日時] 3 月 10 日(土) 11 時～11 時 30 分
[場所] SEISA ミュージウムシアター
[内容] クレヨンの森保育園の園児たちによる合唱。

6. 子ども自然科学ひろば

[日時] 3 月 10 日(土)・11 日(日) 10 時～12 時
／13 時～15 時

[内容] 気軽に参加できる楽しいプログラム。
・「ミクロな世界を記念撮影」特別展示室
[内容] 小さな標本やモノの一部をデジタル顕微鏡で拡大観察。撮った写真をプレゼント。

3. 歌う仲間カンツォーネクラブとエーデルワイス

[日時] 3 月 10 日(土) 13 時 40 分～14 時 50 分
SEISA ミュージウムシアター
[内容] 地元コーラスグループの合唱。

・「のぞいてみよう！ちっちゃな世界」特別展示室

[内容] 昆虫の目や足、魚のうろこ、カビやキノコなどを実体顕微鏡で拡大して観察。

4. 小田原フィルハーモニー交響楽団【弦楽合奏】

[日時] 3 月 10 日(土) 14 時～15 時
[場所] 講義室
[内容] 小田原の市民オーケストラメンバーによる合奏。

・「昆虫の切り絵を作ろう！」特別展示室

[内容] いろいろな虫たちを切り絵で作る。

・「くらべてみよう！動物の手足」特別展示室

[内容] はく製や模型をさわって、動物たちの手足を比べる。

5. 大井室内合奏団 ～アンサンブル花音～

・「地層バイキング」実験実習室

[内容] ホットメルトで地層はぎとり体験。

・「折り紙ひろば ～恐竜をつくろう～」講義室

[内容]折り紙教室と折り紙作品の展示とプレゼント。

・小田原市郷土文化館「むかしの人と動物たち」特別展示室

[内容] 出土した動物の骨や、動物が描かれた土器を見ながら、昔の人と動物の関わりを考える。

・友の会コーナー 特別展示室

[内容] 活動の紹介、20周年PR、きのこのスタンプ、どんぐり人形作りなど。

12. ともしびショップ「喫茶 あーす」

[日時] 3月10日(土)・11日(日)

[内容] 2日間限定メニュー「ホットドッグとアイスドッグ」を販売。

7. 入生田自治会習字作品展

[日時] 3月10日(土)・11日(日) 9時～16時30分／9時～15時

[場所] 3F 東側ラウンジ

[内容] 箱根ジオパークに関連したお題で、地域の子ども達が書いた作品を展示。

8. 地元入生田物産コーナー

[日時] 3月10日(土)・3月11日(日) 9時～13時

[場所] エントランスホール

[内容] 地元の畑で収穫された野菜などを直売。

9. 手作り玩具などの販売コーナー

[日時] 3月10日(土)・11日(日) 10時～12時、13時～15時

[場所] エントランスホール

[内容] 手工芸の玩具などを販売。

10. ミュージアムショップ

[日時] 3月10日(土)・11日(日)

[内容] 700円以上お買い上げの方(書籍・宙瞰図を除く)に、オリジナルグッズを進呈。

11. レストラン「フォーレ」

[日時] 3月10日(土)・11日(日)

[内容] 全メニュー10%割引し、その場で当たるスピードくじを実施。

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館を支える学芸員は、県内はもとより、国内外のシンクタンクとして様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的には当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。しかし、記録の困難性から取り上げなかった活動も多い。2017年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて、Ⅲ 資料の項(115～123ページ)に成果報告書を掲載した。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究3テーマ、個別研究20テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

勝山輝男・田中徳久・大西 亘・神奈川県植物誌調査会：最新版「神奈川県植物誌」の編纂・刊行のための植物相調査

田口公則・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子・大島光春・樽 創・河尻清和・柴田健一郎・野崎 篤・山口珠美・高橋直樹・川手新一：現代的な視点による神奈川県地質史の構築

折原貴道・大坪 奏・出川洋介：『入生田菌類誌資料第2巻』刊行に向けた菌類調査

個別研究

瀬能 宏：相模湾およびその隣接海域における魚類の分類および生物地理学的研究

広谷浩子：水辺の哺乳類相をもとにした早川水系の環境評価

苅部治紀1：神奈川県で確認された侵略的外来種ムネアカハラビロカマキリの現状

苅部治紀2：神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大について 4

佐藤武宏：導入種サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* がイボキサゴ *Umbonium moniliferum* に与えた影響について

加藤ゆき：神奈川県におけるサギ類集団営巣地の現状

渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究

(II)

松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物の首の運動機能の進化

鈴木 聡：神奈川県哺乳類相調査

田中徳久：神奈川県維管束植物相の長期的モニタリングとその変遷

大西 亘：博物館収蔵資料と引用研究成果における相互参照システムの実践的構築

折原貴道：「空飛ぶ地下生菌仮説」の検証-無性胞子に着目した、トリュフ型菌類の島嶼系統地理

樽 創：神奈川県産新生代脊椎動物化石チェックリスト(平成29年度まで)

大島光春：東アジアにおけるトガリネズミ類(真無盲腸類)化石の分類学的研究(2)

田口公則：南関東域の新生代貝類化石群の概要 — 足柄層群産の貝化石 —

笠間友博：神奈川県東部三浦半島に分布する箱根三色旗テフラの層位的意義

新井田秀一：デジタル標高モデル(DEM)や地球観測衛星画像を用いた神奈川の地形解析

山下浩之：輝石地質温度計による箱根火山後期中央火口丘溶岩のマグマ温度解析

石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔虫を用いたメタン湧出イベントの検出と日本海の古海洋環境の復元

大坪 奏：今関コレクションのアーカイブ・システム

の確立

3.2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成金をはじめ、外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者(研究代表者を除く当館の分担者*、連携研究者**または研究協力者***)：研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、Ⅲ 資料の項(123～126 ページ)に掲載した。

3.2.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究 (A) 海外学術調査

折橋裕二(平田大二**):プレート境界沈み込みに伴う南部チリ弧火成作用の多様性とマグマ生成過程の全容解明

基盤研究 (B)

鈴木寿志(田口公則*):変動帯の文化地質学

基盤研究 (B) 海外学術調査

滝川祐子(瀬能 宏**):スウェーデンの Vega 号資料に基づく明治初期の日本研究と琵琶湖環境の復元

基盤研究 (C)

佐藤武宏(田口公則*):学校・幼稚園の先生を自然観察の名人にする学習プログラムの開発研究

加藤ゆき(広谷浩子*・大島光春*・大坪 奏*):外来生物問題を教える博物館-動物園ネットワークの構築に関する研究

山下浩之:地球を理解するための岩石観察プログラムの開発

大島光春(田口公則*・加藤ゆき*・石浜佐栄子*):博物館体験の向上をめざす展示解説手法の研究-自然史博物館でおこなう UXD の試み-

松本涼子:後頭部の形態から読み解く四肢動物の頸の運動機能の進化

田中徳久(勝山輝男*):博物館資料の潜在的価値の

顕在化-海を渡った植物標本からの生物多様性情報の発掘-

広谷浩子(加藤ゆき*):博物館で「自然財」をまもる-哺乳類標本の作製技術・情報管理の体系化と継承-

田上 響(松本涼子*):脊椎動物における嘴の機能と進化

大和政秀(折原貴道*):日本国内の林地にみられるアーバスキュラー菌根菌群集に関する研究

甲能直樹(樽 創**):テチス獣類の歯のテクスチャーと安定同位体から見た水中索餌という環境適応戦略

大脇 淳(渡辺恭平***):林業サイクルが保持する生物多様性の解明-植林地と自然植生の遷移系列の比較-

若手研究 (B)

折原貴道:空飛ぶ地下生菌仮説の検証-菌類の分生子に着目した、島嶼系統地理の新たな展開

渡辺恭平:菌食性昆虫捕食寄生蜂の多様性と寄生蜂-キノコ相互作用系の解明

大西 亘:博物館収蔵資料と引用研究成果における相互参照システムの実践的構築

大坪 奏:自然史博物館に残された絵画資料「標本画」の活用と共通課題克服のための実践的研究

3.2.2. 各種助成金による研究

国立科学博物館総合研究費

中江雅典(瀬能 宏*)：日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究：奄美大島およびその近海に出現する魚類の多様性の解明と日本産固有魚類目録の作成

藤原ナチュラルヒストリー振興財団

松本涼子：爬虫類の水生適応と収斂進化：インドガビアルの捕食様式の特異化と形態進化について

第27期プロ・ナトゥーラ・ファンズ助成

折原貴道：伊豆諸島の地下生菌はいつ、どこからやってきたのか-共生菌類相に着目した、海洋島の森林保全へのアプローチ

発酵研究所 一般研究助成

折原貴道：昭和期に記載された稀産シクエストレート菌の実体解明と保全対策の再検討

笹川科学研究助成

笠間友博：剥ぎ取り標本作製体験を活用する教育プログラムの開発～地層・岩石学習深化をねらって～

全国科学博物館振興財団

石浜佐栄子(山下浩之***・田口公則***・大島光春***)：地球の現象を体感する新しい展示の実践的研究～地層の実物標本とハンズオン実験を軸に～

多摩・島しょ広域連携活動助成

樽 創：多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト

国立科学博物館コレクション・ビルディング・フェローシップ

田中伸幸(大西 亘*・勝山輝男*)：アジア産カヤツリグサ科スゲ属標本のコレクション・ビルディング

3.3. 著作活動・学会発表等

平田大二(ひらた だいじ) 地学(鉱物)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

平田大二, 2017. 対話と連携による持続可能な公立直営博物館の運営を目指して. 全科協ニュース, 47(5): 5-6.

[普及的著作等]

日本地質学会編著(平田大二ほか11名分担執筆), 2017. はじめての地質学—日本の地層と岩石を調べる. ベレ出版, 247pp.

[学会発表等]

平田大二, 2017年9月18日, 神奈川県三浦半島に分布する田越川砂礫岩層の礫種の再検証. 日本地質学会第124年学術大会愛媛大会, 国立大学法人愛媛大学, 松山市.

藤岡換太郎・平田大二・高橋直樹・柴田健一郎・西川徹及びK0-OH0-0メンバー, 2017年9月18

日, 相模湾とその周辺の海底谷の成因—伊豆弧北端のテクトニクス序説—. 日本地質学会第124年学術大会愛媛大会, 国立大学法人愛媛大学, 松山市.

瀬能 宏(せのう ひろし) 動物学(魚類)

[論文]

Gill, A. C., Y.-K. Tea and H. Senou, 2017. *Pseudanthias tequila*, a new species of anthiadine serranid from the Ogasawara and Mariana islands. *Zootaxa*, 4341(1): 67-76.

Han, S.-Y., J.-K. Kim, Y. Kai and H. Senou, 2017. Seahorses of the *Hippocampus coronatus* complex: taxonomic revision, and description of *Hippocampus haema*, a new species from Korea and Japan (Teleostei,

- Syngnathidae). *ZooKeys*, 712: 113-139.
- Gill, A. C., Y.-K. Tea and H. Senou, 2017. *Navigobius kaguya*, a new species of ptereleotrine goby (Teleostei: Gobiidae) from the West Pacific. *Zootaxa*, 4347(2): 371-380.
- 藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之, 2017. ハタ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. *魚類学雑誌*, 64(2): 121-129.
- 酒井 卓・瀬能 宏・加納光樹, 2018. 東京湾におけるガンテンイシヨウジ *Hippichthys penicillus* の採集記録と北限個体群の確立の可能性. *生物地理学会会報*, 72: 5-10.
- Tashiro, S., H. Senou and H. Motomura, 2018. *Enneapterygius velatus*, a new deepwater triplefin (Perciformes: Tripterygiidae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. *Ichthyological Research*, <https://doi.org/10.1007/s10228-018-0617-8>.
- 山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤柊也・酒井卓・瀬能 宏, 2018. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 18 種: 近年における暖水性魚類の北上傾向について. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (47): 35-57.
- 崎山直夫・瀬能 宏・山崎哲也, 2018. 相模湾で初記録となるツルギエチオピア (スズキ目シマガツオ科) について. *神奈川自然誌資料*, (39): 81-86.
- 三井翔太・瀬能 宏, 2018. 相模湾から得られた北限記録のテンジクタチ. *神奈川自然誌資料*, (39): 87-91.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura, 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, (52): 1-157.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 瀬能 宏, 2017. 死滅回遊魚: 地球温暖化の代弁者? 日本海洋学会編, 海の温暖化: 変わりゆく海と人間活動の影響, pp. 106-107. 朝倉書店, 東京.
- 瀬能 宏, 2018. メガマウスザメ科. 中坊徹次編, 小学館の図鑑 Z: 日本魚類館, pp. 18-19. 小学館; シヤチブリ科, *ibid.*, pp. 144-145; ホタテエソ科, *ibid.*, p. 150; アカナマダ科, *ibid.*, p. 154; フリソデウオ科, *ibid.*, pp. 154-155; リュウグウノツカイ科, *ibid.*, p. 155; カエルアンコウ科, *ibid.*, pp. 168-169; ボラ科, *ibid.*, pp. 190-191; トウゴロウイワシ科, *ibid.*, p. 191; アジ科 (シマアジ属, カイワリ属, メアジ属, オニアジ属, アイブリ属, ギンガメアジ属, ヨロイアジ属, イケカツオ属, ツムブリ属, コバンアジ属, オキアジ属, ブリモドキ属, イトヒキアジ属, クロアジモドキ属), *ibid.*, pp. 260-265; ヒイラギ科, *ibid.*, p. 268; イサキ科 (コロダイ属, コシヨウダイ属), *ibid.*, pp. 280-281; ヒメツバメウオ科, *ibid.*, pp. 300-301; テッポウウオ科, *ibid.*, p. 301; キンチャクダイ科, *ibid.*, pp. 306-307; シマイサキ科, *ibid.*, p. 318; ヌゴイ科, *ibid.*, p. 319.
- [普及的著作等]
- 瀬能 宏, 2017. ニタリの尾は鞭か刀か? マリンダイビング, 49(6): 65.
- 瀬能 宏, 2017. ヘビがヘビを食う マリンダイビング, 49(8): 29.
- 瀬能 宏, 2017. 他人の空似 マリンダイビング, 49(10): 68.
- 瀬能 宏, 2017. 友の会と博物館との連携を考え

- る. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会 20 周年記念誌編集委員会編, 友の会で語る博物館の楽しみ方: 博物館友の会 20 周年記念誌, pp. 140-141. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 小田原.
- 瀬能 宏, 2017. ハナタツという名前の周辺. マリンダイビング, 49(12): 49.
- 瀬能 宏, 2018. タスクフィッシュの歯の秘密. マリンダイビング, 50(2): 71.
- 瀬能 宏, 2018. 知って欲しいレッドデータ (1). 「絶滅危惧」を示す赤. カナロコ (www.kanaloco.jp/article/303336); 神奈川新聞 1 月 12 日付け朝刊.
- 瀬能 宏, 2018. 知って欲しいレッドデータ (2). 数値が物語る深刻さ. カナロコ (<http://www.kanaloco.jp/article/305057>); 神奈川新聞朝刊.
- 瀬能 宏, 2018. 装いとは裏腹に. マリンダイビング, 50(4): 58.
- [学会発表等]
- 滝川祐子・藤田朝彦・川瀬成吾・瀬能 宏・細谷和海・吉野哲夫, 2017 年 6 月 3 日. スtockホルム及びパリに現存する標本から見た明治初期の琵琶湖の魚類研究史について. 本動物分類学会第 53 大会. 海洋研究開発機構横浜研究所, 横浜.
- 藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之, 2017 年 6 月 3 日. ハタ科イブハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. 日本動物分類学会第 53 大会. 海洋研究開発機構横浜研究所, 横浜.
- 瀬能 宏, 2017 年 6 月 4 日. 箕作佳吉に献名された生物. 2017 年度相模湾海洋生物研究会第 40 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.
- 三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭・星野和夫・小枝圭太・本村浩之・瀬能 宏, 2017 年 7 月 22 日. 東九州沿岸における散発性熱帯種の出現状況. 第 11 回水生生物勉強会, 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・本村浩之・瀬能 宏, 2017 年 7 月 22 日. 南九州海域から得られた絶滅危惧種ハタ科魚類カスリハタとその分布パターン. 第 11 回水生生物勉強会, 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター.
- Miki, R., A. Murase, M. Wada, K. Koeda, K. Hoshino, H. Motomura and H. Senou, 2017 年 8 月 23 日. Tropical marine fish aggregations along the eastern coast of Kyushu, Japan, northwestern Pacific Ocean, with an assessment of influence of the Kuroshio Current. The annual meeting of the Asian Society of Ichthyologists. University of Science, Ho Chi Minh.
- Motomura, H. and H. Senou, 2017 年 10 月 2 日-6 日. The Osumi Line: a newly recognized major biogeographical boundary line for fishes in southern Japan. 10th Indo-Pacific Fish Conference, Tahiti.
- 滝川祐子・藤田朝彦・川瀬成吾・瀬能 宏・細谷和海・吉野哲夫, 2017 年 9 月 16 日-17 日. Vega 号収集の日本産魚類: 海水魚. 2019 年度日本魚類学会年会, 函館.
- 藤田朝彦・川瀬成吾・瀬能 宏・細谷和海・吉野哲夫・滝川祐子, 2017 年 9 月 16 日-17 日. Vega 号収集の日本産魚類: 淡水魚. 2019 年度日本魚類学会年会. 北海道大学函館キャンパス, 函館.
- 川間公達・瀬能 宏・武藤望生・本村浩之, 2017 年 9 月 16 日-17 日. イソギンボ科タマカエルウオ属魚類ヤセタマカエルウオ *Alticus orientalis* Tomiyama, 1955 の有効性. 2019 年度日本魚類学会年会. 北海道大学函館キャンパス, 函館.
- 栗岩 薫・吉田朋弘・田代郷国・本村浩之・瀬能 宏, 2017 年 9 月 16 日-17 日. 日本最後の秘境

～ 火山列島（北硫黄島・硫黄島・南硫黄島）の魚類相と生物地理. 2019年度日本魚類学会年会. 北海道大学函館キャンパス, 函館.

瀬能 宏・上城拓也・本村浩之, 2017年9月16日-17日. 東シナ海とフィリピンから得られたチョウチョウオ科ゲンロクダイ属の1未記載種. 2019年度日本魚類学会年会. 北海道大学函館キャンパス, 函館.

村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏, 2018年2月17日. 宮崎県北部門川湾の図鑑出版プロジェクトの紹介と特筆すべき魚類相. 第29回魚類生態研究会広島大会. 国立江田島青少年交流の家, 広島県江田島市.

三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭・小枝圭太・星野和夫・本村浩之・瀬能 宏, 2018年2月18日. 東九州における熱帯性魚類の出現状況と緯度的・季節的差異の検討. 第29回魚類生態研究会広島大会. 国立江田島青少年交流の家, 広島県江田島市.

佐藤武宏（さとう たけひろ）動物学（無脊椎動物）

[論文]

Ng P. K. L., T. Komai and T. Sato, 2017. On the trail of a Japanese “ghost species – the identity of *Goniopugettia tanakae* Sakai, 1986, and the establishment of a new genus for *Pugettia sagamiensis* Gordon, 1930 (Decapoda, Brachyura, Epialtidae). *Crustacean Research*, 46: 133-152.

[普及的著作等]

佐藤武宏, 2017. 神奈川県立生命の星・地球博物館の広報の現状と展望. *科学EYES*, 59(1): 8-15

佐藤武宏, 2017. 日本の海の自然を詰め込んだ箱庭・相模湾. *自然科学のとびら*, 23(3): 22-23.

佐藤武宏, 2017. 『フィールドワークの達人』の思い出—博物館と友の会の「車の両輪」関係の象徴. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会20周年記念誌編集委員会編, 友の会で語る博物館の楽し

み方: 博物館友の会20周年記念誌, pp. 120-122. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 小田原.

加藤ゆき（かとう ゆき）動物学（鳥類）

[論文]

加藤ゆき・秋山幸也・重永明生, 2017. 神奈川県相模原市におけるナベヅルの越冬記録. *Binos*(24): 47-50.

望月藤子・加藤ゆき・守屋博文・宮地知之, 2017. 神奈川県立境川遊水地公園で死体拾得されたサンカノゴイ *Botaurus stellaris* の計測結果と胃内容物について. *Binos*(24): 41-45.

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2017. トキ. *自然科学のとびら*, 24(4): 25.

加藤ゆき, 2017. 神奈川県レッドデータブック2回目の改訂に向けて. *自然科学のとびら*, 24(4): 26-27.

[学会発表等]

加藤ゆき・秋山幸也・重永明生, 2017年9月16日-17日. 神奈川県で越冬したナベヅルの生息環境. 日本鳥学会2017年度大会. 筑波大学, 筑波.

加藤ゆき, 2017年11月3日. 神奈川県相模原市におけるナベヅルの越冬環境. 第16回BINOS研究発表会. かながわ県民センター, 横浜.

加藤ゆき・広谷浩子・大島光春・大坪 奏, 2017年11月25日. 博動連携で取り組む外来生物問題. 第58回日本動物園水族館教育研究会大阪大会. 大阪市自然史博物館, 大阪.

苅部治紀（かるべ はるき）動物学（昆虫類）

[論文]

Karube, H., & K. Tom, 2017. Two new species of the genus *Cephalaeschna* from northern Vietnam (Odonata: Aeshnidae). *Tombo*, 59: 61-70.

Toan, P. Q., K. Tom, H. Karube, F. HAYASHI,

2018. Synopsis of the Euphaeidae (Odonata: Zygoptera) of Vietnam, with descriptions of two new species of *Euphaea*. *Zootaxa* 4375(2): 151-190.
- Tom K., H. Karube, 2018. *Chlorogomphus canhvang* sp. nov. from Central Vietnam (Odonata: Chlorogomphidae), *Zootaxa* 4394(3): 437-442.
- 佐野真吾・菟部治紀・吉崎真司, 2018, 横浜市におけるミズカメムシ科の記録. 神奈川自然誌資料, (39): 47-49.
- 佐野真吾・菟部治紀・吉崎真司, 2018, 横浜市の止水域における水生昆虫の生息状況, 水生甲虫. 神奈川自然誌資料, (39): 51-60.
- 加賀玲子・川島逸郎・菟部治紀, ウマノオバチ *Eurobracon yokahamae* (Dalla Torre, 1898) (Insecta: Hymenoptera: Braconidae) の生活史, 特にその寄主について. 神奈川県立博物館研究報告自然科学, (47):59-66.
- 櫻井 博・菟部治紀・加賀玲子, ムネアカハラビロカマキリの非意図的導入事例—中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘—. 神奈川県立博物館研究報告自然科学, (47): 67-71.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 西原昇吾・菟部治紀, 2017. アメリカザリガニが水生昆虫に及ぼす影響と対策およびその効果. よみがえる魚たち, 恒星社厚生閣, pp. 40-44.
- 高橋清孝・長谷川政智・西原昇吾・菟部治紀・林 紀男, アメリカザリガニの繁殖阻止を目指す捕獲方法の検討. よみがえる魚たち, 恒星社厚生閣, pp. 61-67.
- 菟部治紀, 2017. 西表島からスナアカネを初記録. *Aeschna*, (53): 58.
- 菟部治紀・志賀眞紀子, 2017. 伊勢原市と平塚市におけるマエアカヒトリの記録. 神奈川虫報, (192): 34-35.
- 菟部治紀・加賀玲子, 2017. 神奈川県におけるウマノオバチの生息状況—おもに中西部での調査から—. 神奈川虫報, (193): 98-100.
- 末長春輝・菟部治紀・加賀玲子, 2017. 小田原市入生田においてヤナギハムシの生息を確認, 神奈川虫報, (193): 107-108.
- 菟部治紀, 2017. キバネツノトンボの道志川流域における採集例. 神奈川虫報, (193): 127.
- [普及的著作等]
- 菟部治紀, 2017. 身近な自然から見えてくるもの. 友の会通信, 21(3): 1-2.
- 菟部治紀, 2017. 甲虫コレクションガイド9 神奈川県立生命の星・地球博物館, SAYABANE N. S. (28): 30-32.
- 菟部治紀, 2017. トンボ類研究の現状と今後の展開, 昆虫と自然, 52(13): 4-7.
- 菟部治紀, 2018. 絶滅危惧種オガサワラハンミョウの域内、域外保全について. 国立公園, (760): 8-10.
- [学会発表等]
- 菟部治紀, 2017年11月12日. 2017年の大干ばつが小笠原の固有トンボに与えた影響. 日本トンボ学会滋賀大会, 滋賀県立琵琶湖博物館.
- 菟部治紀・北野 忠, 2017年11月26日. 大東諸島の水生昆虫の今 - 南大東島での壊滅的な激減 -. 日本甲虫学会第8回大会, ふじのくに地球環境史ミュージアム.
- 菟部治紀・碓井 徹・櫻井 博・松本和馬・加賀玲子, 2018年3月15日. 竹箒が犯人だった! ムネアカハラビロカマキリなど中国産外来昆虫の移入経路解明へ(口頭発表). 第65回日本生態学会, 札幌コンベンションセンター.

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類)

[論文]

- Tao Li, T., M-L. Sheng, K. Watanabe & Z-F. Guo, 2017. Discovery of the genus *Glyphicnemis* Förster in the Oriental Region (Hymenoptera, Ichneumonidae, Cryptinae). *ZooKeys*, 678: 129-137.

- Watanabe, K., 2017. A review of the genus *Homaspis* Förster, 1869 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Ctenopelmatinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 23(1): 33-35.
- Watanabe, K., 2017. Revision of the genus *Amphirhachis* Townes, 1970 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae), from Japan. ZooKeys, 685: 49-64.
- Watanabe, K., 2017. Discovery of the genus *Arenetra* Holmgren, 1859 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae), from Japan, with description of a new species. Japanese Journal of Systematic Entomology, 23(2): 181-183.
- Watanabe, K., 2017. Review of the Japanese species of genus *Odontocolon* Cushman, 1942 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Xoridinae) with simple middle tibia of female. Japanese Journal of Systematic Entomology, 23(2): 185-190.
- Watanabe, K. & M-L. Sheng, 2018. Taxonomic notes on *Exetastes fukuchiyamanus* Uchida, 1928 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae), with description of a new species from Japan and China. Zootaxa 4399(2): 281-288.
- Watanabe, K. & T. Taniwaki, 2018. Taxonomic study of the genera *Aptesisis* Förster, 1850, and *Javra* Cameron, 1903 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Cryptinae) associated with *Fagineura crenativora* (Hymenoptera, Tenthredinidae), with description of a new species. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (47): 73-84.
- 渡辺恭平・秋元 徹, 2018. ケンチビトガリヒメバチ *Polytribax penetrator* (Smith, 1874) (ハチ目、ヒメバチ科、トガリヒメバチ亜科) のチョウ目への寄生例. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) (47): 85-87.
- 渡辺恭平, 2018. 鹿児島県沖永良部島の調査で得られたハチ目昆虫. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) (47): 93-105.
- 渡辺恭平・川島逸郎・関 悦子, 2018. 川崎市立日本民家園で発見されたソボツチスガリ (ハチ目: ギングチバチ科) とその生息環境. 神奈川自然誌資料, (39): 61-66.
[著作・著書・調査報告書・資料等]
- 渡辺恭平・山根正気, 2017. 日本産カギバラバチ科についてのメモ. つねきばち (30): 1-26.
- 渡辺恭平, 2017. 日本産フシダカヒメバチ族 Ephialtini の同定資料 (2) (ヒメバチ科, ヒラタヒメバチ亜科) *Dolichomitus*, *Endromopoda*, *Sericopimpla* の各属. 神奈川虫報 (192): 22-33.
- 川島逸郎・渡辺恭平, 2017. 川崎市生田緑地でのベッコウクモバチの目撃記録. 神奈川虫報 (192): 42-43.
- 渡辺恭平, 2017. エゾマツフシヒメバチによるウスタビガへの寄生例について. 寄せ蛾記 (166): 23-24.
- 渡辺恭平・國生龍之介, 2017. 酒匂川の河原で採集した甲虫類. 神奈川虫報 (193): 53-54. 渡辺恭平, 2017. 小田原市でキバラハキリバチを採集. 神奈川虫報 (193): 100.
- 中島秀雄・渡辺恭平, 2017. 神奈川県湯河原町でキハダカノコを採集. 神奈川虫報 (193): 124.
- 渡辺恭平・青木真宏, 2017. クボミコンボウヤセバチ (和名改称) *Gasteruption oshimense* Watanabe, 1934 (ハチ目: コンボウヤセバチ科) のタイプ産地の確定と本州からの初記録. つねきばち (31): 19-21.
- 渡辺恭平, 2018. 日本産フシダカヒメバチ族 Ephialtini の同定資料 (3) (ヒメバチ科, ヒラタヒメバチ亜科) *Clistopyga*, *Exeristes*,

Liotryphon, *Tromatobia*, *Zaglyptus* の各属.
神奈川虫報, (195): 95-105.

渡辺恭平・田中徳久, 2018. 自然史博物館における資料の利活用の実情と課題. 神奈川県博物館協会会報, (89): 21-26.

川島逸郎・渡辺恭平・堀内慈恵・高梨沙織, 2018. 川崎市青少年科学館所蔵昆虫綱(膜翅(ハチ)目: 細腰亜目) 標本目録. 川崎市青少年科学館紀要, (28): 82-118.

[普及的著作等]

渡辺恭平, 2017. わたしの選ぶ “この一冊” 「日本産有剣ハチ類図鑑」. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信 95 号, 7.

渡辺恭平, 2017. 箱根の昆虫たち シリーズ⑥
ハンミョウ. 箱根を守る会会報 (15): 3.

渡辺恭平, 2017. 箱根の昆虫たち シリーズ⑦
ハコネアシナガコガネ. 箱根を守る会会報 (16): 3.

渡辺恭平, 2017. 投稿原稿を書く時に心がけてほしいこと(文章編). 花蝶風月(神奈川昆虫談話会連絡誌), 168: 3-5.

渡辺恭平, 2017. 箱根の昆虫たち シリーズ⑧
アサカミキリ. 箱根を守る会会報 (17): 3.

渡辺恭平, 2018. 古民家で暮らすハチたちを調べて. 自然科学のとびら, 24(1): 2-3.

渡辺恭平, 2018. 投稿原稿を書く時に心がけてほしいこと(図表編). 花蝶風月(神奈川昆虫談話会連絡誌), 168: 1-3.

[学会発表等]

渡辺恭平, 2018. 日本産 *Proclitus* 属(ヒメバチ科ハエヒメバチ亜科) の分類学的検討. 関東昆虫研究会第 1 回大会. 玉川大学(東京都) 2017 年 11 月 19 日.

松本涼子(まつもと りょうこ) 動物学(両生・爬虫類)

[論文]

Matsumoto, R. & S. Evans, 2018. The first record of albanerpetontid amphibians

(Amphibia: Albanerpetontidae) from East Asia. PLOS ONE 13(1): e0189767

Urano, Y., K. Tanoue, R. Matsumoto, S. Kawabe, T. Ohashi & S. Fujiwara. 2018. How does the curvature of the upper beak bone reflect the overlying rhinotheca morphology? Journal of Morphology.

<https://doi.org/10.1002/jmor.20799>

石原龍雄・松本涼子, 2018. 箱根町におけるモリアオガエルの分布とその移入経路について. 神奈川県自然誌資料, (39): 93-100.

[学会発表等]

松本涼子・Dong Liping・Wang Yuan・Susan E. Evans. 中国河北省の後期ジュラ紀の地層から発見されたほぼ完全なコリストデラ類について. 2018 年 2 月 3 日. 日本古生物学会第 167 回例会.

浦野雪峰・田上 響・松本涼子・河部壮一郎・大橋智之・藤原慎一. 薄片観察によって明らかになったりのクチバシ角質部の層構造. 2018 年 2 月 3 日. 日本古生物学会第 167 回例会.

松本涼子. コリストデラ類とローラシア大陸の淡水動物相. 2017 年 6 月 3 日. 化石研究会総会シンポジウム.

松本涼子. 久慈のコリストデラ類の重要性. 2017 年 10 月 7 日. 化石研究会公開シンポジウム.

Tanoue, K., Ohashi, T., Matsumoto, R., Fujiwara, S., Kawabe, S., Urano, Y., Zhao, Q. & You, H. 25 August, 2017. Distribution of kerationous beaks in basal ceratopsians from the Lower Cretaceous in China. Society of Vertebrate Paleontology, 77th Annual Meeting, Calgary, Canada.

Evans, S. & Matsumoto, R., 17 December, 2017, An enigmatic amphibian from the Early Cretaceous of Japan. Palaeontological Association 61st Annual Meeting, London, UK.

鈴木 聡 (すずき さとし) 動物学 (哺乳類)

[論文]

鈴木 聡, 2018. 神奈川県西部の狩川下流部におけるニホンイタチの生息状況. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (47): 89-92.

[普及的著作等]

鈴木 聡, 2017. 街中に残された哺乳類の貴重なすみか—河川敷—. 自然科学のとびら, 23 (2): 14-15.

鈴木 聡, 2017. ところ変われば友の会も変わる. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会 20 周年記念誌編集委員会編, 友の会で語る博物館の楽しみ方: 博物館友の会 20 周年記念誌, pp. 156-157. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 小田原.

鈴木 聡, 2017. 似てる? 似てない? 身近な里山の中型哺乳類たち. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 21 (1): 6-7.

鈴木 聡, 2018. 知って欲しいレッドデータ (3). 水田で進行する危機. カナロコ (<http://www.kanaloco.jp/article/306677>); 神奈川新聞朝刊.

鈴木 聡, 2018. わたしの選ぶ”この一冊” 「ゾウの時間ネズミの時間—サイズの生物学—」. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 21 (4): 7.

[学会発表等]

Suzuki, S., 14 July 2017. Intra- and interspecific variation of skull morphology in the two species of East Asian weasels (Symposium title: Diversity among Mustelidae: evolution, genetics, socio-ecology inform conservation in Asia and Far East). 12th International Mammalogical Congress. Perth, Australia.

Suzuki, S., H., Taru, K., Imaimatsu, M., Kuromaru, D., Koyabu, K.-Y., Eo and J. Kimura, 13-14 July 2017. The nuchal

ligaments in Carnivora. 12th International Mammalogical Congress. Perth, Australia.

鈴木 聡・樽 創・今井松健也・九郎丸正道・小藪大輔・Eo, Kyung-Yeon・木村順平, 2017年9月8日-11日. 食肉目における項靭帯. 日本哺乳類学会 2017 年度大会. 富山大学五福キャンパス, 富山.

金子弥生・鈴木 聡・渡辺茂樹, 2017年9月11日. 日本産中小型食肉目をめぐる保護管理上の諸問題: 哺乳類学会における作業部会設立の必要性. 日本哺乳類学会 2017 年度大会自由集会. 富山大学五福キャンパス, 富山.

広谷浩子 (ひろたに ひろこ) 動物学 (哺乳類)

[普及的著作等]

広谷浩子, 2017. 利用者による展示理解をすすめるには. 金属, 87: 596-599.

広谷浩子, 2018. 大型冷凍庫リニューアル ~「大整理」から得た指針とは?~ 自然科学のとびら, 24 (1): 6.

[学会発表等]

広谷浩子, 2017年11月5日. 日本人類学会人類学普及委員会集会, 人類進化を小学生に教えるには—博物館子ども講座と出張授業の実践から—, 東京大学理学部.

加藤ゆき・広谷浩子・大島光春・大坪 奏, 2017年11月25日. 第58回日本動物園水族館教育研究会大阪大会, 博動連携で取り組む外来生物問題. 大阪市自然史博物館.

田中徳久 (たなか のりひさ) 植物学 (植物生態)

[論文]

田中徳久, 2017. 神奈川県立生命の星・地球博物館の維管束植物標本の採集年と採取者. 博物館研究, 52 (8): 24-27.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久, 2017. ハーバード大学で見出したマキシモヴィッチが横浜で採集した基準標本に関する

る標本. 横浜植物会会報, 48(1). No pagination.

田中徳久, 2017. ケンペルが採集した植物標本. 第31回ケンペル・バーニー祭り. pp. 4-5. ケンペルとバーニーを讃える会, 箱根.

田中徳久, 2017. 多摩川河口のウラギク健在?! Flora Kanagawa, (84): 994-995.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2018. 神奈川県立生命の星・地球博物館の維管束植物標本の採集属性に基づいた構成. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (47): 23-33.

渡辺恭平・田中徳久, 2018. 自然史博物館における資料の利活用の実情と課題. 神奈川県博物館協会会報, (89): 21-26.

[普及的著作等]

田中徳久, 2017. 維管束植物標本の特筆すべきコレクション. 自然科学のとびら, 23(4): 31.

田中徳久, 2017. 友の会設立前夜、期待どおり? 期待はずれ?. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会20周年記念誌編集委員会編, 友の会で語る自博物館の楽しみ方—博物館友の会20周年記念誌—. pp. 13-15. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 小田原.

[学会発表等]

田中徳久・大西 亘・勝山輝男. 『神奈川県植物誌』のために市民が集めた標本のデータベース~50年間の地域植物相情報の蓄積~. 2018年3月8日(日)~10日(土), 日本植物分類学会第17回大会, 金沢歌劇座, 金沢.

大西 亘(おおにし わたる) 植物学(維管束植物)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大西 亘, 2018. 自然史系“地域”博物館の役割—神奈川県植物誌の事例から—. 神奈川県博物館協会会報, 89: 7-10.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2018. 神奈川県立生命の星・地球博物館の維管束植物標本の採集属性に基づいた構成. 神奈川県立博物館研究報告

(自然科学), 47: 23-33.

大西 亘・二俣 賢・芳村健治・藪本 学, 2017. 神奈川県立生命の星・地球博物館における酸化エチレンガスによるタバコシバンムシの殺虫施工事例. 文化財の虫菌害, 73: 14-19.

[普及的著作等]

大西 亘, 2017. 自然を楽しむ+α 本と、身近な生きもの調べと、博物館. ブンイチ, 2: 58-59.

大西 亘, 2017. 風祭のハナカザリゼリ(ホワイトレースソウ) 一年後. FLORA KANAGAWA, 84: 1007.

大西 亘, 2017. 地域自然史博物館のデジタル・アーカイブ - 概要 -. 自然科学のとびら, 23(3): 18-19.

大西 亘, 2018. 地域自然史博物館のデジタルアーカイブが目指すもの. 自然科学のとびら, 24(1): 4-5.

[学会発表等]

田中徳久・大西 亘・勝山輝男. 『神奈川県植物誌』のために市民が集めた標本のデータベース. 2018年3月8日. 植物分類学会第17回大会, 金沢歌劇座, 金沢.

大西 亘. デジタル・アーカイブがもたらす「博物館資料」×「引用先学術成果情報」間のクロスリファレンスの可能性. 2018年3月10日. デジタルアーカイブ学会第2回研究大会, 東京大学本郷キャンパス, 東京.

折原貴道(おりはら たかみち) 菌類学

[論文]

Oshima M., Y. Tomida & T. Orihara, 2017. A new species of *Plesiosorex* (Mammalia, Eulipotyphla) from the Early Miocene of Japan: first record of the genus from East Asia. Fossil Imprint 73: 292-299.

陶山 舞, 佐藤大樹, 折原貴道, 2018. 入生田におけるアシマダラブユ幼虫腸内寄生菌の通年観察. 神奈川自然誌資料(39): 1-4.

Orihara T., 2018. First report of a rare

sequestrate fungus, *Rossbeevera yunnanensis* (Boletaceae, Boletales) from Japan.

Truffology 1: 5-8.

山本航平, 折原貴道, 2018. 日本産地下生菌の分類学的研究史. Truffology 1: 14-21.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

折原貴道, 2017. 県博合同小田原市いこいの森観察会 腹菌類・地下生菌. くさびら 39: 30-31.

折原貴道, 2018. 日本地下生菌研究会の設立、および日本地下生菌研究会会報“Truffology”発刊を記念して一日本の地下生菌研究のこれまでとこれから— (巻頭言). Truffology 1: 2-4.

大前宗之・山本航平・折原貴道, 2018. アカダマタケ (*Melanogaster utriculatus*) の分類学的扱いの変遷について. Truffology 1:28-30.

堀内慈恵・折原貴道・川島逸郎, 2018. 川崎市青少年科学館所蔵菌類標本目録. 川崎市青少年科学館紀要 (28): 50-79.

[普及的著作等]

折原貴道, 2017. 菌類の調査、いっしょにやりませんか?—市民参加型の生き物調査の取り組み. 自然科学のとびら 23 (2): 12-13.

折原貴道, 2017. 菌類と博物館—友の会に期待すること. 友の会で語る博物館の楽しみ方—博物館友の会 20 周年記念誌一. 147-148.

[学会発表等]

折原貴道, 2017 年 4 月 15 日. 神奈川県立 生命の星・地球博物館 菌類ボランティアグループの歩みとこれから (神奈川県立生命の星・地球博物館 菌類ボランティアグループ 第 4 回勝本賞受賞講演). 平成 29 年度日本菌学会関東支部年次大会, 玉川大学, 町田.

陶山 舞, 佐藤大樹, 折原貴道, 2017 年 4 月 15 日. 神奈川県産ブユの腸内から確認されたハルペラ目菌. 平成 29 年度日本菌学会関東支部年次大会, 玉川大学, 町田.

高木 望, 折原貴道, 2017 年 4 月 15 日. *Bactridium flavum* の分生子長さ と隔壁数の関係. 平成 29

年度日本菌学会関東支部年次大会, 玉川大学, 町田.

Yano, M., K. Yano, Y. Yamamoto, T. Yano & T. Orihara, 18-23 Aug. 2017. Myxomycetes biota on the southern slope of Mt. Fuji. 9th International Congress on the Systematics and Ecology of Myxomycetes (ICSEM9), Tanabe, Wakayama, Japan.

大和政秀, 折原貴道, 大前宗之, 2017 年 8 月 29 日. 胞子果形成アーバスキュラー菌根菌 *Glomus microcarpum* の分子系統学的位置. 環境微生物系学会合同大会 2017, 東北大学, 仙台市, 宮城. 折原貴道, 2017 年 8 月 27-29 日, 背着生きのこ類から進化した地下生担子菌類 *Stephanospora* 属の日本における系統と多様性. 環境微生物系学会合同大会 2017, 東北大学, 仙台市, 宮城.

Orihara T., 10-13 Oct. 2017. Phylogeography of sequestrate fungi in Leccinoideae (Boletaceae) - a possibility of recent transoceanic dispersal. Asian Mycological Congress 2017 (AMC 2017), Tan Son Nhat Hotel, Ho Chi Minh City, Vietnam.

矢野倫子, 矢野清志, 山本幸憲, 折原貴道, 2017 年 12 月 9 日. 富士山南面の変形菌 —春・夏・秋—. 日本菌学会関東支部第 32 回シンポジウム, 北里大学, 東京都港区.

折原貴道, 2018 年 3 月 24 日. 伊豆諸島の地下生菌相の特徴 (予報). 日本地下生菌研究会第 2 回大会, 国立科学博物館植物研究部棟, つくば, 茨城.

勝山輝男 (かつやま てるお) 植物学 (維管束植物)

[論文]

茨木 靖・久米 修・木下 覺・木場英久・勝山輝男, 2017. アメリカクサキビの野生化の記録. 植物研究雑誌, 92: 127-129.

藤井伸二・勝山輝男・狩山俊悟・牧 雅之, 2017.
コウガイセキショウモの野生化個体群を神奈川県
と岡山県に記録する. 分類, 17:43-47.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2018. 神奈川県立
生命の星・地球博物館の維管束植物標本の採集属
性に基づいた構成. 神奈川県立博物館研究報告
(自然科学), (47): 23-33.

勝山輝男, 2017. 50周年特別寄稿 長野県産スゲ属
植物の追加. 長野県植物研究会誌, 50: 9-12.

勝山輝男, 2017. 2016年度 植物地理・分類学会賞
記念講演記録 日本のスゲ, その魅力を語る. 植
物地理・分類研究, 65: 1-5.

勝山輝男, 2017. ヤマホオズキ. 横浜植物会会報,
48: 1.

勝山輝男, 2017. ナス科 SOLANACEAE. 大橋ほか編,
改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイ
カズラ科. 33-46pp. 平凡社, 東京.

[普及的著作等]

勝山輝男, 2017. 箱根と其の周辺に分布が限られ
ている植物⑫ ハコネグミ. 箱根を守る会会報
ブナだより, (15): 2.

勝山輝男, 2017. 箱根と其の周辺に分布が限られ
ている植物⑬ ハコネキンミズヒキ. 箱根を守る
会会報 ブナだより, (16): 2.

勝山輝男, 2017. 「植物グループの研修会・勉強会
と岩戸山植物相調査. 神奈川県立生命の星・地
球博物館友の会編, 友の会で語る博物館の楽し
み方—博物館友の会 20周年記念誌—. pp. 61-
63, 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会.

勝山輝男, 2017. 箱根と其の周辺に分布が限られ
ている植物⑭ オトメアオイ. 箱根を守る会会
報 ブナだより, (17): 2.

勝山輝男, 2018. 箱根と其の周辺に分布が限られ
ている植物⑮ ムカゴネコノメ. 箱根を守る会
会報 ブナだより, (18): 2.

勝山輝男・田中徳久, 2018. 神奈川県立の維管束植
物ホットスポット. かながわの自然, (67):11-14.

[学会発表等]

勝山輝男, 2017年6月3日(土)～4日(日). 山
梨県で発見されたタニガワスゲによる谷地坊主.
第28回すげの会全国大会(韓国大会), 韓国国
立樹木園, 京畿道抱川市.

大島光春(おおしま みつはる) 古生物学(哺乳類)

[論文]

Oshima, M., Y. Tomida & T. Orihara, 2017. A
new species of *Plesiosorex* (Mammalia,
Eulipotyphla) from the Early Miocene of
Japan: first record of the genus from East
Asia. *Fossil Imprint*, 73 (3-4): 292-299.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之, 2018.
実物標本と実験を軸体感する新しい展示の実践
～特別展「地球を『はぎ取る』の試みと評価～.
第25回全日本科学博物館協議会研究発表大会資
料, pp. 121-128. 全国科学博物館協議会.

高橋直樹・山下浩之・大島光春・森 慎一・藤岡換
太郎・廣瀬重之・川上 創・藤井友紀子・2014 KO-
OH0-0 の会メンバー, 2018. 相模湾中央部相模
海丘および伊豆半島南方沖石廊海底谷における
海底地形・地質の目視観察-ディープ・トウによ
る YK14-22 次航海調査報告- 神奈川県立博物館
研究報告(自然科学), (47): 7-21.

[普及的著作等]

大島光春編著, 2018. 収蔵庫について考える. 全科
協ニュース, (48): 2-9.

大島光春, 2018. 縄文人が暮らした証(あかし).
生命の星地球博物館編, 特別展図録「地球をはぎ
取る」, pp. 70-71. 生命の星・地球博物館.

[学会発表等]

大島光春, 2017年9月23日, 『「恐竜の玉手箱」を
育てる」, 日本博物館学会 2017年度第1回博物
館教育研究会. 当館講義室.

加藤ゆき・広谷浩子・大島光春・大坪 奏, 2017
年11月25日. 博動連携で取り組む外来生物問

題. 第58回日本動物園水族館教育研究会大阪大会. 大阪市自然史博物館, 大阪.
石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之, 2018年2月16日. 実物標本と実験を軸体感する新しい展示の実践～特別展「地球を『はぎ取る』」の試みと評価～. 第25回全日本科学博物館協議会研究発表大会, 福岡市科学館, 福岡.

樽 創 (たる はじめ) 古生物学 (哺乳類)

[普及的著作等]

樽 創, 2017. 化石を見つけて友の会を知ろう.
神奈川県立生命の星・地球博物館友の会20周年記念誌編集委員会編, 友の会で語る博物館の楽しみ方: 博物館友の会20周年記念誌, pp. 91-93. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 小田原.

[学会発表等]

鈴木 聡, 樽 創, 今井松健也, 九郎丸正道, 小薮大輔, Eo, Kyung-Yeon, 木村順平, 2017年9月. 食肉目における項靭帯. 日本哺乳類学会2017年度大会, P-048, 富山.

Suzuki, S., H. Taru, D. Koyabu and J. Kimura, July 2017. The nuchal ligaments in Carnivora: Speculative relations with sniff trail behavior. 12th International Mammalogical Congress, #767, Perth, Australia.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

門田真人・田口公則・須藤 清, 2017. 東丹沢の石丁場跡群について—煤ヶ谷石、七沢石、日向石一. 神奈川地学, (81): 12-20.

川辺文久・中島 礼・加瀬友喜・田口公則・佐々木猛智・守屋和佳, 2018. 東京都区部産のトウキョウホタテの産出記録および標本保管. GSJ地質ニュース, 7(3): 67-69.

[普及的著作等]

田口公則, 2017. 流れでできた模様. 山下浩之・石浜佐栄子編, 特別展図録 地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～, pp. 60-61. 神奈川県立生命の星・地球博物館; 神奈川県内で地層が見られる場所 5-1 観音崎, ibid, pp. 98.

田口公則, 2017. 大地の記憶 神奈川の地層をはぐ (5) 城の下に眠る液状化跡. 神奈川新聞, 2017年8月25日.

田口公則, 2017. 大地の記憶 神奈川の地層をはぐ (6) 海底の光景読み解いて. 神奈川新聞, 2017年9月1日.

田口公則, 2017. いろいろな企画を「サロン・ド・小田原」で試行. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会20周年記念誌編集委員会編, 友の会で語る博物館の楽しみ方: 博物館友の会20周年記念誌, pp. 99-100. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会, 小田原.; ぼちぼち記録、友の会ブログ, ibid, pp. 123-124.

田口公則, 2018. 展示シリーズ21「レインボーアンモナイト」. 自然科学のとびら, 24(1): 7.

田口公則・丹治雄一, 2018. 表紙解説 矢佐芝石丁場跡・久野石丁場跡. 神奈川県博物館協会会報, (89): 表2.

[学会発表等]

川辺文久・加瀬友喜・田口公則・佐々木猛智・守屋和佳, 2017年8月28日. 東京都産トウキョウホタテの保全と活用. 日本第四紀学会2017年大会, 福岡大学, 福岡.

田口公則, 2017年9月23日. 『展示見学ポートフォリオづくり』を通じて UX デザインを考える. 全日本博物館学会2017年度第1回博物館教育研究会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

田口公則, 2017年11月26日. 博物館活動のプロセスの共有という視点で博学連携をふり返る. 全日本博物館学会2017年度第2回博物館教育研究会, 新潟県立歴史博物館, 長岡市.

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之, 2018

年2月15日。実物標本と実験を軸とした、地球の現象を体感する新しい展示の実践～特別展「地球を『はぎ取る』の試みと評価～」。第25回全国科学博物館協議会研究発表大会，福岡市科学館，福岡。

田口公則，2018年3月17日。身近な地形景観を基軸にジオの世界へ：それぞれの学校でなじみある景観は何だろうか。神奈川地学会第6回神奈川の地学広場，神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原。

新井田秀一（にいだ しゅういち）環境科学

[普及的著作等]

新井田秀一，2018。宇宙から見た東京～神奈川。自然科学のとびら，24(1)：1。

新井田秀一，2018。机のなかった新採用時代。神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館50年のあゆみ。神奈川県立歴史博物館，66。

笠間友博（かさま ともひろ）地学（火山）

[論文]

笠間友博，2018。三浦半島南部の箱根東京テフラ。神奈川県立博物館研究報告（自然科学），(47)：1-6。

笠間友博，2018。伊勢原市上粕屋の巨レキを伴う箱根東京テフラ二次堆積物，神奈川地学，(82)：11-14。

塩井宏幸・笠間友博，2018。三浦縦貫道工事露頭にみられる宮田層～新时期ローム層とその変形構造（第一報）。神奈川地学，(82)：15-29。

[普及的著作等]

笠間友博，2017。特別展図録 地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～，pp. 34-35, 40-41, 44-45, 76-85, 88-91, 94-95, 100-101, 104。

笠間友博，2017。大地の記憶 神奈川の地層をはぐ②富士山噴火の初日の灰。神奈川新聞，2017年8月4日。

笠間友博，2017。大地の記憶 神奈川の地層をはぐ

③箱根火山の大規模噴火。神奈川新聞，2017年8月11日。

笠間友博，2018。「地層バイキング」特別展「地球をはぎ取る」ワークショップ報告。自然科学のとびら，23，4；28-29。

笠間友博，2018。葛葉緑地で地質学にふれる。ミドリ，(107)：4-7。

[学会発表等]

笠間友博，2018。高速硬化接着剤（ホットメルト）を利用した小型岩石サンプリング。地球惑星科学連合2017年大会，G03-P03，2018年5月20日，幕張メッセ，千葉。

笠間友博，2018。ホットメルトを用いた地層剥ぎ取り体験講座“地層バイキング”実践報告日本地学教育学会第71全国大会，P-16，2018年9月16日，神戸大学，兵庫。

山下浩之（やました ひろゆき）地学（岩石学）

[著作・著書・調査報告書・資料等]

高橋直樹・山下浩之・大島光春・森 慎一・藤岡換太郎・廣瀬重之・川上 創・藤井友紀子・2014 K0-OH0-0 の会メンバー，2018。相模湾中央部相模海丘および伊豆半島南方沖石廊海底谷における海底地形・地質の目視観察-ディープ・トウによる YK14-22 次航海調査報告-。神奈川県立博物館研究報告自然科学，47：7-21。

白尾元理・山下浩之，2017。第172回深田研談話会資料「地質技術者のための露頭写真の撮り方—箱根火山岩類を対象に—」。深田地質研究所，45 pp。

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之，2018。実物標本と実験を軸とした、地球の現象を体感する新しい展示の実践～特別展「地球を『はぎ取る』の試みと評価～」。第25回全国科学博物館協議会研究発表大会講演要旨集，121-128。

山下浩之，2018。「史跡永福寺跡」で使われた岩石の岩石学的特徴について。国指定史跡永福寺跡

環境整備事業報告書，付編 14-21，鎌倉市教育委員会。

[普及的著作等]

山下浩之，2017. 神奈川県立生命の星・地球博物館編，特別展図録 地球を「はぎ取る」地層が伝える大地の記憶，pp 98, 102.

山下浩之，2017. 県の石. 自然科学のとびら，23(3)：21.

[学会発表等]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之，2018年2月15日. 実物標本と実験を軸とした、地球の現象を体感する新しい展示の実践～特別展「地球を『はぎ取る』」の試みと評価～. 第25回全国科学博物館協議会研究発表大会，福岡市科学館，福岡.

石浜佐栄子（いしはま さえこ）地学（堆積学）

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之，2018. 実物標本と実験を軸とした、地球の現象を体感する新しい展示の実践～特別展「地球を『はぎ取る』」の試みと評価～. 第25回全国科学博物館協議会研究発表大会講演要旨集，121-128.

[普及的著作等]

石浜佐栄子，2017. 特別展図録 地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～. pp. 2-33, 36-39, 42-43, 46-59, 62-63, 72-75, 86-87, 96, 99, 102下, 103, 105-107.

石浜佐栄子，2017. サエコ先生の標本見どころ紹介（大人編）. 特別展 地球を「はぎ取る」配布資料.

石浜佐栄子，2017. サエコ先生のみどころしょうかい（こども編）. 特別展 地球を「はぎ取る」配布資料.

石浜佐栄子，2017. 大地の記憶 神奈川の地層をはぐ（1）はぎ取り標本は古文書. 神奈川新聞，2017年7月28日.

石浜佐栄子，2017. 大地の記憶 神奈川の地層をはぐ（4）プレート境界示す断層. 神奈川新聞，2017年8月18日.

石浜佐栄子，2017. 大地の記憶 神奈川の地層をはぐ（7）縄文の暮らし垣間見て. 神奈川新聞，2017年9月15日.

石浜佐栄子，2017. 地球を「はぎ取る」. 自然科学のとびら，23(2)：9.

石浜佐栄子，2017. 特別展 地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～. 自然科学のとびら，23(2)：10-11.

石浜佐栄子，2017. 作って、読み解く“お天気の上りましま” 特別展「地球を『はぎ取る』」で作った114日間の地層. 自然科学のとびら，23(4)：30.

石浜佐栄子，2017. 2026名（+α）の方への感謝. 博物館友の会20周年記念誌，104.

石浜佐栄子，2018. “身近でない”大地を考える. 友の会通信，99：1-3.

[学会発表等]

石浜佐栄子，2017年9月23日. 地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～. 全日本博物館学会教育研究会，神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原.

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・山下浩之，2018年2月15日. 実物標本と実験を軸とした、地球の現象を体感する新しい展示の実践～特別展「地球を『はぎ取る』」の試みと評価～. 第25回全国科学博物館協議会研究発表大会，福岡市科学館，福岡.

3.4. レファレンス対応人数

2017年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レファレンス合計	同定標本数	マスコミ掲載数	マスコミ放送・放映
	メール	電話	手紙	来館	出張	小計	メール	電話	手紙	来館	出張	小計				
昆虫類	289	12	20	21	67	409	363	109	32	180	321	1,005	1,414	7,501	0	0
魚類	207	8	0	28	2	245	571	59	2	75	3	710	955	2,458	6	10
両生・爬虫類	43	3	0	1	4	51	42	7	0	14	1	64	115	28	2	10
鳥類	14	10	0	0	0	24	101	74	0	20	7	202	226	419	3	0
哺乳類	12	0	0	0	0	12	114	11	1	10	34	170	182	433	0	0
その他動物	30	0	0	13	1	44	99	17	1	50	15	182	226	247	3	8
植物	41	25	4	6	0	76	133	69	6	89	0	297	373	590	0	23
菌類	107	9	11	39	58	224	87	18	20	102	36	263	487	411	0	0
古生物	659	2	0	12	1	674	67	29	0	61	6	163	837	509	1	0
地学	15	5	0	4	4	28	39	66	2	107	7	221	249	268	2	4
地球環境	1	2	0	0	0	3	8	13	0	3	0	24	27	1	0	1
合計	1,418	76	35	124	137	1,790	1,624	472	64	711	430	3,301	5,091	12,865	17	56

マスコミ等の問い合わせの元（掲載未確認のものを含む）

	主な問合せ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	NHK/テレビ朝日/タウンニュース/共同通信	香川照之の昆虫すごいぜ！/報道ステーション/報道局スーパーJチャンネル
魚類	NHK/日本テレビ/テレビ朝日/TBS テレビ/フジテレビ/テレビ東京/テレビ神奈川/さかなクン/カナフルテレビ/神静民報/山陽新聞/津山朝日新聞/読売新聞/日本経済新聞社/共同通信社福岡支社/神奈川新聞/タウンニュース小田原支社	NHKスペシャル「ジオジャパン」/BSプレミアム「ニッポンぶらり鉄道旅」「釣りびと万歳」「ワイルドライフ」/ダーウィンが来た！/ニュースほっと関西/サイエンス ZERO/もぎたて！/ニュース シブ5時/有吉ゼミ/ZIP！/くりいむクイズ ミラクル9/世界東西まっぷたつ！クギツケ映像バトル/この差って何ですか？/アイ・アム冒険少年/THE 世界遺産/林先生が驚く初耳学！/所さんお届けモノです！/Mr.サンデー/とくダネ！/東京湾大調査！お魚ぜんぶ獲ってみたい～深海500mカメラ仕掛けたら～/カナガワニ海/日本人のなんじゃこりやねえみんぐつ！/地球メシ
両生・爬虫類	読売こども新聞/小田原タウンニュース	
鳥類	NHK/読売新聞/神奈川新聞/朝日新聞	ダーウィンが来た！/ニュース シブ5時/ためしてガッテン
哺乳類	日本テレビ/TBS/毎日放送	クイズ番組（体の縞模様について）/噂の東京マガジン
その他動物	NHK/日本テレビ/青森朝日放送/テレビ朝日/TBS テレビ/テレビ東京/テレビ神奈川/SBS 静岡放送局/読売 KODOMO 新聞/国立科学博物館/グーグルストリートビュー/隔週刊つり情報/新江ノ島水族館/神奈川新聞	さわやか自然百景/嵐にしやがれ/「マサックのスーパー実験室」/「相葉マナブ」/「アイ・アム・冒険少年」/「まっぷたつ」/milsil/ミミクリーズ
植物	NHK/NHK エンタープライズ	小さな旅、コスモメディア「魔法の庭 ダルメイ」/さわやか自然百景/BSプレミアム「オーレリアンの庭 春～今森光彦 四季を楽しむ里山暮らし」「ニッポンの里山」
菌類	NHK/関西テレビ/TBS/国立科学博物館/FMヨコハマ/FMヨコハマ	おはよう日本/有吉弘行のダレトク！?
古生物	読売テレビ/国立科学博物館/タウンニュース	Milsil
地学	NHK エンタープライズ/NHK/日本テレビ/テレビ朝日/テレビ神奈川/毎日新聞/日本経済新聞/共同通信//読売新聞/毎日子ども新聞	ザ！鉄腕 DASH!!/陸海空 地球征服するなんて/林先生が驚く初耳学！/所さんの目がテン
地球環境	日本テレビ	有吉ゼミ

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「役職名「科目名」（学校名）」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

齋藤靖二

[委員・役員]

公益社団法人東京地学協会 伊能忠敬没後 200 年
記念事業委員会委員

公益社団法人東京地学協会 表彰委員会委員

一般社団法人日本地質学会 125 周年記念出版編
集委員

総務省 平和祈念館運営に関するアドバイザー

公益財団法人日本博物館協会 理事

公益財団法人日本博物館協会「博物館研究」
編集委員

公益財団法人日本博物館協会 棚橋賞・博物館活動
奨励賞選考委員会委員

一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員会議
長

独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園 環
境問題特別委員会委員

独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会委員

NPO 法人国際地学オリンピック日本委員会 諮問
委員

国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球掘削科
学推進委員会委員長

平田大二

[委員・役員]

全国科学博物館協議会理事

神奈川県博物館協会理事

独立行政法人国立科学博物館の評価に関する有識
者会議委員（文部科学省）

小田原市文化財保護委員会委員（小田原市教育委員
会）

相模原市文化財保護審議会委員（相模原市教育委員
会）

横須賀市文化財専門審議会委員（横須賀市教育委員
会）

（一社）日本地質学会理事会理事

（公社）東京地学協会コンプライアンス委員会委員

（公社）東京地学協会外部アドバイザー委員会委
員

地学雑誌編集委員（（公社）東京地学協会）

日本ジオパーク委員会委員

地質の日事業推進委員会委員長

地震火山子どもサマースクール 3 学会企画委員会
委員（（公社）日本地震学会、NPO 法人日本火山学
会、（一社）日本地質学会）

学校法人日本大学文理学部地球科学科・外部アドバ
イザー委員会委員（学校法人日本大学）

神奈川県立西湘高校 SSH 運営指導委員会委員（神奈
川県教育委員会）

学校法人玉川学園 SSH 運営指導委員会委員（学校法
人玉川学園）

[非常勤講師]

学校法人玉川大学農学部非常勤講師（学校法人玉川
大学）

学校法人玉川大学通信制大学部非常勤講師（学校法
人玉川大学）

瀬能 宏

[委員・役員]

日本魚類学会代議員（日本魚類学会）

日本魚類学会自然保護委員希少海産魚問題検討部
会委員（日本魚類学会）

日本魚類学会標準和名検討委員会委員長(日本魚類学会)

川崎市社会教育委員会議専門部会委員(青少年科学館専門部会委員)(川崎市教育委員会)

ふじのくに地球環境史ミュージアム平成29年度収集保管事業評価委員会委員(ふじのくに地球環境史ミュージアム)

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員(神奈川県自然環境保全課)

[査読]

Biogeography (日本生物地理学会)

魚類学雑誌 (日本魚類学会)

Species Diversity (日本動物分類学会)

佐藤武宏

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員(神奈川県自然環境保全課)

日本古生物学会会計監査

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」(神奈川大学)

加藤ゆき

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員(神奈川県自然環境保全課)

神奈川県鳥類目録編集委員会委員(日本野鳥の会神奈川県支部)

神奈川県カワウ対策委員会委員(神奈川県水産課)

周南市ツル保護協議会委員(山口県周南市)

相模原市環境影響評価審査会委員(相模原市)

[査読]

Ornithological Science (日本鳥学会)

荻部治紀

[委員・役員]

日本トンボ学会副会長

日本トンボ学会編集委員会委員

日本トンボ学会自然保護委員長

日本甲虫学会自然保護委員

小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会委員

環境省平成29年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会昆虫分科会検討委員

環境省希少野生生物推進員

環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員

環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ座長

環境省兄島陸産貝類保全プロジェクト会議検討委員

西ノ島の価値と保全にかかる検討委員会委員

林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会委員

林野庁小笠原諸島固有森林生態系修復事業アドバイザー

東京都聳島列島植生回復調査検討委員会委員

東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員

東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会委員

[査読]

Tombo (日本トンボ学会)

Aeschna (トンボ研究会)

Zootaxa

渡辺恭平

[委員・役員]

日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員

JBIF ワーキンググループメンバー

[査読]

Acta Zoologica Academiae Scientiarum Hungaricae

Entomological Science

松本涼子

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員(神奈川県自然環境保全課)

日本古生物学会和文誌「化石」編集委員

[査読]

日本古生物学会和文誌「化石」

鈴木 聡

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県自然環境保全課）

[査読]

Mammal Study（日本哺乳類学会）

Journal of Veterinary Medical Science（日本獣医学会）

広谷浩子

[委員・役員]

日本人類学会人類学普及委員

小田原市郷土文化館協議会委員（小田原市教育委員会）

神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員（神奈川県自然環境保全課）

西湘地域鳥獣対策協議会委員（県西地域県政総合センター環境部）

大磯町郷土資料館運営委員（大磯町教育委員会）

[非常勤講師]

桜美林大学非常勤講師 博物館実習「バリアフリー実習1・2」

神奈川大学理学部非常勤講師（後期）「地域の自然史」

都留文科大学非常勤講師（前期）「博物館展示論」、「博物館資料保存論」

[査読]

兵庫県立人と自然の博物館研究紀要「人と自然」

田中徳久

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県自然環境保全課）

神奈川県植物誌調査会運営委員

横浜植物会運営委員

自然史学会連合博物館部会委員

大和市文化財保護審議会委員

寺家ふるさと村「四季の家」管理運営委員会委員

大磯町環境審議会委員

大磯町文化財専門委員

箱根町文化財保護委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（後期）「地域の自然史」

桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」

日本女子大学非常勤講師（前期）「博物館実習」

[査読]

植生学会誌（日本植生学会）

大西 亘

[委員・役員]

デジタルアーカイブ学会評議員

神奈川県植物誌調査会運営委員

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県自然環境保全課）

[査読]

Strix（日本野鳥の会）

日本生態学会誌

折原貴道

[委員・役員]

日本地下生菌研究会 会長

日本地下生菌研究会 事務局

日本地下生菌研究会 編集・出版統括

日本地下生菌研究会 総会・年次大会・シンポジウム・ワークショップ担当

一般社団法人日本菌学会 代議員

一般社団法人日本菌学会 Mycoscience 編集委員

一般社団法人日本菌学会 国際集会担当幹事

日本菌学会関東支部企画幹事 [菌類観察会担当]

日本菌学会関東支部第5回勝本賞選考委員会委員

神奈川県レッドリスト選定・評価委員会植物・菌類部会委員

[査読]

Mycoscience (一般社団法人日本菌学会)

Truffology (日本地下生菌研究会)

勝山輝男

[委員・役員]

稀少野生動植物種保存推進員 (植物) (環境省)
平成 29 年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・
評価検討会維管束植物分科会委員 (環境省)
平成 29 年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ対
策検討調査業務における有識者会議委員 (株式会
社 野生動物保護管理事務所・環境省箱根自然環
境事務所)
日本植物分類学会絶滅危惧植物検討委員会委員 (日
本植物分類学会)
河川水辺の国勢調査スクリーニング・グループ委員
(植物) (公益財団法人リバーフロント整備センタ
ー)
丹沢大山自然再生委員会委員 (丹沢大山自然再生委
員会)
森林基盤整備協議会構成員 (神奈川県環境農政局緑
政部)
小田原市文化財保護委員 (小田原市教育委員会)
湯河原町文化財保護委員長 (湯河原町教育委員会)
熱海市文化財保護委員 (熱海市教育委員会)
秦野市環境審議会委員 (秦野市)
日本すげの会副会長 (日本すげの会)
神奈川県植物誌調査会運営委員 (神奈川県植物誌調
査会)
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈
川県自然環境保全課)

[査読]

植物研究雑誌 (株式会社ツムラ)

大島光春

[委員・役員]

全科協ニュース編集委員 (全国科学博物館協議会)
藤沢市湘南台文化センター子ども館運営委員会委

員

[査読]

Quaternary Research (日本第四紀学会)

樽 創

[委員・役員]

日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会
自然史学会連合博物館部会
神奈川地学会運営委員
あきる野市文化財保護審議会委員
多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実
行委員会
[非常勤講師]
東京農業大学バイオセラピー学科非常勤講師 (前
期) 「動物形態・分類学」

田口公則

[委員・役員]

日本共生科学会学会誌「共生科学」編集委員 (日
本共生科学会)
日本地学教育学会機関誌「地学教育」編集委員 (日
本地学教育学会)

新井田秀一

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
[非常勤講師]
日本大学生物資源科学部非常勤講師 (後期集中) 「博
物館展示論」 (日本大学生物資源科学部)
神奈川大学理学部非常勤講師 (後期) 「地域の自然史」
(神奈川大学理学部)

笠間友博

[委員・役員]

日本地質学会理事 (日本地質学会)
日本地質学会関東支部幹事長 (日本地質学会)
日本地質学会火山部会教育普及委員 (日本地質学会)
日本火山学会事業委員 (日本火山学会)

日本火山学会学校教育委員（日本火山学会）
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
神奈川地学会事務局（神奈川地学会）

箱根ジオパーク推進協議会幹事会役員
平成 29 年度 史跡江戸城石垣石丁場跡 中張窪石
丁場跡（史跡整備委員会）

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」 石浜佐栄子

[委員・役員]

山下浩之

神奈川地学会事務局（神奈川地学会）

[委員・役員]

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所（館内・館外）の区分で一覧表に示した。

行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。（延べ件数集計のため、複数日にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。教育委員会等が依頼元である学校教育対応も含めた。）

なお、学校（小・中・高・大・養護等および教員研修）からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」「5.3. 博物館実習」（68～72 ページ）に記載した。

		小学校	中学校	高校	大学(短・院含む)	教員研修	行政機関	各種団体	合計
館内	件数	15	11	15	27	16	9	10	103
	人数	604	544	312	569	198	249	293	2,769
館外	件数	6	5	4	7	3	27	29	81
件数合計		21	16	19	34	19	36	39	184

行政機関・各種団体の依頼（館内実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
5/12(金)	四教育事務所指導課会議に係る施設見学	県西教育事務所	瀬能 宏 田中徳久 佐藤武宏 小宮孝俊	50	
5/17(水)	小田原ガイド養成講座	NPO 法人小田原ガイド協会	笠間友博	20	
6/28(水)	小田原ガイド養成講座	NPO 法人小田原ガイド協会	笠間友博	20	
7/18(火)	「博物館をより楽しむために～自然史博物館を例に～」	NPO 法人神奈川シニア自然大学校	齊藤靖二	23	
7/27(木)	TVK 海と日本のプロジェクト in かながわイベント	テレビ神奈川	佐藤武宏 田口公則 石浜佐栄子 城所由佳	60	
8/3(木)	博物館見学及び火山実験学習	八王子市小学校科学教育センター	笠間友博	83	
8/31(木)	伊東自然歴史案内人養成講座	伊東市観光課	笠間友博	24	
9/3(日)	箱根ジオパーク第1回サポーター講座 岩石の薄片を作ろう	箱根ジオパーク推進協議会	山下浩之	5	
9/7(木)	県庁インターンシップ（大学生等）に係る施設見学	かながわ男女共同参画センター	佐藤武宏	1	
9/9(土)	地球環境の研究についての話し	藤沢市鶴沼公民館	新井田秀一	44	
9/17(日)	子ども科学探検隊	神奈川県青少年科学体験活動推進協議会	鈴木 聡	13	

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
9/21(木)	特別展の展示解説	三浦半島活断層調査会	田口公則	20	
10/24(火)	博物館訪問	環境省自然環境局生物多様性センター	瀬能 宏 渡辺恭平 勝山輝男 石浜佐栄子 鈴木 聡 広谷浩子	3	
10/24(火)	自然Ⅱ(川崎学)コース『川崎の自然Ⅱ』	認定特定非営利活動法人かわさき市民アカデミー	笠間友博	35	当館および箱根湯本周辺
10/28(土)	展示見学	神奈川理科サークル	田口公則 石浜佐栄子	10	
11/15(水)	宝永火山の噴火の実態と今後の予測	平成寺子屋落語塾	笠間友博	20	
2/23(金)	寄生蜂の同定方法	宮城県古川農業試験場	渡辺恭平	1	
2/27(火)	ボランティア研修に伴う視察	三島市郷土資料館	佐藤武宏	30	
3/21(水)	西湘科学研究発表会記念講演「地質時代区分」	西湘地区科学振興委員会	田口公則	80	

行政機関・各種団体の依頼（館外実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
4/23(日)	第72回文化講演会「ミツクリの名をもらった魚たちについて」	津山洋学資料館	瀬能 宏	津山洋学資料館
4/27(木)	苫小牧市美術博物館企画展「恐竜の玉手箱」展示	苫小牧市美術博物館	大島光春	苫小牧市美術博物館
4/28(金)	苫小牧市美術博物館企画展「恐竜の玉手箱」展示	苫小牧市美術博物館	大島光春	苫小牧市美術博物館
4/29(土)	苫小牧市美術博物館企画展「恐竜の玉手箱」展示 ミュージアムラボ「ひらいてみよう！恐竜の玉手箱」	苫小牧市美術博物館	大島光春	苫小牧市美術博物館
5/1(月)	「キョウリュウたちと、あそぶへや」ワークショップ	県立地球市民かながわプラザ	大島光春	あーすぶらざ
5/2(火)	「キョウリュウたちと、あそぶへや」ワークショップ	県立地球市民かながわプラザ	大島光春	あーすぶらざ
5/10(水)	真鶴のジオ・地質等勉強会	真鶴観光ボランティアガイド	笠間友博	真鶴半島
5/21(日)	「すわのはら昆虫きょうしつ きれいな虫さがし」	県立おだわら諏訪の原公園指定管理者おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
5/24(水)	国指定史跡江戸城石垣石丁場跡調査指導	熱海市教育委員会	山下浩之 勝山輝男	国指定史跡江戸城石垣石丁場跡（中張窪石丁場跡）
6/3(土)	「手取層群の層序と生物相 一前期白亜紀の東アジアの陸上生態系の解明を目指して」	化石研究会	松本涼子	福井県立恐竜博物館
6/12(月)	箱根ジオサイト、地質について	真鶴観光ボランティアガイド	笠間友博	真鶴半島
6/17(土)	講演「かながわの帰化植物事情」	NPO 法人神奈川県自然保護協会	田中徳久	神奈川県民センター
6/20(火)	自然Ⅱ(川崎学)コース『川崎の自然Ⅱ』	認定特定非営利活動法人かわさき市民アカデミー	笠間友博	駿河小山
6/23(金)	H28 熊本地震から博物館が学ぶこと	小田原市役所自主研究グループ「みゅーじあむ」	大島光春	小田原市郷土文化館
7/7(金)	ヒメハルゼミの抜け殻調査及び鑑定士講習会	NPO「早雲寺ヒメハルゼミの会」	渡辺恭平	早雲寺「壺中軒」
7/12(水)	「地域の植物相調査と標本データの活用」	公益財団法人地球環境戦略研究機構国際生態学センター	田中徳久	横浜情報文化センター
7/17(月)	「地球史 46 億年を楽しむ」	群馬県立自然史博物館	平田大二	群馬県立自然史博物館
7/22(土)	環境学習（エコロジー教室）「はかせといっしょに海辺の生きものをしらべよう」	公益財団法人地球環境戦略研究機構国際生態学センター	田中徳久	弁天島臨海自然教育園
7/23(日)	調べる学習応援講座「化石ってなんだろう？～アンモナイトで知る地球の昔～」	新宿区立下落合図書館	田口公則	新宿区立下落合図書館
7/28(金)	「人類学入門～ヒトはサルから進化したのか～」	江戸川区こども未来館	広谷浩子	江戸川区こども未来館

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
8/19(土)	箱根火山・富士火山と大磯	大磯町石神台自治会	笠間友博	大磯町石神台会館
8/20(日)	夜の公園で昆虫ウォッチング	県立おだわら諏訪の原公園	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
8/28(月)	真鶴ジオサイト、地質巡検	真鶴観光ボランティアガイド	笠間友博	岩海岸～龍門寺～白磯海岸
9/9(土)	集まれ!きのこ仲間たち～菌輪のつながり、再び～	一般財団法人自然公園財団	折原貴道	環境省箱根ビジターセンターとその周辺
9/10(日)	集まれ!きのこ仲間たち～菌輪のつながり、再び～	一般財団法人自然公園財団	折原貴道	環境省箱根ビジターセンターとその周辺
9/10(日)	公園内の草索性昆虫の調査及び、昆虫を生かした植栽管理の助言	県立おだわら諏訪の原公園指定管理者おだわら諏訪の原公園パートナーズ	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
9/24(日)	防災講演会	二宮防災ボランティアネットワーク	山下浩之	二宮町生涯学習センター
9/30(土)	自然観察講座「菌類(きのこを中心に)の観察法」	大井町教育委員会	折原貴道	大井町農業体験施設「四季の里」
10/1(日)	神奈川の地層、日本の地層、世界の地層、その歴史と未来	電子顕微鏡でミクロを観る会	平田大二	横浜市旭区若葉台(旧西中学校)
10/7(土)	化石研究会第148回例会シンポジウム「久慈のコリステラ類の重要性」	化石研究会	松本涼子	久慈市「福祉の村」総合福祉センター
10/8(日)	化石研究会第149回例会巡検	化石研究会	松本涼子	久慈市「福祉の村」総合福祉センター
10/10(火)	はだのエコスクール「体からわかる私たちの進化」	秦野市環境産業部環境保全課	広谷浩子	秦野南が丘小学校
10/30(月)	鎌倉市社会福祉協議会 一般教養講座「身近な自然災害を考える」	鎌倉市社会福祉協議会	平田大二	鎌倉市教養センター
11/5(日)	箱根の土地のつくり	神奈川CST協会	山下浩之	四季の湯強羅静雲荘
11/12(日)	こども館ワークショップ事業「秋の自然ウォッチング」	藤沢市湘南台文化センター	大西 亘	湘南台文化センターこども館
11/23(木)	化石発掘ツアー	中央出版株式会社 Kicks 講座	樽 創	大磯海岸
11/23(木)	境川遊水地の地層を発掘	NPO 法人泉南会	田口公則	県立境川誘致公園⇒雨天中止
11/25(土)	秦野の環境を知ろう	中教職員組合	笠間友博	秦野南が丘中学校
11/25(土)	自然科学教室「秋の植物観察会」	湯河原町教育委員会	勝山輝男	湯河原町幕山公園
12/16(土)	フォッサマグナ要素の植物	湯河原町民大学運営委員会	勝山輝男	湯河原町立図書館
12/17(日)	2017年植物界の話題	横浜植物会	田中徳久	横浜市こども植物園
12/23(土)	日本の自然史博物館を考える	地質学史懇話会	平田大二	北とびあ
1/20(土)	やさしいAPG分類体系	横浜植物会	田中徳久	横浜市こども植物園
1/21(日)	平成29年度くすのきゼミ「お林みどころ調査」	真鶴町教育委員会	大西 亘	真鶴町立遠藤貝類博物館・お林
1/27(土)	ちがさき市民大学「神奈川の地形と地盤」	茅ヶ崎市文化生涯学習部	平田大二	茅ヶ崎市役所
1/27(土)	市民カレッジ公開講座「海の古脊椎動物、陸の古脊椎動物～あきる野の新第三期と第四紀～」	あきる野市中央公民館	樽 創	あきる野市中央公民館
1/29(月)	地域の植物を調べ、まとめる	(公財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター	田中徳久	IGES 東京サステイナビリティフォーラム
2/3(土)	おおい自然園「火山灰を調べよう」	大井町教育委員会生涯学習課	笠間友博	大井町山田メガソーラきらめきの丘おおい
2/3(土)	野鳥観察会	寒川町環境課	加藤ゆき	寒川町目久尻川
2/5(月)	海域及び河川等の公共用水域の環境保全について	茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会	瀬能 宏	茅ヶ崎市役所
2/9(金)	1年生火山噴火実験	箱根町教育委員会	笠間友博 山下浩之	箱根町立箱根中学校
2/21(水)	ワークショップ「博物館の展示解説の多言語化～どうやってる?これからどうしよう?～」	自然史レガシー継承・発信実行委員会	佐藤武宏	栃木県立博物館
2/24(土)	真鶴町に恐竜がやってきた!「恐竜の玉手箱」	一般社団法人真鶴未来塾	大島光春	真鶴町町民センター
2/25(日)	境川遊水地「貝化石掘り体験」	(公財)神奈川県公園協会 県立境川遊水地公園	田口公則	県立境川遊水地公園及び下飯田遊水地
3/14(水)	大地の恵み誕生の秘密	NPO 法人 大磯ガイド協会	笠間友博	大磯図書館
3/30(金)	“地球をはぎ取る”実習と地層観察会	陶研究会	笠間友博	三浦半島城ヶ島

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会について、それぞれの名称（担当者）と実施日（場所）参加人数について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある当館との共催による講演会は64ページに詳細を記載のため省略した。

第1回魚の会総会（瀬能 宏）2017年5月28日 （日）西側講義室（20人）	2018年3月25日（日）講義室（50人）
神奈川県植物誌調査会総会（勝山輝男・田中徳久・ 大西 亘）2017年4月16日（日）SEISA ミュージ アム・シアター（80名）	日本博物館学会2017年度第1回博物館教育研究会 「教育プログラムをチャレンジングに育てる」 （大島光春・田口公則）2017年9月23日（土） 講義室（20人）
神奈川昆虫談話会例会（渡辺恭平・苅部治紀） 2017年8月27日（日）講義室（50人） 2017年12月3日（日）講義室（50人）	菌類懇話会例会（入生田観察会）（折原貴道）2017 年7月8日（土）（19人）

3.8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、企画名、期間、開催場所、担当者等を記載した。

平成28年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域仙石原湿 原等におけるシカ対策有識者会議（勝山輝男）2017 年3月15日（水）生命の星・地球博物館	や」（大島光春）2017年4月29日～5月7日
NPO法人日本ジオパークネットワーク（平田大二）	金井高校「恐竜の玉手箱」（大島光春・田口公則）金 井高校地学実験室2017年10月1日～11月11日
NPO法人小笠原自然文化研究所・東京都小笠原支庁主 催、公益財団法人東京都公園協会・ボニンインター プリター協会共催。特別展「小笠原の海の仲間たち —Bonin Blueの生物多様性」。2017年7月27日～ 11月19日。小笠原ビジターセンター（瀬能 宏）	真鶴未来塾「恐竜の玉手箱」（大島光春・田口公則） 真鶴町町民センター2018年2月24・25日
石川県白山市恐竜パーク特別展示監修（松本涼子）	箱根ジオパーク推進協議会総会（新井田秀一）2017 年5月31日 ミュージアムシアター
大野市博物館 展示監修（松本涼子）	公益財団法人国際文化協会（新井田秀一） 新月光天 文台プレオープン展示 2017年7月22日～ 月光 天文台
神奈川キノコの会 野外勉強会（折原貴道）小田原市 いこいの森、2017年10月7日	神奈川県産業労働局（新井田秀一） 神奈川県歴史観 光ガイドブック作図協力 2017年11月発行 「か ながわ歴旅 神奈川を知る15の歴史物語」
平成29年度富士箱根伊豆国立公園箱根地域仙石原湿 原等におけるシカ対策有識者会議（勝山輝男）2017 年3月2日（金） 生命の星・地球博物館講義室	エプタ編集室（新井田秀一） 「EPTA Vol.85 特集 箱 根八里」作図協力 2018年1月発行
苫小牧市美術博物館企画展「恐竜の玉手箱」（大島光 春・田口公則）2017年4月29日～6月4日	神奈川県農政局緑政部森林再生課（新井田秀一）
あーすプラザ企画展「キョウリュウたちと、あそぶへ	WOODコレクション（モクコレ）2018～第42回全国育 樹祭 記念行事～ 2018年1月30日・31日 東京 ビックサイト東7・8ホール

株式会社学研プラス(新井田秀一、石浜佐栄子、大西
亘、折原貴道、笠間友博、加藤ゆき、苅部治紀、佐
藤武宏、瀬能 宏、広谷浩子、山下浩之、渡辺恭平)
「理科が楽しくなる大自然の不思議 絶景ビジュア
ル図鑑」監修 2018年2月15日発行
箱根ジオパーク推進協議会教育部会(笠間友博)2017
年10月13日神奈川県小田原合同庁舎
小田原市スポーツ課、小田原ツーデーマーチ歩育(笠
間友博)2017年11月19日小田原城
湘南地球科学の会(平田大二・大島光春・山下浩之)、
2017年6月17日(土)海洋開発研究機構、7月22日(土)
生命の星・地球博物館、9月9日(土)平塚市博物館、

12月16日(土)横浜国立大学、2018年2月10日(土)
横須賀市自然博物館、3月31日(土)千葉県立中央
博物館
箱根ジオパーク推進協議会幹事会(秋澤潔史・笠間
友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子)、
2017年5月12日(金)、7月12日(水)、10月20日
(金)、2018年3月8日(木)
箱根ジオパーク推進協議会総会(斎藤靖二・平田大二・
秋澤潔史・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜
佐栄子)、2017年5月31日(水)

3.9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は外来研究員13名を受け入れた。以下に「外部研究者名：研究テーマ(受け入れ担当者)」を掲載する。なお、今年度の研究成果に関しては、Ⅲ 資料の項(115～123ページ)に掲載した。

3.10. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要項に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名(認定年月日)」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士(2000年4月1日)(2011年逝去)

青木淳一(2006年4月1日)

松島義章(2002年4月1日)

中村一恵(2004年4月1日)(2015年逝去)

今永 勇(2005年4月1日)

奥野花代子(2009年4月1日)

学芸員

高橋秀男(2000年4月1日)

村岡健作(2000年4月1日)

生出智哉(2000年4月1日)

山口佳秀(2012年4月1日)

高桑正敏(2012年4月1日)(2016年逝去)

新井一政(2013年4月1日)

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2018年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は下表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、Ⅲ 資料の項(104～105ページ)に掲載した。この登録件数は、資料番号を付したものを計数したもので、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、Ⅲ 資料の項(105ページ)には、登録点数も掲載した。登録点数は、枝番を付したものも個別に計数した数である。

<標本>

分野	2016年度までの登録件数	2017年度の登録件数	合計
維管束植物	301,361	3,837	305,198
植物群落	264	0	264
コケ	9,367	151	9,518
菌類・地衣類	27,744	518	28,262
藻類	4,336	0	4,336
植物その他	1,645	80	1,725
魚類	42,357	2,723	45,080
哺乳類	4,978	13	4,991
鳥類	2,958	59	3,017
両生類	1,077	52	1,129
爬虫類	481	103	584
軟体動物	27,062	1,250	28,312
甲殻類	18,944	560	19,504
動物その他	101	10	111
昆虫	60,969	3,073	64,042
クモ	20	0	20
化石	14,894	1,136	16,030
岩石	8,730	1,564	10,294
鉱物	28,021	1,400	29,421
地質・ボーリング	3	0	3
はぎ取り	48	21	69
地学その他	17	6	23
衛星画像	1,110	0	1,110
合計	556,487	16,556	573,043

<アーカイブズ>

分野	2016年度までの登録件数	2017年度の登録件数	合計
植物標本写真	1,148	31	1,179
魚類写真	164,490	12,192	176,682
哺乳類写真	1	9	10
鳥類写真	116	99	215
両生類写真	55	20	75
爬虫類写真	39	6	45
昆虫写真	0	1,104	1,104
クモ写真	0	0	0
衛星処理画像	158	0	158
景観画像	2,720	8	2,728
博物館活動	1,079	39,633	40,712
菌類細密画	485	0	485
甲殻類細密画	505	3	508
合計	170,796	53,105	223,901

4.1.2. 購入資料

[植物] 合計 1件

ナガミヒナゲン模型 1点

[魚類] 合計 14件

世界の淡水魚類 14点

[鳥類] 合計 1件

ドードー骨格レプリカ 1点

[両生類] 合計 1件

ゴライアスガエルの交連骨格 1点

[爬虫類] 合計 1件

オサガメ剥製の修復 1点

[昆虫] 合計 1件

世界の昆虫コレクション 48点

[古生物] 合計 3 件

ドロマエオサウルスの歯 2 点

パレオパラドキシアの歯 1 点

[地形デジタルデータ] 合計 3 件

海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ 3 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2017 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数（寄贈者（敬称略）」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。登録件数は、標本 11,267 件、アーカイブズ 11,526 件である。

[維管束植物] 合計 3,769 件

[コケ] 合計 151 件

[菌類・地衣類] 合計 394 件

ヒロハリタケほか 6 件

ニセキンカクキン属の一種ほか 4 件

ヒロヒダタケモドキほか 11 件

ツバキキンカクチャワಂತケ 1 件

キショウゲンジ 1 件

ヒメカイメンタケ 1 件

コツブオオワカフサタケ 1 件

ハイイロイタチタケ 1 件

キヒダフウセンタケ 1 件

ヒダウロコタケほか 2 件

トビイロホウキタケ 1 件

モエギタケほか 3 件

ニクイロアナタケほか 5 件

イッポンシメジ属の一種 1 件

レモンチチタケ（城川仮称） 1 件

シロツブタケ 1 件

ミネシメジ類似種ほか 6 件

ミヤマコイシタケ 1 件

ツヅレシロツチダンゴ類似種ほか 3 件

ムラサキゴムタケほか 6 件

ウラスジチャワಂತケ 1 件

キミヒラタケ 1 件

ノウツブタケ属の一種 No.1 ほか 6 件

オネノチャダイゴケ 1 件

クウツブタケ属の一種 No.2 ほか 2 件

ヤマキタケ 1 件

マオベニタケ 1 件

ケメカバイロタケ属の一種ほか 6 件

フロツルタケ 1 件

コドリニガイグチ類似種 1 ほか 10 件

ベニタケ属の一種ほか 4 件

ネズミツチダマタケほか 2 件

オオシロカラカサタケ 1 件

ジャガイモタケ 1 件

ニガクリタケ属の一種ほか 2 件

レブラゴケほか 8 件

ツチカメムシタケほか 8 件

ウロコケシボウズタケ 1 件

ホネタケ 1 件

ネズミムギ冠さび病菌 1 件

ホシガタバニダンゴほか 11 件

マツカサチャワಂತケ 1 件

セイヨウシヨウロ属の一種 1 件

コガネシヨウロタケ 1 件

ツチグリカタカワタケ 1 件

バクトリディウム属の一種 1 件	ハチノスタケ 1 件
ヒメノガステル属の一種ほか 4 件	コガネニカワタケほか 3 件
ワカクサタケ属の一種ほか 5 件	ヤナギマツタケ 1 件
ハナイグチ 1 件	ヒメアカコブタケほか 3 件
ヌメリイロガワリ 1 件	ヤシャイグチほか 19 件
ムラサキシメジほか 5 件	カンゾウタケ 1 件
カンゾウタケほか 6 件	ノボリリュウタケ属の一種 1 件
ドクカラカサタケ 1 件	キツネノハナガサ 1 件
ミドリニガイグチ類似種 1 件	シロキクラゲ 1 件
スイチチショウロ 1 件	ムラサキヤマドリタケほか 8 件
ムラサキカタバミさび病菌ほか 14 件	スゴモリダンゴタケ類似種 1 件
モリノフジイロタケほか 16 件	ニセチャワンタケ 1 件
ヒメコウジタケ属の一種 1 件	フジイロチャワンタケモドキ 1 件
キショウゲンジ 1 件	
アクニオイタケ 1 件	ルリハツタケ 1 件
セイヨウショウロ属の一種ほか 2 件	ホコリタケ属の一種 1 件
ツヤウチワタケモドキ 1 件	アカダマタケ類似種 1 件
アカチャアシグロタケ (城川仮称) 1 件	ヒカゲウラベニタケほか 13 件
	ニセニクハリタケ 1 件
ツクツクボウシタケ 1 件	スジウチワタケモドキ 1 件
ステファノスポラ属の一種ほか 9 件	ツチグリほか 3 件
アルポヴァ属の一種ほか 4 件	シワカラカサタケ 1 件
ワタゲホコリタケほか 2 件	スジウチワタケモドキ 1 件
緑きょう病菌ほか 9 件	アカエノベニヒダタケほか 7 件
シロホウライタケ 1 件	キヌメリガサ 1 件
ビロードエノキタケ 1 件	ナラタケ 1 件
オモタケ 1 件	コフクレサルオガセほか 2 件
クミスズメタケほか 14 件	ベニチャワンタケモドキ類似種ほか 10 件
<i>Rossbeevera cryptocyanea</i> 1 件	バクトリディウム属の一種ほか 4 件
ペンネラ・アングスティスポラほか 29 件	ヒポミケス・ラクティフルオルム類似種 1 件
<i>Mortierella sugadairaensis</i> 1 件	コナカブリテングタケ 1 件
ヤマドリタケモドキ 1 件	クロアザアワタケ 1 件
モジゴケほか 17 件	シロヌメリイグチ 1 件
ネズミツチダマタケ 1 件	カワリハツ 1 件
ツツレンロツチダンゴ類似種 (黄色菌糸) ほか 4 件	
	[魚類] 合計 2,429 件
ヒメコナカブリツルタケほか 8 件	クダリボウズギス 1 件 (NPO 法人 OWS (横山耕作))
シロウロコツルタケ 1 件	

カナガシラ属未同定種ほか 3 件 (ブルーコーナー (石垣幸二))	ヒレナガデメエソ属の 1 種 1 1 件 (前田達郎)
ユキフリソデウオ 1 件 (阿部秀樹)	ワスケフウリュウウオほか 1823 件 (村瀬敦宣)
セキトリイワシ科未同定属未同定種 1 件 (海洋研究開発機構)	メナダ 1 件 (大串伸吾)
サケガシラ 1 件 (吉田真明 (島根大学隠岐臨海実験所))	カナリー・モレイほか 12 件 (大森尚也)
アカギンザメほか 77 件 (宮崎佑介)	マカジキ科未同定属未同定種 1 件 (中根瑞季)
ホトケドジョウほか 4 件 (鏡味崇)	ニッポンバラタナゴほか 6 件 (中村陽一 (オクケーフィッシュファーム))
スナヤツメ 2 件 (鏡味嵩)	ナメハダカほか 10 件 (中村良成)
アカボウズハゼ属未同定種ほか 7 件 (古川大恭)	ヒメコダイほか 3 件 (長谷川隼太)
ウミテングほか 9 件 (古澤敏和)	ホンベラほか 3 件 (渡井幹雄)
アカグツほか 4 件 (江森正典)	ニホンウナギ 9 件 (東京大学大気海洋研究所 (塚本勝巳))
オカメハゼ 1 件 (荒尾一樹)	ドンコほか 2 件 (藤原昌高)
オオスジイシモチほか 8 件 (荒武成寿)	レモンザメほか 6 件 (藤本治彦)
フナ属未同定種 1 件 (高橋里恵)	ビワマスほか 11 件 (馬淵浩司)
マスダオコゼほか 11 件 (高瀬歩)	ナマズ属の 1 種 1 2 件 (白滝治郎)
アカエソ 1 件 (今野美代子)	クレナイフサカサゴ 1 件 (八木克憲)
ミナミメダカ (琉球型) 1 件 (佐野真吾)	ルリハタほか 10 件 (尾川泰将)
ヨシキリザメ 1 件 (崎山直夫 (新江ノ島水族館))	シロブチギンザメ近似種 2 件 (武内啓明 (神奈川県水産技術センター))
アマミフエフキほか 43 件 (桜井雄)	ルリスズメダイほか 68 件 (野村智之)
ユメカサゴほか 27 件 (三井翔太)	ネコザメ 2 件 (藍澤正宏)
オイカワほか 13 件 (三井翔太・伊藤克哉)	スクレロパゲス・フォルモーサス 1 件 (林弘章)
タカハダカ 10 件 (三浦寛子)	ウミテング 1 件 (和田正昭)
メガレイほか 2 件 (三宮重徳)	クエ 1 件 (和田裕太)
アオチビキほか 6 件 (山崎哲也)	クロコハゼほか 2 件 (國島大河)
イセゴイほか 62 件 (山川宇宙)	
オキメダイ 1 件 (山田和彦)	[哺乳類] 合計 4 件
クニマス 6 件 (山梨県水産技術センター)	キツネ 1 件
ホトケドジョウ 6 件 (蒔苗博道)	ボンゴ 2 件
リュウキュウドロクイほか 100 件 (手良村知功)	コキクガシラコウモリ 1 件
ミミズハゼ属未同定種ほか 28 件 (酒井卓)	
コブダイほか 2 件 (新江ノ島水族館 (崎山直夫))	[鳥類] 合計 29 件
リボンイワシほか 6 件 (森下修)	ケアシノスリほか 22 件
テングハコフグほか 2 件 (神奈川県水産技術センター相模湾試験場)	セキショクヤケイ 1 件
ハモ 1 件 (星野一三雄)	ブロンズトキほか 2 件
ミナミメダカ (東日本型) 1 件 (川合英利)	アオゲラ 1 件
カワアナゴ 1 件 (浅野聖大)	カワウ 1 件
	ムクドリ 1 件

クロツグミ 1件

[爬虫類] 合計 4件

バカエカロテスほか2件

エラブウミヘビ 1件

ヤマカガシ 1件

[軟体動物] 合計 1,044件

Amblychilepas nigrita (G. B. Sowerby I, 1835)ほか6件

Astraea 属の一種 17件

Astraea 属の一種 1件

Astraea 属の一種 3件

Astraea 属の一種 4件

Cantharidus capillaceus (Philippi, 1849)3件

Cantharidus 属の一種 7件

Cipangopaludina 属の一種 1件

Diodora aspera (Rathke, 1833)6件 *Diodora calyculata*
(Sowerby I, 1823)ほか12件

Diodora inaequalis (G. B. Sowerby, 1835)2件

Diodora jukesii (Reeve, 1850)ほか11件

Diodora patagonica (d'Orbigny, 1839)ほか3件

Emarginula crassa J. Sowerby, 1813ほか2件

Emarginula striatula Quoy & Gaimard, 1834ほか8件

Emarginula 属の一種 3件

Emarginula 属の一種ほか21件

Fissurella crassa Lamarck, 1822 1件

Fissurella nodosa (Born, 1778)3件

Fissurella nubecula (Linnaeus, 1758)5件 *Fissurella*
volcano Reeve, 1849 3件

Fissurella 属の一種 1件

Fissurella 属の一種 1件

Lithopoma americanum (Gmelin, 1791)3件

Lithopoma phoebium (Roding, 1798)ほか3件

Lithopoma tuber (Linnaeus, 1758)2件

Macroschisma tasmaniae Sowerby II, 1862 4件

Phanerolepida transenna (Watson, 1879)4件

Turbo radiatus Gmelin, 1791ほか13件

Viviparus 属の一種 3件

Viviparus 属の一種 9件

Viviparus 属の一種ほか2件

アカマイマイ科・種未同定 2件

アラゴマフダマ 1件

いわゆる「カタツムリ」のなかま・種未同定 1件

エゾチグサほか7件

オオタニシほか6件

オオツカテンガイ 5件

オカクチキレガイ科・種未同定 1件

オキナワヤマタニシほか10件

オナジマイマイ科・種未同定 1件

オナジマイマイ科・種未同定 2件

オナジマイマイ科・種未同定 2件

オナジマイマイ科・種未同定ほか3件

カクタニシ 1件

カザリダマほか12件

カタベガイ 1件

カワムラスカシガイ 1件

カンスガイ 2件

キングチサザエほか4件

クズヤガイ属の一種 1件

クズヤガイ属の一種 2件

クモリソデガイ 1件

クリイロサザエほか14件

コシタカサザエ 8件

ゴマフダマ 2件

コモンソキレほか17件

サザエ科・種未同定 1件

サザエ科・種未同定 3 件	リュウキュウサルボウほか 437 件
サザナミサザエ 1 件	リュウテン 1 件
サメフタサザエほか 4 件	リュウテン 4 件
スカシガイ 1 件	リュウテンほか 2 件
タケノコクチキレガイほか 2 件	リュウテン属の一種 2 件
タツマキサザエ 1 件	科未同定・種未同定 1 件
タツマキサザエ 4 件	科未同定・種未同定 2 件
タマガイ科・種未同定 1 件	科未同定・種未同定 3 件
チャイロマイマイほか 3 件	科未同定・種未同定 4 件
テンジクカンスほか 3 件	
トラダマ 1 件	[甲殻類] 合計 36 件
トラダマほか 10 件	テナガエビ 1 件
ナミガイほか 3 件	クルマエビ科・種未同定 1 件
ナミガタスガイ 4 件	オオヒライソガニ 1 件
ニッポンクチキレエビスほか 21 件	トゲナシヌマエビ 1 件
ハナザラ 3 件	シンカイエビジャコ属の一種ほか 27 件
ハブタエスソキレほか 26 件	ジャノメガザミほか 3 件
ハリナガリンボウガイ 3 件	ヒロハオウギガニ 1 件
ヒナシタダミ 5 件	フタハオサガニ 1 件
ビョウブガイ 3 件	
ヒロトラダマほか 4 件	[昆虫] 合計 1,580 件
フルヤガイほか 47 件	フタモンアシナガバチほか 3 件
ヘソワゴマ 1 件	メヤマクワガタ 1 件
ベッコウイモほか 2 件	ミロスジトガリヒメバチ 2 件
ハウシュノタマ 1 件	シイジマルリボシヤンマ 1 件
ハウシュノタマ 6 件	エイロトガリヒメバチほか 2 件
マキミゾサザエ 1 件	ヒロスジトガリヒメバチ 1 件
モクメダマほか 22 件	モキヒメバチ 1 件
ヤクシマタカラガイほか 25 件	セイロトガリヒメバチ 1 件
ヤクシマタカラガイほか 4 件	スボシアシナガバチ 1 件
ヤッコサザエほか 20 件	イイオキトンボ 2 件
ヤッコサザエほか 8 件	イロヤマトンボ 3 件
ヤブレガサ 2 件	イハッコウクモヒメバチ 1 件
ヤマネコダマほか 43 件	イニオヤマトンボ 1 件
ヨコヤマテンガイ 1 件	イホオヤンマ 1 件
ヨコヤマテンガイほか 7 件	イヘイロトガリヒメバチ 1 件
リュウキュウカタベほか 8 件	イトイロトガリヒメバチ 1 件
リュウキュウカタベほか 9 件	イチマゴイルリトンボ 1 件

クロスズメバチほか8件	キイロトガリヒメバチ1件
オナガアカネ1件	ホソミイトトンボほか5件
ヒメホソアシナガバチほか6件(カワトンボ sp.1件
ウチワヤンマ1件	ムカシヤンマほか24件
クマサナエ1件	ミクラミヤマクワガタほか37件
ヤルクビツチハンミョウ2件	オオキトンボ1件
マアカヨシヤンマほか3件	ソボツチスガリ1件
ケヤマカミキリほか5件	キトンボ1件
フタナベオジロサナエほか1308件	カワトンボ sp.1件
コラフトンボ1件	コオニヤンマ1件
エリカワクシヒゲガガンボ1件	ミヤマカミキリほか43件
テマノオバチ11件	ムネアカハラビロカマキリ10件
アラカネトンボ1件	
サユウキュウトンボほか7件	[化石] 合計498件
キルンヤンマ1件	ヒシナイイワシ1件
ユドリズズメバチ1件	メソサウルスの一種1件
メルタンヤンマ1件	ヒシナイイワシ1件
ミイロトガリヒメバチほか4件	シカ属1件
シンチビトガリヒメバチ1件	ヨコハマチヨノハナガイほか18件
グンバイトンボ1件	ヨコヤマミミエガイほか123件
クロサナエ1件	ニホンムカシジカ1件
カトリヤンマ2件	魚類頭部?1件
マルタンヤンマほか2件	クジラの肋骨?1件
キトンボほか4件	鼓室胞1件
マダラナニワトンボ1件	陸生中型哺乳類1件
ヒメホソアシナガバチほか23件	大型鳥類ほか6件
ソボツチスガリ2件	アケボノゾウ(幼体:頭部)1件
ミルンヤンマ1件	キヌジサメザンショウほか341件
マルタンヤンマ2件	
マダラヤンマ2件	[岩石] 合計1,329件
ヤマトアシナガバチ1件	安山岩1件
ソボツチスガリ2件	斑レイ岩9件
カワトンボ sp.1件	チャーノカイトほか1,319件
オオトラフトンボ2件	
リスヤンマ1件	[植物標本写真] 合計14件
ルリボシヤンマほか6件	
ハネビロトンボ1件	[魚類写真] 合計11,459件
ミヤマアカネほか11件	クダリボウズギス1件(NPO法人OWS(横山耕作))

ナンヨウカイワリほか5件 (テレビ東京「東京湾大調査 お魚ぜんぶ獲ってみた」)
 ハシキンメ 1件 (ふじなみ丸)
 カスリハタ 4件 (伊東正英)
 ナマズほか5件 (伊藤克哉)
 ハナザメ 1件 (伊藤美沙)
 ベニツケサツキハゼほか6件 (益子均)
 レッドマージンド・シュリンプゴビーほか6件 (益田智史)
 ヤジリハゼ 1件 (越智隆司)
 リュウキュウハナハゼ 1件 (横関修)
 シボリキンチャクフグ 1件 (横田京子)
 シロワニ 6件 (岡村峻佑)
 ワキヤハタほか101件 (岡本光央)
 ソラスズメダイほか4件 (屋本恵子)
 ホシガレイ 1件 (加藤寛)
 メジロザメ属未同定種 1件 (加藤めぐみ)
 ホシセミホウボウ 1件 (加藤昌一)
 ハゲヤセムツほか28件 (夏目恵介)
 フリソデウオほか5件 (河田雅隆)
 マハタ 1件 (関根忠紀)
 ワンダリング・クリーナー・ラスほか216件 (吉田栄)
 オオグチイシチビキ 1件 (吉澤敏幸)
 マルタ 2件 (宮崎佑介)
 ホシテンスほか4件 (橋本郁代)
 ホンテンスモドキ属の1種2ほか3件 (桐谷範彦)
 イズオコゼ 1件 (近喰細)
 クロメガネスズメダイ 1件 (栗原雅直)
 メギスほか17件 (栗木博司)
 ナガブダイ 1件 (恵利川昌樹)
 ヒナギンポ 1件 (原花奈恵)
 ツマジロヒメハゼ 3件 (原田育美)
 ボウズハゼ属未同定種ほか4件 (古川大恭)
 プレクランティアス・フルマノワーリィ 1件 (古川洋子)
 ヨコスジイシモチほか2件 (戸井田静)
 フタスジヒメジほか2件 (江藤幹夫)
 マスダオコゼほか12件 (高瀬歩)
 ブチブダイほか177件 (高田菜穂子)
 イワアナゴ科未同定属未同定種 1件 (黒田純太)
 マダイほか17件 (黒柳都夫)
 ボニンハナダイ 1件 (今井寛治)
 コケウツボ 1件 (今川郁)
 アカエソ 1件 (今野美代子)
 イトヒキダラ 1件 (佐藤満男)
 ダルマハゼ属未同定種 15件 (佐野利枝)
 ヨシキリザメ 1件 (崎山直夫)
 ユメカサゴほか23件 (三井翔太)
 メガレイ 1件 (三宮重徳)
 ロクセンフエダイほか29件 (三木涼平)
 ヨロイアジほか14件 (山崎公裕)
 ワヌケトラギスほか1816件 (山田鉄也)
 ヨメゴチほか20件 (山田祐介)
 ユキフリソデウオ 1件 (山田和彦)
 テンジクダイ科未同定種 1件 (志村晃央)
 カミソリウオ 1件 (糸井泰久)
 マツバギンポほか2件 (寺師純子)
 ミナミヒメジ 1件 (寺田雄祐)
 エクセニウス・アクセルロディ 1件 (若佐勢)
 ガンテンイシヨウジ 1件 (酒井卓)
 スミレナガハナダイ 1件 (春日智香子)
 フグ科の1種 1件 (小山)
 マトウトラギスほか14件 (小杉正則)
 ヨロイアジ属未同定種 1件 (小川保)
 マトシボリ 1件 (小倉直子)
 ヤリカタギほか12件 (小野均)
 ノミノクチ 1件 (小林恵美子)
 ベラ科未同定属未同定種 1件 (小林修一)
 マダラハゼほか10件 (松野清伯)
 キシマイシヨウジ 1件 (上田浩彰)
 ボニンハナダイほか10件 (森下修)
 フタイロハナゴイほか7件 (森田稔)
 ヘラツノザメほか57件 (神奈川県水産技術センター相模湾試験場 (撮影者: 西村竜雄))
 ヨリメハゼほか4件 (世古徹)
 モンガラカワハギ 2件 (成田早弥)
 ホオアカクチビほか2件 (星野和夫)
 ベニスズキ 1件 (西潟正人)

カグラザメ 1 件 (石井雅之)	クレナイフサカサゴ 1 件 (八木克憲)
カナガシラ属未同定種 1 件 (石垣幸二 (ブルーコーナー))	マアジほか 5 件 (尾川泰将)
ネジリンボウ属未同定種ほか 8 件 (石崎宏人)	カガミダイ 1 件 (不明)
タチウオ科未同定属未同定種 1 件 (石野昇太)	シロブチギンザメ近似種 2 件 (武内啓明)
ボウズハゼ 1 件 (川合英利)	アゴヒゲハゼほか 2 件 (福家悠介)
メガネハギほか 2 件 (浅田亘裕)	ヨリメハゼ属の 1 種ほか 29 件 (福原友広)
ワニゴチほか 577 件 (浅野勤)	キュウリエソ 1 件 (福田良昭)
ロウニンアジほか 434 件 (村瀬敦宣)	ベニハゼ属未同定種 1 件 (福留浩司)
ウナギギンポ 1 件 (大山貴弘)	オオカズナギ 1 件 (平川猛)
ニラミギンポ属未同定種ほか 3 件 (大西昌則)	ケショウフグ 1 件 (豊川健人)
シライトベンケイハゼ 1 件 (大嶽将史)	サケガシラ 1 件 (堀川志保)
ネジリンボウほか 3 件 (滝田叔歳)	ハリダシエビスほか 2 件 (本間伸弥)
ヒガシシマドジョウほか 3 件 (樽宗一朗)	フデハゼほか 5 件 (名倉盾)
ロクセンヤッコほか 2596 件 (竹村嘉夫)	リュウキュウダツほか 53 件 (野村智之)
チチブモドキ 4 件 (中谷恵人)	キヌカジカほか 3 件 (有馬啓人)
ホシナシムラソイほか 8 件 (長谷川稜太)	ハナビヌメリ 1 件 (立岡博之)
モヨウフグほか 3 件 (津波古健)	メガネウマヅラハギ 1 件 (鈴木香里武)
ルリハタほか 7 件 (椎名雅人)	ロウソクギンポほか 738 件 (鈴木寿之)
ヒメカザリハゼほか 3 件 (田岡和也)	ヤツシハゼ属未同定種ほか 4 件 (鈴木直司)
ムツほか 107 件 (田中宏幸)	ヤイトヤッコ×トサヤッコ 1 件 (鈴木美智代)
コモンハタ 1 件 (田中洋之)	ハゼ科未同定属未同定種 1 件 (和田純子)
スマレナガハナダイ 1 件 (渡辺昭宏)	マトフエフキほか 6 件 (和田正昭)
ホテイエソ 1 件 (渡利純一)	
ヒトスジコバンハゼほか 14 件 (渡邊浩昭)	[哺乳類写真] 合計 3 件
アミメハギ 1 件 (渡邊美雪)	ニホンイタチ 3 件
ミヤケテグリほか 20 件 (都倉浩)	
トゲキホウボウ 1 件 (土田裕介)	[鳥類写真] 合計 28 件
シロワニ 1 件 (藤原義弘)	トキ 1 件
カワヨシノボリ 1 件 (藤原昌高)	アオサギほか 26 件
ヘラヤガラほか 21 件 (内山博之)	ヨーロッパトウネン 1 件
アカテンモチノウオ 1 件 (内田武志)	
コモンハタ 1 件 (内木章人)	[両生類写真] 合計 8 件
ワモンフグほか 2,494 件 (内野啓道)	モリアオガエルほか 4 件
ワヌケトラギスほか 1487 件 (内野美穂)	トウホクサンショウウオほか 4 件
モンガラカワハギほか 17 件 (任賢治)	
ユカタハタほか 67 件 (梅野朝年)	[爬虫類写真] 合計 6 件
アカマダラフサカサゴ 1 件 (萩平潔)	ニホントカゲ 6 件
タルボツ・デムワーゼルほか 2 件 (白川直樹)	

[景観画像] 合計 5 件

元箱根お玉ヶ池 (1986 年頃) 5 件

[甲殻類細密画] 合計 3 件

ヒラコウカムリ 1 件

アカゲカムリほか 2 件

4.1.4. 採集その他による資料 (新たに登録されたもの)

<標本>

分野	登録件数	分野	登録件数
維管束植物	68	昆虫	1,493
植物群落	0	クモ	0
コケ	0	化石	638
菌類・地衣類	124	岩石	235
藻類	0	鉱物	1,400
植物その他	80	地質・ボーリング	0
魚類	294	はぎ取り	21
哺乳類	9	地学その他	6
鳥類	30	衛星画像	0
両生類	52	合計	5,289
爬虫類	99		
軟体動物	206		
甲殻類	524		
動物その他	10		

<アーカイブズ>

分野	登録件数
植物標本写真	17
魚類写真	733
哺乳類写真	6
鳥類写真	71
両生類写真	12
爬虫類写真	0
昆虫写真	1,104
クモ写真	0
衛星処理画像	0
景観画像	3
博物館活動	39,633
菌類細密画	0
甲殻類細密画	0
合計	41,579

4.2. 図書資料収集状況

2017 年度受入した和書の冊数は、購入が 216 冊、寄贈が 1,003 冊、編入が 4 冊、管理換が 2,761 冊であった。洋書については、寄贈が 118 冊であった。受入図書の合計は 4,102 冊である。2018 年 3 月 31 日現在の所蔵資料総数は次のとおりである。

2017 年度受入図書(冊)

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	216	1,003	4	2,761	3,984
洋書	0	118	0	0	118
合計	216	1,121	4	2,761	4,102

2017 年度までの所蔵資料総数

分野	登録数	
国内刊行図書	27,473	(冊)
国外刊行図書	4,477	(冊)
購入国内雑誌	17	(タイトル)
購入国外雑誌	8	(タイトル)
寄贈国内雑誌	3,135	(タイトル)
寄贈国外雑誌	659	(タイトル)
ビデオソフト	332	(巻)
CD-ROM	63	(タイトル)
マイクロフィルム	34	(リール)
合計	36,198	(点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 資料特別利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を提供している。特別利用を受ける際は、特別利用承認申請書を提出し、承認を受け、博物館の資料を閲覧、計測、撮影、掲載などの利用が可能である。2017年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の特別利用の件数

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本等

画像：フィルム・プリント等の画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像

属性データ：標本情報

種別	利用	閲覧			撮影			解析			特別利用その他			合計				
		人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数		
動物	哺乳類	標本						3	3	6				3	3	6		
		画像																
		属性																
		小計							3	3	6				3	3	6	
	鳥類	標本																
		画像																
		属性																
		小計																
	両生類 爬虫類	標本				5	12	16	5	61	64				10	73	80	
		画像										1	13	13	1	13	13	
		属性																
		小計				5	12	16	5	61	64	1	13	13	11	86	93	
	魚類	標本				1	3	3	42	3,001	4,307				43	3,004	4,310	
		画像							25	512	798	9	15,644	23,530	34	16,156	24,328	
		属性							4	138	473				4	138	473	
		小計				1	3	3	71	3,651	5,578	9	15,644	23,530	81	19,298	29,111	
	昆虫	標本							4	6	562				4	6	562	
		画像																
		属性																
		小計							4	6	562				4	6	562	
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本				1	2	2	8	28	452				9	30	454	
		画像																
		属性																
		小計				1	2	2	8	28	452				9	30	454	
植物	標本	187	187	187				2	2	72	24	108	202	213	297	461		
	画像																	
	属性							2	2	3,489				2	2	3,489		
	小計	187	187	187				4	4	3,561	24	108	202	215	299	3,950		
菌類	標本							6	14	94				6	14	94		
	画像																	
	属性																	
	小計							6	14	94				6	14	94		
古生物	標本	1	1	1				2	3	3				3	4	4		
	画像																	
	属性																	
	小計	1	1	1				2	3	3				3	4	4		
地球環境	標本																	
	画像																	
	属性																	
	小計																	
博物館	画像																	
	属性																	
合計				188	188	188	7	17	21	103	3,770	10,320	34	15,765	23,745	332	19,740	34,274

4.3.2. 資料館外貸出

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を提供している。資料の貸出しを受ける際は、館外貸出承認申請書を提出し、承認を受け、博物館資料を借用利用することができる。主な利用は、展示、掲載・放映などである。ただし、研究に関する利用であっても、館外貸出として申請のあったものは本項目の『その他の利用』に含めた。2017年度について、館外貸出しの利用数は次のとおりである。

分野別の館外貸出の件数

標本：実物標本等

画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像

属性データ：標本情報

種別	利用	展示			教材			掲載・放映			館外貸出その他			合計		
		人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	1	4	4	1	3	10	1	24	26			3	31	40
		画像							1	2	2			1	2	2
		属性														
	小計	1	4	4	1	3	10	2	26	28			4	33	42	
	鳥類	標本	3	49	52	1	2	2	1	1	1			5	52	55
		画像														
		属性														
	小計	3	49	52	1	2	2	1	1	1			5	52	55	
	両生類 爬虫類	標本	1	2	2									1	2	2
		画像														
		属性														
	小計	1	2	2									1	2	2	
	魚類	標本	4	16	16	4	26	30						8	42	46
		画像	7	98	103				24	98	106			31	196	209
		属性														
		小計	11	114	119	4	26	30	24	98	106			39	238	255
	昆虫	標本														
		画像														
		属性														
	小計															
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本	2	7	20				1	2	5			3	9	25
		画像	1	1	1									1	1	1
		属性														
		小計	3	8	21				1	2	5			4	10	26
植物	標本															
	画像															
	属性															
	小計															
菌類	標本							1	1	6			1	1	6	
	画像															
	属性															
	小計							1	1	6			1	1	6	
古生物	標本	4	171	175	1	36	86	1	1	1			6	208	262	
	画像							2	2	5			2	2	5	
	属性															
	小計	4	171	175	1	36	86	3	3	6			8	210	267	
地球環境	標本	4	10	76									4	10	76	
	画像	3	3	3	2	2	2	19	77	77			24	82	82	
	属性															
	小計	7	13	79				19	77	77			28	92	158	
博物館	画像							2	2	2			2	2	2	
	属性															
	小計							2	2	2			2	2	2	
合計		30	361	452	7	67	128	53	210	231			92	640	813	

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2017年6月12日から16日まで、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガス（混合比、酸化エチレン15%、テトラフルオロエタン85%）による殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。これに伴い博物館展示室も、同期間閉館とした。

燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本、書籍などを対象とし7回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れたら支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会(博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会)

講演名と内容	実施日	実施場所	対象者	講師	所属	受講数
特別展開連講演会 ・地層はざと標本の作り方 ・はぎ取り試料から明らかにする古生物の行動	9/9(土) 13:30- 15:30	講義室	どなたでも	石浜佐栄子 清家弘治	当館主任学芸員 東京大学大気海洋研究所	37
公開シンポジウム “はぎ取り”で保存する ー土壌、遺構、地層の世界ー	10/21(土) 13:00- 16:20	SEISA ミュージアムシアター	どなたでも	大倉利明 橋口 豊 笠間友博 森山哲和 田口公則	農業・食品産業技術総合研究機構農業環境変動研究センター 横浜市歴史博物館 当館主任研究員 考古造形研究所 当館主任学芸員	80
特別講演会 「ヒアリってどんなアリ？」 ～正しく恐れよう 外来アリたち～ ・国のヒアリ対策について ・県のヒアリ対策について ・外来アリの生態と進む対策 ・ヒアリの影響と被害	9/23(土) 13:30- 16:00	SEISA ミュージアムシアター	どなたでも	曾宮和夫 山田 修 森 英章 岸本年郎	環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室室長 県自然環境保全課 課長 (一財)自然環境研究センター 主任研究員 ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授	120
ミュージズ・フェスタ(シンポジウム) 「沈黙の春 第二章？ 田んぼの生き物の危機」 プロローグ ・「今 田んぼで何が起きているのか？」 第1部 博物館を中心とした生物調査の結果から ・「あの虫も消えた！横浜市内の水生昆虫相調査から」 ・「神奈川県央地域の水田地帯におけるトンボ類のセンサス調査から見えたこと」 ・「大東諸島における水生昆虫相の現状 ー問題は田んぼだけではない！南大東島での壊滅的状況」 第2部 医学的視点から ・「農薬は悪か否かー農薬の歴史を踏まえてー」 ・「環境化学物質とどう共存するのか？」	3/11(日) 13:00- 16:15	SEISA ミュージアムシアター	どなたでも	苅部治紀 佐野真吾 諏訪部 晶 苅部治紀 北野 忠 寺山隼人 坂部 貢	当館主任学芸員 観音崎自然博物館 学芸員 神奈川トンボ調査保全ネットワーク 代表 東海大学教養学部 教授 東海大学医学部 准教授 東海大学医学部 学部長・教授	80
合 計						317

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	受講数
魚の会 平成29年度第1回講演会 寄生性甲殻類の研究～だから寄生虫学はおもしろい！～	5/28(日) 14:30-15:30	西側講義室	齋藤暢宏	株式会社水士舎主任研究員	45
平成29年(2017年)IGES国際生態学センター市民環境フォーラム 防災と森づくり 一樹林の機能と期待される役割ー ・ 防災林の役割や保護について ・ 自然災害と緑の機能 ・ 都市災害時の樹木の防火機能について	6/29(木)	西側講義室	小林俊元 佐々木寧 林 寿則	神奈川県藤沢土木事務所な ぎさ河川防災部 埼玉大学名誉教授 IGES国際生態学センター研究員	50
湘南地球科学25周年記念講演会 ・ 代表挨拶「なぜ、湘南地球科学の会を立ち上げたか」 ・ 湘南地球科学の会25周年のあゆみ ・ いまさら丹沢：衝突で何が起きたか？ ・ まだまだ嶺岡：蛇紋岩と斑レイ岩 ・ もっと三浦・房総：付加体最前線 ・ もとはといえば日本海拡大とフォッサマグナ：伊豆弧衝突まで ・ 相模湾と駿河湾、富山湾：三大深海湾の成因 ・ そして、伊豆・小笠原弧とフィリピン海：四国海盆発達史 ・ 揺れる日本列島、小田原地震、関東地震：伊豆弧北端部の地震活動 ・ 気になる火山活動 伊豆・箱根と富士：伊豆弧北端部の火山活動	7/22(土) 12:00-16:30	西側講義室	藤岡換太郎 山下浩之 谷 健一郎 高橋直樹 小川勇二郎 平田大二 藤岡換太郎 小原泰彦 行竹洋平 萬年一剛	神奈川大学 当館主任学芸員 国立科学博物館 千葉県立中央博物館 筑波大学名誉教授 当館館長 海上保安庁 神奈川県温泉地学研究所 神奈川県温泉地学研究所	58
県博講座「歴史系博物館×自然系博物館」 第5回 「絵画史×哺乳類学」	8/3(木)	西側講義室	橋本遼太 鈴木 聡	歴史博物館学芸員 当館学芸員	66
魚の会 平成29年度第2回講演会 「美ら海の食用魚～沖縄県泊・牧港漁港を中心に」	8/20(日) 14:00-15:00	西側講義室	島田和彦	元沖縄県水産試験場場長	27
全日本博物館学会 2017年度第1回博物館教育研究会 「教育プログラムをチャレンジングに育てる」	9/23(土) 10:45-16:20	西側講義室	小笠原喜康 田口公則 広谷浩子 大島光春 石浜佐栄子	博物館教育研究会世話人 当館主任学芸員 当館主任学芸員 当館主任学芸員 当館主任学芸員	20
魚の会 平成29年度第3回講演会 「エビの名前あれこれ」	11/26(日) 14:00-15:00	西側講義室	奥野 淳兒	千葉県立中央博物館分館海の 博物館主任上席研究員	29
魚の会 平成29年度第4回講演会 「三崎魚市場の魚ー33年間の記録」	2/11(日) 14:00-15:00	西側講義室	山田和彦	観音崎自然博物館学芸部長	41
国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)との共催 第6回 海と命と地球をめぐる公開講演会 ・ 海底がさけた！ゴジラメガムリオン ～海底に現われた世界 最大級のマンツルの露出 ・ 大陸がさけた！ジューランドピア ～水没した第7大陸の謎を解 き明かす	2/17(土) 13:30-15:30	SEISA ミュ ージアムシ アター	山下浩之 齋藤実篤	当館主任学芸員 海洋研究開発機構上席技術 研究員	145
酒匂川水系の環境を考える会との共催 第17回 自然環境シンポジウム 生物多様性 自然のために何が出来るか？ ～生物多様性保全のために何が出来るか自ら行動しよう～ ・ チョウの多様性と人為的管理 ・ 淡水魚の保全・復元の実践 ～川の生物多様性を取り戻すために～ ・ トコロジストのススメ 地域の多様性を発信しよう	2/18(日) 13:00-16:30	SEISA ミュ ージアムシ アター	井上大成 勝呂尚之 秋山幸也	多摩森林科学園 環境教育 機能評価チーム長 県水産技術センター内水面 試験場主任研究員 相模原市立博物館 学芸班 主査	163
神奈川地学会 第6回 神奈川の地学広場 ・ ポスター発表 (11件) ・ 口頭発表 ドイツ化石発掘・博物館巡り紀行 富士山の環境美化登山60年	3/17(土) 13:00-16:20	西側講義室	飯島俊幸 勝美公明	神奈川地学会 元相洋高校	30
合 計					674

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分け記載した。

(同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。神奈川県総合教育センターの研修として受講した人数は研修欄にその人数を記載した。)

【当日受付の講座】

2 講座のべ 2 日間実施、参加者 311 名

通 No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	参加者数
1	昆虫少年・少女のひろば	7/22(土)	博物館	どなたでも	渡辺恭平 荻部治紀	118
2		8/11(金・祝)	西側講義室			193

【事前申込が必要な講座】

募集 46 講座のうち、雨天・荒天中止 3 講座、実施は 43 講座のべ 63 日、参加者のべ数 780 名

通 No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数	研修
1	春の里山の植物 ※IGES 国際生態学センターとの共催	4/15(土)	舞岡ふるさと村(横浜市)	小学年と保護者、 中学生～学生	田中徳久 大西 亘 勝山輝男	40	29	19	-
2	植物図鑑の使い方～春の花編～ 気になる花しらべ	4/22(土)	博物館	小学 4 年生～成人	大西 亘	15	39	15	-
3	春の地形地質観察会	5/3(水祝)	湘南平周辺 (大磯町)	小学 4～6 年生と 保護者、中学生～ 成人	新井田秀一 笠間友博 山下浩之	40	107	39	-
4	おやこで貝がらを知ろう	5/5(金祝)	博物館	小学 1～3 年生と 保護者	佐藤武宏 田口公則	20	45	13	-
5						午後	20	28	19
6	昆虫観察会	5/7(日)	弘法山、渋沢丘 陵(秦野市)	小学 4～6 年生と 保護者、中学生～ 学生	渡辺恭平 荻部治紀	20	17	17	-
7		6/4(日)	酒匂川河川敷 (開成町)			20	18	16	
8		9/3(日)				20	16	11	
9	磯の生きものウォッチング	5/14(日)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生と保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	112	26	-
10		6/11(日)	40			205	39	-	
11	オタマジャクシを顕微鏡で観察してみよう	5/21(日)	博物館	小学 1 年生～成人	松本涼子	15	59	9	-
12	化石講座 ～ゾウ化石を調べよう～	5/28(日)	博物館	中学生～成人	樽 創	10	11	10	-
		7/9(日)						9	
		10/29(日)						8	
		12/17(日)						7	
		2/18(日)						7	
13	本当は怖いアメリカザリガニ	6/3(土)	はるひ野(川崎 市麻生区))	小学生と保護者、 中学生～成人	荻部治紀 佐藤武宏	20	34	18	-
14	最悪の水辺の外來種について勉強しよう	9/30(日)				20	25	19	-
15	先生のための地層と化石入門 2017 ～野島から大道をめぐる～	6/3(土)	博物館	教員	田口公則 大島光春	10	4	4	3
		6/4(日)	金沢区(横浜市)					4	
16	きのこさがし	7/15(土)	博物館とその 周辺	小学 1～3 年生と 保護者、小学 4 年 生～中学生	折原貴道 大西 亘 勝山輝男	20	188	18	-
17	貝殻のふしぎを調べよう	ホタテ	博物館	小学 4 年生～成人	佐藤武宏 田口公則	12	16	8	-
18		キサゴ				12	10	6	-
19		アワビ				12	29	12	-
20		いろいろな巻貝				12	79	12	-
21	先生のための岩石プレパラートの作製と観察 講座	7/26(水)	博物館	教員	山下浩之	12	17	12	5
		7/27(木)						12	
22	展示見学ポートフォリオづくり ～デジカメでこんなに変わる博物館見学～	7/31(月)	博物館	教員	田口公則	10	6	6	3
		8/1(火)						6	
23	あなたのパソコンで地形を見る(教員向け)	8/8(火)	博物館	教員	新井田秀一	12	8	8	1
24	しましま地層のナゾをとく	8/11(金祝)	博物館	小学 4～6 年生	石浜佐栄子	20	36	18	-
25	先生のための地層学入門	8/12(土)	博物館	教員	石浜佐栄子	12	13	12	6
26	岩石プレパラート観察講座	8/26(土)	博物館	中学生～成人	山下浩之	12	29	11	-
27	海辺の野鳥観察会	9/2(土)	照ヶ崎海岸 (大磯町)	小学生と保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	17	中止	-

通 No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定 員	応 募 数	受 講 数	研 修 枠	
28	タデ科植物の分類	9/10(日)	博物館	中学生～成人	勝山輝男	24	16	11	-	
29	秋の地形地質観察会	9/18(月祝)	山北町～南足柄市	小学 4～6 年生と保護者、中学生～成人	石浜佐栄子 山下浩之 新井田秀一	40	83	中止	-	
30	川と用水路の生き物を調べよう	9/24(日)	開成町	小学生と保護者、中学生～成人	苅部治紀 瀬能 宏 渡辺恭平	25	101	27	-	
31	秋の里山の植物 ※IGES 国際生態学センターとの共催	9/30(土)	舞岡ふるさと村(横浜市)	小学生と保護者、中学生～成人	田中徳久 大西亘 勝山輝男	40	33	22	-	
32	比べてみよう哺乳類の骨 ～頭骨編～	9/30(土)	博物館	高校生～成人	大島光春	10	12	9	-	
33	きのこの観察と同定	10/1(日)	博物館とその周辺	中学生～成人	折原貴道	20	31	16	-	
34	植物図鑑の使い方～樹木編～ この木なんの樹？	10/7(土)	博物館	小学 4 年生～成人	大西 亘	15	24	14	-	
35	ノジュール割りに挑戦 ボリビア産古生物の化石をしらべよう	10/14(土)	博物館	小学 4～6 年生と保護者、中学生～高校生	田口公則 大島光春	18	43	18	-	
36	アニマルトラッキング入門	10/21(土)	博物館とその周辺	小学生と保護者	加藤ゆき 松本涼子 広谷浩子	20	25	中止	-	
37	あなたのパソコンで地形を見る (一般向け)	11/19(日)	博物館	学生、成人	新井田秀一	8	28	7	-	
38	デジカメ片手に展示を楽しもう 展示見学ポートフォリオづくりに挑戦!	12/2(土)	博物館	小学 4～6 年生と保護者、中学生	田口公則 大島光春 広谷浩子	10	4	2	-	
39	軟体動物のからだのつくりを知ろう	12/3(日)	博物館	学生、成人	佐藤武宏	12	19	12	6	
40	中学生火山講座「城ヶ島」 多様な火山噴出物を剥ぎ取る	12/23(土祝)	城ヶ島(三浦市)	中学生、高校生、教員	笠間友博 新井田秀一 石浜佐栄子	30	37	32	-	
41	魚をもっと知りたい人のための魚類学講座	1/20(土)	博物館	中学生～成人	瀬能 宏	10	11	10	-	
1/21(日)		10								
2/3(土)		8								
2/4(日)		8								
42										
43	ほねほねパズルで学ぶ動物のかたちとくらし	1/27(土)	博物館	小学生と保護者	鈴木 聡 広谷浩子	20	56	21	-	
44	ボランティア入門講座	全体講座	博物館	どなたでも	瀬能 宏 佐藤武宏 田中徳久 大西 亘 勝山輝男 折原貴道 鈴木 聡 広谷浩子 松本涼子 渡辺恭平 苅部治紀 田口公則 樽 創 大島光春	55	25	22	-	
		分野別講座 1月実施分						1/30(火)		4
		分野別講座 2月実施分						2/1(木)～ 10(土)の 8日間		30
45	早春の地形地質観察会 厚木市七沢周辺の地質	2/24(土)	七沢(厚木市)	小学 4 年生～成人	山下浩之 新井田秀一 田口公則	40	99	35	-	
46	プロに学ぶサイエンスイラストレーション 博物館の標本を描いてみよう	2/25(日)	博物館	学生、成人	松本涼子 菊谷詩子	12	51	11	-	
合 計		のべ66日—雨天荒天中止3日=実施延べ日数63日						780	24	

5.1.3. よろずスタジオ

毎月第3日曜日を除く日曜日およびミュージズ・フェスタ期間に学習指導員による「よろずスタジオ」を開催した。テーマは、恐竜の折り紙ひろば他8講座。また、子どもの日、クリスマスの日に対応した折り紙プレゼントを実施した。第3日曜日には、友の会との共催による「よろずスタジオ」を開催した。

講座名	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜折り紙ひろば	14	東側講義室ほか	子どもと保護者	【学習指導員】 【企画普及課】 【ボランティア】 博物館教育プログラムボランティア 小田原短期大学 学生	制限なし	2,263	1,089
博物館のぬり絵広場	4					431	211
そらとぶタネ	4					519	248
生きものフェイスブック	3					154	78
けんぴきょうで大発見!	3					656	315
博物館検定	3					101	45
生きものパズル	5					646	308
ハコブグ帽子のぬり絵	3					320	157
生きものスケッチ	3					242	118
計 9 講座	42					5,332	2,569

講座名	実施日	実施場所	対象者	担当者	定員	配布数
子供の日 折り紙プレゼント	5/5(金・祝)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	751
クリスマス 恐竜、トナカイ等折り紙プレゼント	12/24(日)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	378
計 2 講座						1,129

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数	子どもの数
「アンモナイトのレプリカを作ろう」	4/16(日)	東側講義室	子どもとその保護者 その他一般	田口公則	なし	134	72
「足跡スタンプ」	5/21(日)	東側講義室		鈴木 聡		114	55
「葉脈標本をつくろう」	6/25(日)	実習実験室		友の会スタッフ		183	114
「いろんなカビを見てみよう」	9/17(日)	東側講義室		友の会スタッフ		247	97
「巻貝の中をのぞいてみよう!」	10/15(日)	東側講義室		佐藤武宏		153	79
「木の実・草の実で楽しい工作」	11/19(日)	東側講義室		友の会スタッフ		70	32
「魚をよく見てみよう」	12/17(日)	東側講義室		瀬能宏		272	103
「砂で遊ぼう」	1/21(日)	東側講義室		石浜佐栄子		167	82
「昆虫のからだを調べてみよう」	2/18(日)	東側講義室		渡辺恭平		124	67
計 9 講座						1,464	701

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員が対応する、夏休みの小・中学生理科自由研究の相談を集計した。

講座名	実施期間	相談場所	対象者	講師	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/15(土) ～8/20(日)	ミュージアム・ライブラリー	小・中学生	学習指導員	92

[相談者の地域]

県内				県外	
市町村	件数	市町村	件数	都道府県	件数
小田原市	20	秦野市	1	東京都	9
横浜市	10	相模原市	1	静岡県	4
厚木市	8	南足柄市	1	その他	4
藤沢市	6	平塚市	1	小 計	17
伊勢原市	5	綾瀬市	1		
湯河原町	4	開成町	1		
茅ヶ崎市	3	大井町	1		
鎌倉市	3	二宮町	1		
川崎市	2	寒川町	1		
海老名市	2	愛川町	1		
逗子市	2	小 計	75		

[学年別]

学年	件数
小学1年	1
小学2年	6
小学3年	15
小学4年	20
小学5年	8
小学6年	11
中学1年	21
中学2年	6
中学3年	3
大学生	1
合 計	92

[分野別]

相談分野	件数
物理分野	4
化学分野	1
生物分野	42
地学分野	34
その他	11
合 計	92

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座

講座等名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加数
特別展関連ワークショップ 地層バイキング ～ホットメルトで地層はぎとり体験～	7/17(月)	実習実験室	参加自由	笠間友博	-	130	90
	8/13(日)				-	351	297
	8/16(水)				-	310	244
	8/17(木)				-	264	227
	9/24(日)				-	152	128
特別展関連イベント ワンポイント展示解説	7/16(日)	特別展示室	参加自由	笠間友博 田口公則 石浜佐栄子	-	-	34
	8/6(日)				-	-	73
	9/3(日)				-	-	40
	10/1(日)				-	-	24
	11/5(日)				-	-	101
特別展関連講座 (5.1.2 講座にも記載) しましま地層のナブをとく 先生のための地層学入門 秋の地形地質観察会	8/11(金)	実習実験室	小学4～6年生	石浜佐栄子	20	36	18
	8/12(土)	実習実験室	教員	石浜佐栄子	12	13	12
	9/18(月)	山北町～南足柄市	小学4年生～成人	石浜佐栄子 山下浩之	40	83	中止
企画展関連講座 (5.1.2 講座にも記載) レッドデータの生物を描く ～プロに学ぶサイエンスイラストレーション講座～	2/25(日)	実習実験室		松本涼子 菊谷詩子	12	51	11
計 14 日					下段: 重複を除いた参加数		1,299 1,258

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

【博物館内で対応したもの】

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
4/26(水)	中学校	オリエンテーション合宿における理科探究活動	県立相模原中等教育学校	笠間友博 山下浩之 中村俊文	170	
5/13(土)	大学	3年次選択必修および教職課程(理科)「地球科学実習」	創価大学理工学部共生創造理工学科	大島光春 松本涼子	38	
5/18(木)	小学校	野外学習「火山噴火のメカニズム」	東京学芸大学附属大泉小学校	笠間友博	10	
6/1(木)	中学校	生物多様性について	横浜女学院中学校	鈴木 聡	115	
6/30(金)	小学校	箱根火山の歴史について	平塚市立真土小学校	笠間友博	85	
7/21(金)	高校	SSH サイエンスツアー博物館でのテーマ別学習、展示見学箱根外輪山における地学学習	千葉県立長生高等学校	笠間友博	44	当館および大観山展望台、山伏峠
7/31(月)	高校	箱根火山の成り立ち・地形	県立生田高等学校科学部	笠間友博	23	当館および箱根火山一帯
8/1(火)	高校	箱根火山の成り立ち・地形	県立生田高等学校科学部	笠間友博	25	当館および箱根火山一帯
8/2(水)	高校	野鳥についての講義	神奈川学園中学校・高等学校	加藤ゆき	12	
8/6(日)	中学校	「展示見学ポートフォリオづくり」について	平塚市立中原中学校	田口公則	15	
9/13(水)	大学	講義	日本女子大学	田中徳久	8	
9/22(金)	小学校	流れる水のはたらきを理解するための学習	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	26	
9/28(木)	小学校	地層のでき方を理解するための学習	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	18	
10/1(日)	高校	サイエンスツアー講演「箱根カルデラ」	千葉県立匝瑳高等学校	笠間友博	40	当館および箱根外輪山周辺
10/4(水)	大学	教職課程学生の博物館利用教育の実践	日本大学生物資源科学部	田口公則	7	
10/13(金)	小学校	校外学習6年理科「大地のつくりと変化」	小田原市立三の丸小学校	石浜佐栄子	91	
10/18(水)	小学校	大地のつくり 特別展と常設展の地学分野解説	聖ステパノ学園小学校	笠間友博	19	

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
10/19(木)	小学校	昆虫のからだのつくりを理解するための学習	函嶺白百合学園小学校	渡辺恭平	25	
10/24(火)	小学校	巡検「箱根火山の成り立ち」	自由学園初等部	山下浩之	20	当館および箱根火山周辺
10/29(日)	大学	菌類の分類と生態について	関東学院大学理工学部	折原貴道	7	
10/31(火)	小学校	特別展見学	箱根町立箱根の森小学校	石浜佐栄子	27	
10/31(火)	小学校	5年生理科「流れる水のはたらき」	箱根町立仙石原小学校	石浜佐栄子	14	
11/1(水)	小学校	5年理科「流れる水のはたらき」6年理科「大地のつくりと変化」	小田原市立大窪小学校	石浜佐栄子	68	
11/7(火)	高校	生命の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	8	
11/21(火)	高校	生命の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	8	
11/29(水)	小学校	流れる水のはたらき	箱根町立湯本小学校	石浜佐栄子	26	
12/8(金)	小学校	校外学習「箱根火山の生成過程や火山の仕組み、溶岩の特徴」	小田原市立三の丸小学校	笠間友博	42	
12/9(土)	大学	日本大学生物資源科学部教職課程科	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏 大島光春 田口公則	50	
12/13(水)	中学校	博物館見学と箱根巡検	武蔵中学校	笠間友博 山下浩之	175	当館および大観山、山伏峠、大涌谷
12/23(土)	大学	サイエンスコミュニケーション	神奈川大学理学部	佐藤武宏 田口公則	4	学生4+教員1
1/17(水)	中学校	総合的な学習の時間	小田原市立城山中学校	笠間友博	1	
1/19(金)	小学校	人の体の作りと運動を理解するための学習	函嶺白百合学園小学校	広谷浩子	22	
1/25(木)	小学校	4年生社会見学	川崎市立菅生小学校	山下浩之	111	
1/26(金)	中学校	中学校理科体験学習	函嶺白百合学園中学高等学校	笠間友博	40	
1/31(水)	大学	「地質学Ⅰ」学外研修	桜美林大学リベラルアーツ学群	笠間友博	16	
2/17(土)	中学校	植物の標本作成講座	小田原市立城山中学校科学部	大西 亘	19	
2/21(水)	大学	理科教育法 火山に関する実験	東海大学湘南 教職課程	笠間友博	19	
2/23(金)	大学	火山学習	韓国仁川大学 科学英才	笠間友博	30	
3/2(金)	大学	「地学実験Ⅱ」の実地演習	千葉大学教育学部	佐藤武宏	45	

【依頼元等へ出向いての対応】

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/10(水)	大学	市民科学プロセスの授業および実習補助	白梅学園短期大学	大西 亘	白梅学園短期大学
6/2(金)	中学校	防災教育講演会	鎌倉女学院中学校	平田大二	鎌倉女学院3年生
6/3(土)	中学校	植物図鑑の使い方	小田原市立城山中学校	大西 亘	小田原市立城山中学校
7/15(土)	大学	昆虫採集・昆虫標本の作成(講義・採集)	神奈川大学	渡辺恭平	神奈川大学湘南平塚キャンパス
7/23(日)	大学	昆虫採集・昆虫標本の作成(講義・採集)	神奈川大学	渡辺恭平	神奈川大学湘南平塚キャンパス
10/14(土)	高校	SSH理数実践「箱根ジオパーク」研修	県立西湘高等学校	笠間友博	真鶴周辺
10/26(木)	高校	化石に関する授業ならびに理科部部員に対する化石の解説	県立金井高等学校	大島光春	県立金井高等学校
11/15(水)	大学	実践森林資源科学特別公演「博物館の学芸員の仕事」	日本大学生物資源科学部	渡辺恭平	日本大学生物資源科学部
11/17(金)	大学	自然系博物館の展示	明治大学学芸員養成課程	田口公則	明治大学駿河台校舎
12/2(土)	高校	箱根ジオパークのジオサイト見学解説	県立西湘高等学校	笠間友博	仙石原、大涌谷、長尾峠等
12/7(木)	小学校	6年理科「大地のつくりと変化」	横浜市立東俣野小学校	笠間友博	横浜市立東俣野小学校
12/9(土)	大学	理科教育法1 火山に関する実験	横浜薬科大学教職課程センター	笠間友博	横浜薬科大学
12/15(金)	小学校	6年理科「大地のつくりと変化」	横浜市立千秀小学校	笠間友博	横浜市立千秀小学校
12/15(金)	小学校	野鳥観察を学ぶ教室	山北町立三保小学校	加藤ゆき	三保小学校・三保支所付近
12/19(火)	高校	野生動物について及び博物館での標本づくりについて	県立相原高等学校	広谷浩子	県立相原高等学校
1/17(水)	大学	野生動物学(特別講義)	学校法人東京環境工科学園 東京環境工科学園	渡辺恭平	東京環境工科学園
1/23(火)	小学校	大地のつくりと変化 火山実験	小田原市立下中小学校	笠間友博	小田原市立下中小学校
2/6(火)	中学校	1年生火山の噴火実験	小田原市立城南中学校	笠間友博	小田原市立城南中学校

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
2/14(水)	小学校	火山の成り立ち、地層の様子	聖ステパノ学園小学校	笠間友博	大磯～上大井
3/1(木)	小学校	4年理科「わたしたちの体と運動」	横浜市立千秀小学校	広谷浩子	横浜市立千秀小学校

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

職業体験やインターンシップは、総合学習の一環とした取り組みも含まれ、区別することが難しい。進路学習的な取り組みとしての博物館体験を抽出し記載した。活動内容は、学芸員の仕事や資格を得るための進路および展示室、収蔵庫などの見学、行事等への参加を行った。

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
7/26(水)	高校	高校生インターンシップ	県立小田原高等学校 県立吉田島高等学校 県立山北高等学校	石浜佐栄子 加藤ゆき 松本涼子 佐藤武宏	4
8/9(水)	高校	高校生インターンシップ	函嶺白百合学園高等学校	石浜佐栄子 山下浩之	3
8/16(水)	高校	高校生インターンシップ	県立小田原高等学校 県立吉田島高等学校 県立山北高等学校	石浜佐栄子 笠間友博	4
8/17(木)	高校	高校生インターンシップ	函嶺白百合学園高等学校	石浜佐栄子 笠間友博	3
1/18(木)	高校	職場体験学習	不二聖心女子学院高等学校	石浜佐栄子	1
1/18(木)	中学校	職業体験学習	小田原市立白鷗中学校	石浜佐栄子 学習指導員	3
1/24(水)	中学校	職場体験学習	小田原市立国府津中学校	山下浩之 加藤ゆき 田口公則	1
1/24(水)	中学校	職場体験学習	川崎市立平中学校	山下浩之 加藤ゆき 田口公則	1
1/25(木)	中学校	職場体験学習	湯河原町立湯河原中学校	田口公則	4
2/2(金)	高校	未来の夢講座	県立大磯高等学校	田中徳久	20

5.2.3. 教員の各種研修受け入れ

総合教育センター研修枠として実施した博物館講座は、65～66 ページに記載したため、表より除いた。

【館内で実施分】

実施日	内容	依頼元	対応者	人数	備考
7/22(土)	教員社会体験研修	県立翠嵐高等学校	田口公則 佐藤武宏	1	
7/23(日)	教員社会体験研修	県立翠嵐高等学校 小田原市立酒匂中学校	佐藤武宏	2	
7/26(水)	教員社会体験研修	県立平塚工科高等学校 小田原市立橋中学校 県立小田原養護学校	山下浩之	3	
7/27(木)	教員社会体験研修	県立平塚工科高等学校 小田原市立橋中学校 湯河原町立吉浜小学校	山下浩之	3	
7/28(金)	博物館の骨格標本を使った授業づくり	高教組理科実習教員教育実践委員会	鈴木 聡	17	
7/29(土)	教員社会体験研修	県立小田原養護学校 湯河原町立吉浜小学校	佐藤武宏	2	
7/30(日)	教員社会体験研修	小田原市立酒匂中学校 湯河原町立吉浜小学校	佐藤武宏	2	
7/31(月)	教員社会体験研修	県立平塚商業高等学校 小田原市立千代中学 真鶴町立真鶴小学校	田口公則	3	
8/1(火)	教員社会体験研修	県立平塚商業高等学校 小田原市立千代中学校 真鶴町立真鶴小学校	田口公則	3	
8/6(日)	理科部会臨地研修「丹沢の地層」	川崎市教育研究会理科部会	平田大二	26	当館及び山北町清水付近

実施日	内容	依頼元	対応者	人数	備考
8/18(金)	教員社会体験研修	県立小田原養護学校 小田原市立酒匂中学校	笠間友博	2	
8/21(月)	「小笠原・伊豆弧の衝突」に関する講演、及び箱根火山、大涌谷丹沢山地の巡検	新宿区理科宿泊研修会	平田大二	19	当館及び箱根火山
8/22(火)	厚木愛甲地区小学校教頭会夏季研修視察	厚木愛甲地区小学校教頭会	瀬能 宏 佐藤武宏 大島光春 小宮孝俊	31	
8/25(金)	貝化石拾いなどを通じた化石研究の理解 ほ乳類の骨格などを通じた動物学研究の理解	町田市中学校教育研究会理科部	田口公則 広谷浩子	30	
9/9(土)	平成29年度 「理科の授業づくり研修講座」 「アンモナイト壁の観察」「岩石標本の作製」	総合教育センター	田口公則 山下浩之	20	
10/12(木)	廃食用油を使って火山を作ろう	小田原市小学校教育研究会理科研究部	笠間友博	34	

【依頼元等での実施分】

実施日	内容	依頼元	対応者	実施場所
8/9(水)	足柄上郡・南足柄市中学校理科合同研修会	足柄上郡中学校教育研究会 南足柄市教育研究会	荻部治紀	開成町立文命中学校
8/22(火)	「小笠原・伊豆弧の衝突」に関する講演、及び箱根火山、大涌谷丹沢山地の巡検	新宿区理科宿泊研修会	平田大二	丹沢山地

5.2.4. その他の取り組み

高等学校（部活動）との研究連携を行い、当博物館で高校生による一般来館者向け講座を実施した。

実施日	講座名	依頼元	参加生徒数	対応者	一般参加人数
8/4(金)	バイオテクノロジー教室	県立吉田島高等学校草花部	部員4名	大西 亘	60
8/22(火)	コサージュ教室	県立吉田島高等学校草花部	部員3名	大西 亘	57

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2017年度は、大学・学部から25名の実習生を受け入れた。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する2日間と学芸部が担当する7日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。(7月受入延人数：68人 8月受入延人数：157人)

実習日と主な実習内容

全員共通日程（2日間）

[担当] 企画普及課職員

[期日] 7月27日（木）、7月28日（金）

[内容] オリエンテーション、館長講話、常設展示見学、収蔵庫など館内諸施設見学、管理課長、企画情報部長、学芸部長による館の概要・展示内容・研究状況などの説明。

◎植物・菌類グループ（6名）

[担当] 田中徳久・大西 亘・折原貴道・勝山輝男

[期間] 8月1～4日、7～9日

[内容] 植物・菌類標本の製作、配架、菌類の野外調査など

◎動物グループ（8名）

[担当] 佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・

広谷浩子

[期間] 7月29～30日、8月1～5日

[内容] 標本製作、標本整理、標本情報登録など

グループ別実習（7日間）

[担当] 学芸部各グループ（詳細は以下の通り）

◎魚類グループ（3名）

[担当] 瀬能 宏

[期間] 8月8日、10～13日、16～17日

[期間] 8月4～8日、11～12日

[内容] 岩石標本整理、ワークショップの実施、講座の補助など

[内容] 魚類標本の製作、撮影、登録、配架、メンテナンスなど

◎昆虫グループ (2名)

[担当] 苅部治紀・渡辺恭平

博物館実務実習受け入れ状況

[期間] 8月2～3日、6～8日、10～11日

[内容] 昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、講座の補助など

◎古生物グループ (2名)

[担当] 大島光春・樽 創・田口公則

大学・学部等	人数
八洲学園大学 (東京大学大学院)	1
東海大学	2
明治大学	3
お茶の水女子大学	1
神奈川大学	3
宮崎大学	1
東京大学	2
帯広畜産大学	2
千葉科学大学	2
東京農業大学	2
立正大学	1
日本大学生物資源科学部	1
東京海洋大学	2
筑波大学	2
合計	25

[期間] 7月31日、8月1～2日、5～6日、9～10日

[内容] 古生物標本の整理、化石レプリカ作り、ミニ企画展示の企画と展示、講座の補助

◎地球環境グループ (4名)

[担当] 新井田秀一・笠間友博・山下浩之・石浜左栄子

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。今年度は10大学17件345名の見学実習を受け入れた。

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
6/2(金)	博物館見学実習	明治大学	田口公則	15
6/25(日)	展示および標本庫見学実習	横浜国立大学都市科学部環境リスク共生学科	田口公則	43
7/1(土)	博物館学芸員養成講座における見学	都留文科大学	広谷浩子	18
7/8(土)	博物館見学実習	桜美林大学リベラルアーツ学群	佐藤武宏	12
7/14(金)	博物館体験実習および見学	星槎大学	田口公則	20
9/17(日)	博物館施設見学	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	28
10/1(日)	博物館施設見学	慶應義塾大学理工学部	石浜佐栄子	7
10/28(土)	博物館見学実習	桜美林大学リベラルアーツ学群	佐藤武宏	9
11/4(土)	「博物館資料論」における博物館現地見学	神奈川大学	佐藤武宏	22
11/5(日)	博物館施設見学	慶應義塾大学	石浜佐栄子	5
11/11(土)	「博物館資料論」の見学実習	横浜国立大学教育人間科学部	大西 亘	28
11/18(土)	「博物館資料論」の見学実習	横浜国立大学教育人間科学部	大西 亘	20
12/10(日)	博物館実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	26
12/17(日)	博物館実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	25
1/13(土)	博物館見学	日本大学生物資源科学部	鈴木 聡	21
2/7(水)	「(学)博物館展示論」	日本大学生物資源科学部	新井田秀一	24
2/11(日)	講義及び収蔵庫見学	自由学園高学部(大学部)	広谷浩子	22
合計				345

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を生かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2017年度のライブラリー利用者は91,143人で、1日平均利用者数は341人であった。電話や文書による資料の問い合わせが1件あり、また有料ではあるがコピーサービスも行っており、延べ193件の申込があった。なお、2018年2月19日に県立川崎図書館にあった手動式集密書架を移設したため、前後の工事期間を含め、1月31日～2月28日を閉館した。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	26	20	28	31	25	25	24	20	18	0	25	267
利用者数	7,467	9,015	6,177	9,578	16,552	7,948	9,647	7,227	4,324	5,157	0	8,051	91,143
平均利用者数	299	347	309	342	534	318	386	301	216	287	0	322	341

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんに、より身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員（非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応状況については、3.4レファレンス対応人数(40ページ)参照

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申し込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したビデオ映像の貸し出しも行っている。

この下見見学の多くは学校関係者や、子ども会、ボーイスカウト、障がいのある方々の施設・団体である。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間 15～20 分程度で、学習指導員が展示室の構成やおもな展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。また、2017 年度より「みどころガイド～博物館のここがイチオシ!～」という一般ガイダンスを繁忙期に実施した。

月別ガイダンス対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
件数	27	48	29	30	30	23	44	31	11	5	34	27	339	28.3
人数	1,383	1,885	1,474	1,249	1,210	1,211	2,247	1,383	303	312	1,481	805	14,943	1245.3

みどころガイド～博物館のここがイチオシ!～実施状況

ゴールデンウィーク期間							
月 日	10:30-10:45		13:00-13:15		合計		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	小計
4/29 (土祝)	18	11	14	6	32	17	49
4/30 (日)	8	4	10	1	18	5	23
5/1 (月)	12	0	6	0	18	0	18
5/2 (火)	9	3	4	3	13	6	19
5/3 (水祝)	8	3	12	14	20	17	37
5/4 (木祝)	6	1	19	11	25	12	37
5/5 (金祝)	5	5	17	9	22	14	36
5/6 (土)	9	2	23	6	32	8	40
5/7 (日)	17	18	7	2	24	20	44
小 計	92	47	112	52	204	99	303
夏休み期間							
月 日	11:00-11:15		13:00-13:15		合計		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	小計
7/23 (日)	11	7	10	4	21	11	33
7/30 (日)	16	11	10	5	26	16	42
8/6 (日)	11	3	11	6	22	9	31
8/11 (金祝)	19	12	26	15	45	27	72
8/12 (土)	28	12	16	11	44	23	67
8/13 (日)	19	8	3	5	22	13	35
8/20 (日)	19	9			19	9	28
小 計	123	62	76	46	199	108	307
合 計							610

5.5.3. 団体利用状況

2017年度の団体利用人数は、1,318団体、62,375人で、入館者数全体319,134人に対する割合は19.5%であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係(保育園を含む)と学校以外で分け示した。

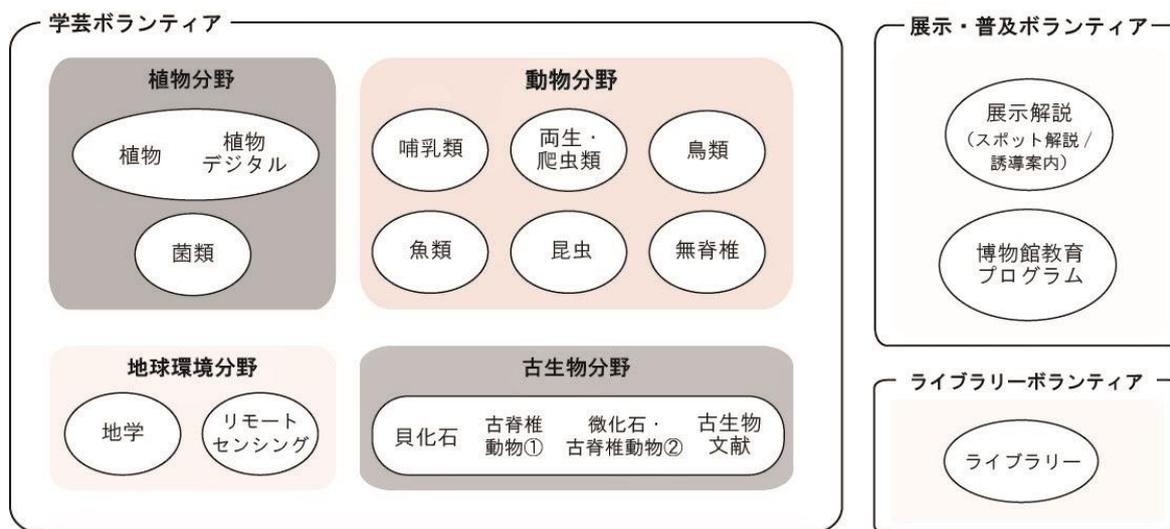
	神奈川県内から		県外から		合計件数	
学校教育	365	52.4%	346	55.6%	711	53.9%
幼稚園・保育園	105	15.1%	26	4.2%	131	9.9%
小学校	166	23.9%	245	39.4%	411	31.2%
中学校	28	4.0%	19	3.1%	47	3.6%
高等学校	13	1.9%	17	2.7%	30	2.3%
特別支援校・級	29	4.2%	5	0.8%	34	2.6%
大学	24	3.4%	34	5.5%	58	4.4%
学校以外	331	47.6%	276	44.4%	607	46.1%
合 計	696		622		1,318	100.0%

地区別利用状況（上段：件数、下段：人数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
小田原	件数	8	12	6	8	1	12	13	9	3	5	9	9	95	7.2%
	人数	161	510	153	185	19	255	501	404	114	201	279	214	2,996	4.8%
足柄下	件数	0	2	1	0	1	2	4	2	1	3	2	1	19	1.4%
	人数	0	27	10	0	4	33	89	56	34	65	59	39	416	0.7%
足柄上	件数	1	2	0	2	4	1	4	8	0	2	3	0	27	2.0%
	人数	9	92	0	93	115	14	402	542	0	108	102	0	1,477	2.4%
二宮・大磯・平塚	件数	6	5	7	2	12	2	11	6	4	2	2	4	63	4.8%
	人数	363	226	277	65	244	20	532	267	78	38	38	99	2,247	3.6%
秦野・伊勢原・厚木	件数	12	8	4	6	6	3	12	7	3	2	9	13	85	6.4%
	人数	884	308	106	265	134	104	953	352	102	47	278	514	4,047	6.5%
県央・相模原	件数	12	8	2	6	7	9	33	12	4	1	5	14	113	8.6%
	人数	851	339	45	177	249	755	2,752	527	67	16	195	687	6,660	10.7%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	件数	6	5	8	7	13	4	14	9	3	3	8	10	90	6.8%
	人数	204	273	900	380	403	142	719	335	151	60	257	453	4,277	6.9%
横須賀・三浦・逗子	件数	1	5	5	3	10	1	2	7	0	2	2	2	40	3.0%
	人数	25	285	167	238	468	104	42	407	0	50	32	40	1,858	3.0%
横浜	件数	6	12	19	14	7	9	16	18	6	1	8	12	128	9.7%
	人数	437	525	1,241	877	163	668	828	555	242	98	394	294	6,322	10.1%
川崎	件数	1	0	0	6	1	0	3	3	4	3	6	4	31	2.4%
	人数	49	0	0	508	26	0	83	241	400	364	552	186	2,409	3.9%
県内 全域・地区不明	件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.1%
	人数	0	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	45	0.1%
東京都	件数	11	24	37	18	13	26	39	26	8	5	14	20	241	18.3%
	人数	962	1,936	1,920	1,007	556	1,191	2,121	1,163	303	174	437	861	12,631	20.3%
千葉県	件数	0	8	0	2	2	12	85	11	3	0	3	2	128	9.7%
	人数	0	343	0	36	92	593	3,849	532	100	0	58	85	5,688	9.1%
静岡県	件数	11	11	8	6	9	13	14	12	7	4	7	12	114	8.6%
	人数	479	519	271	312	347	395	581	1,068	193	122	192	477	4,956	7.9%
山梨県	件数	0	4	1	2	2	0	5	4	0	0	0	1	19	1.4%
	人数	0	243	23	42	60	0	82	151	0	0	0	20	621	1.0%
埼玉県	件数	1	6	9	4	2	11	20	18	6	2	2	3	84	6.4%
	人数	24	476	316	183	68	601	938	994	220	56	50	90	4,016	6.4%
茨城県	件数	1	1	3	0	0	0	4	4	0	0	2	0	15	1.1%
	人数	317	51	69	0	0	0	215	117	0	0	65	0	834	1.3%
その他の都道府県	件数	1	3	1	2	3	2	7	3	0	0	3	0	25	1.9%
	人数	16	185	13	29	68	27	320	154	0	0	63	0	875	1.4%
神奈川県合計	件数	53	59	52	54	62	43	112	82	28	24	54	69	692	52.5%
	人数	2,983	2,585	2,899	2,788	1,825	2,095	6,901	3,731	1,188	1,047	2,186	2,526	32,754	52.5%
合 計	件数	78	116	111	88	93	107	286	160	52	35	85	107	1,318	100.0%
	人数	4,781	6,338	5,511	4,397	3,016	4,902	15,007	7,910	2,004	1,399	3,051	4,059	62,375	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「ライブラリーボランティア」「展示・普及ボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専門的な技術や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.3. 展示・普及ボランティア

各自の都合の良い日に来館し、得意な展示分野についての案内や解説を行っている（スポット解説）。視覚障がい者の方の誘導や、展示ラベルへの点字シールの製作・貼付などの活動も行う（誘導・案内）。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティア（現ライブラリーボランティア）」の登録者から希望を募り 2002 年度から始まった活動である。2004 年度からはボランティア入門講座でも展示解説分野を設置し、

講座修了者が活動に加わっている。

2015年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている（2017年度：延べ73名）。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は下表のとおりである。

2017年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男性	女性
実人数 ※	359	178	181
1) 学芸ボランティア	341	162	179
2) ライブラリーボランティア	6	0	6
3) 展示解説ボランティア	64	36	28

※1)～3)の分野別ボランティアには重複登録を含める。

実人数 359名のうち、保険加入は 293名

2017年度「博物館ボランティア」登録者の内訳及び月別の活動状況

分野		登録数(延べ人数)			活動状況(延べ人数)													
		合計	男性	女性	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学芸 ボランティア	植物	植 物	49	11	38	570	63	57	34	45	41	52	57	38	37	37	59	50
		菌 類	51	26	25	585	46	65	52	53	48	38	52	52	50	38	32	59
	動物	哺乳類	25	10	15	128	16	12	9	12	14	6	6	12	5	8	10	18
		両生爬虫類	13	4	9	86	5	13	5	1	5	6	8	11	15	2	9	6
		鳥 類	17	7	10	81	6	7	3	6	5	7	6	3	13	6	6	13
		魚 類	57	33	24	434	25	50	40	53	30	20	23	39	34	27	58	35
		昆 虫	31	23	8	393	44	38	27	32	39	39	39	14	21	28	35	37
	地球環境	軟体・甲殻類	10	5	5	60	6	3	4	5	5	3	5	6	4	6	7	6
		地 学	34	16	18	601	43	56	38	64	56	50	55	59	27	54	42	57
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	古生物	54	27	27	469	37	47	19	47	36	37	55	59	25	34	35	38	
延べ人数		341	162	179	3,407	291	348	231	318	279	258	306	293	231	240	293	319	
ライブラリーボランティア		6	0	6	20	3	1	1	1	3	0	3	2	1	2	2	1	
展示解説 ボランティア	展示解説	43	29	14	388	40	45	33	39	39	34	26	21	25	34	22	30	
	誘導案内	10	4	6	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
	博物館教育プログラム	11	3	8	77	4	9	3	6	7	4	4	3	3	5	17	12	
	延べ人数	64	36	28	469	44	54	36	45	46	40	32	24	28	39	39	42	
全体延べ人数		411	198	213	3,896	338	403	268	364	328	298	341	319	260	281	334	362	

※植物は植物デジタルを含む。古生物は古生物文献を含む。

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2017年度の実施内容は表のとおりである。

[日時]

2018年1月28日(日)～2月10日(土)までの間
の2～3日間(分野別の講座が1～2日間)

[受講人数]

学芸10分野22名、教育プログラム3名 計25名

[講座定員]

学芸10分野51名、教育プログラム4名 計55名

講座日程

共通講座(初日:2018年1月28日(日))

時間	内容
10:00～10:10	開会、館長あいさつ
10:10～10:40	講義「博物館活動とボランティア」
10:40～12:00	展示室見学・バックヤード見学
13:00～14:30	バックヤード見学・展示室見学
14:30～15:00	現役ボランティアの体験談
15:00～15:10	ボランティアに関する説明と注意
15:10～16:00	各分野の紹介と顔合わせ
16:00	終了(分野別に随時解散)

分野別実習(1月30日～2月10日の1～2日間)

分野	実施日	内容	定員	受入	受講	登録
植物	2月7日、9日	植物標本作製・配架作業等	3	1	1	1
植物デジタル	2月7日、9日	パソコン、スキャナ、デジカメ等による植物資料作成	5	1	1	1
菌類	2月1日、8日	野外調査・観察・標本作製・収蔵	3	1	1	1
哺乳類	2月3日、4日	標本作製・整理	5	4	4	4
両生類・爬虫類	2月10日	標本作製	5	5	5	4
昆虫	2月6日、7日	標本作製	3	1	1	1
魚類	2月3日、4日	講座の補助、標本作製等	4	1	1	1
無脊椎動物(貝・カニ)	2月10日	標本作製・整理・登録・配架	4	2	2	2
古生物①(貝化石)	1月30日	標本作製・撮影、データ入力	3	1	1	1
古生物②(古脊椎動物・植物化石・微化石)	1月30日または2月7日	標本作製・整理、デジタル資料作成等	16	5	5	5
博物館教育プログラム	2月4日	ワークショップ(よろずスタジオ)の補助	4	3	3	3
合計			55	25	25	24

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2017年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展・企画展・観察会など1年間の各種催し物を告知するため「催物案内」、特別展・企画展開催に合わせポスターとチラシ等を下記の表のとおり作成・配布した。

作成月	印刷物名	仕様(規格、印刷、色数)	印刷部数	主な配布先	配布件数
6	特別展 「地球を『はぎ取る』～地層が伝える 大地の記憶～」ポスター	B2判 オフセット印刷 4色刷り	1,600	C, D, E, F, G, H, J, L	1,500
	特別展 「地球を『はぎ取る』～地層が伝える 大地の記憶～」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	62,000	A, B, C, D, E, F, G, H, J, L	
	特別展 「地球を『はぎ取る』～地層が伝える 大地の記憶～」招待券	70mm×148mm オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	25,000	C, D, E, F, G, H, J, L	
9	特別講演会 「ヒアリってどんなアリ?」 ポスター・チラシ	B3判、A4判 館内簡易印刷	B3判: 5 A4判: 200	館内掲示	-
10	特別展シンポジウム “はぎ取り”で保存する ポスター・チラシ	B3判、A4判 館内簡易印刷	B3判: 5 A4判: 100	館内掲示	-
11	企画展 「レッドデータの生物」ポスター	B2判 オフセット印刷 4色刷り B3判 館内簡易印刷	B2判: 600 B3判: 9	B2判: C, D, E, F, G, H, J, L B3判: K	1,200
	企画展 「レッドデータの生物」チラシ	A4判 オフセット印刷 表面4色・裏面1色刷り	27,000	C, D, E, F, G, H, J, L	
2	「ミュージズ・フェスタ2018」チラシ	A4判 オフセット印刷 片面4色刷り	33,000	A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, L	450
	「ミュージズ・フェスタ2018シンポジウム」 ポスター・チラシ	B3判、A4判 館内簡易印刷	B3判: 9 A4判: 300	館内掲示	-
2	2018年度催物案内	A3判 オフセット印刷 両面1色	30,000	C, D, E, F, G, H, L	900



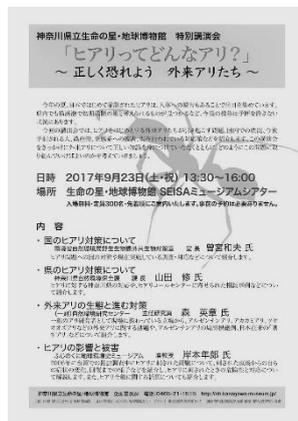
特別展のチラシ(表面)



特別展シンポジウムチラシ

主な配布先の凡例。

- A: 足柄上・下地区公立小学校;
- B: 足柄上・下地区公立中学校;
- C: 県内図書館;
- D: 県内公民館・地区センター;
- E: 博物館園;
- F: 県市町村情報提供窓口;
- G: マスメディア;
- H: 小田急電鉄、箱根登山鉄道;
- I: 足柄上・下地区公立幼稚園;
- J: 郵便局;
- K: 百貨店、大手スーパーマーケット;
- L: その他;



特別講演会チラシ



企画展のチラシ(表面)



ミュージズ・フェスタシンポジウムチラシ



ミュージズ・フェスタチラシ

5.7.2 マスメディア等への情報提供

博物館の行う各種催し物の案内は、地元の小田原記者クラブへ定期的に提供している。また、当館は観光地箱根・小田原エリアにあるため、旅行情報誌やアミューズメント情報誌などに無償で施設紹介されており、非常に恵まれた環境にある。これら情報誌とは定期的に情報の更新を行っている。

特別展や企画展といった企画展示の話題は、マスメディアで取り上げられる率が高いため、小田原記者クラブ以外にケーブルテレビ、タウン誌など中小のメディア向けにも情報提供する一方、前日に内覧会を実施するなど様々なかたちで広報展開を図った。

この1年間の紹介記事件数は、確認したものだけでも217件あった。その内訳は、新聞59件、広報誌・情報誌・雑誌等88件、テレビ9件、ラジオ5件、ウェブサイト等インターネット44件、その他12件である。これは掲載社からの連絡に基づくもので、実際の記事件数はこの数倍にのぼると思われる。特に、ウェブサイトでの掲載頻度に関しては未知数である。

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」第47号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川県自然誌資料」第39号を刊行した。本誌は国内の主な研究機関（一部海外を含む）、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容をホームページ<<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>>で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」第22号（2016年度）を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 研究報告

[号数] 第47号	相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類18種—近年における暖水性魚類の北上傾向について—
[発行日] 2018年2月28日	加賀玲子・川島逸郎・苅部治紀：ウマノオバチ <i>Euurobracon yokahamae</i> (Dalla Torre, 1898) (Insecta: Hymenoptera: Braconidae) の生活史、特にその寄主について
[発行数] 800部	櫻井 博・苅部治紀・加賀玲子：ムネアカハラビロカマキリの非意図的導入事例—中国から輸入された竹箒に付着した卵鞘—
[編集担当] 鈴木 聡・大島光春	渡辺恭平・谷脇 徹：ブナハバチ（ハチ目、ハバチ科）と関係がある <i>Aptesis</i> および <i>Javra</i> （ハチ目、ヒメバチ科、トガリヒメバチ亜科）の1新種の記載を伴う分類学的研究
[内容]	短報
地球科学	渡辺恭平・秋元 徹：ケンチビトガリヒメバチ <i>Polytribax penetrator</i> (Smith, 1874)（ハチ目、ヒメバチ科、トガリヒメバチ亜科）のチョウ目への寄生例
短報	鈴木 聡：神奈川県西部の狩川下流部におけるニホンイタチ <i>Mustela itatsi</i> の生息状況
笠間友博：三浦半島南部の箱根東京テフラ	資料
報告	渡辺恭平：鹿児島県沖永良部島の調査で得られたハチ目昆虫
高橋直樹・山下浩之・大島光春・森 慎一・藤岡換太郎・廣瀬重之・川上 創・藤井友紀子・2014 KO-0H0-0 の会メンバー：相模湾中央部相模海丘および伊豆半島南方沖石廊海底谷における海底地形・地質の目視観察—ディープ・トウによる YK14-22 次航海調査報告—	
植物学	
資料	
田中徳久・勝山輝男・大西 亘：神奈川県立生命の星・地球博物館の維管束植物標本の採集属性に基づいた構成	
動物学	
原著論文	
山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤柊也・酒井卓・瀬能 宏：	

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 第 39 号

[発行日] 2018 年 2 月 28 日

[発行部数] 650 部

[編集担当] 松本涼子・広谷浩子

[編集委員会] 瀬能 宏・池田 等・川島逸郎

[内容]

陶山 舞・佐藤大樹・折原貴道：入生田における
アシマダラブユ幼虫腸内寄生菌の通年観察

高橋多枝子：神奈川県横浜市青葉区恩田町のコ
ケ植物

伊藤寿茂・植田育男・萩原清司・北嶋 円・岩崎
猛朗・村石健一・崎山直夫：江の島の潮間帯動
物相 - VII

倉持卓司・倉持敦子・伊藤 勇：三浦半島沿岸域
から採集されたセンヒメウミウシ（軟体動物、
腹足綱、異鰓上目）の形態と初期発生につい
て

逢沢峰昭：山岳文献にみられる 1945 年以前の丹
沢におけるニホンヤマビルの生息情報

丸山智朗：相模湾および周辺海域流入河川にお
いて 2016 年 8 月以降に採集された熱帯性コエ
ビ類 5 種の記録

平岡礼鳥・奥 俊輔・亭島博彦：形態的特徴と
DNA バーコーディングにより同定された多摩

川における外来淡水エビ、チュウゴクスジェ
ビ *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911)

伊藤寿茂・島津恒雄：ヒメヤマトオサガニ
Macrophthalmus banzai Wada & Sakai, 1989
の神奈川県からの産出記録

佐野真吾・荻部治紀・吉崎真司：横浜市における
ミズカメムシ科の記録

佐野真吾・荻部治紀・吉崎真司：横浜市の止水域
における水生昆虫の生息状況、水生甲虫

渡辺恭平・川島逸郎・関 悦子：川崎市立日本民
家園で発見されたソボツチスガリ（ハチ目：
ギングチバチ科）とその生息環境

三井翔太・山川宇宙：三浦半島・関根川水系の魚
類相

三井翔太：下山川水系の魚類相についての追加
記録

崎山直夫・瀬能 宏・山崎哲也：相模湾で初記録
となるツルギエチオピア（ズキ目シマガツ
オ科）について

三井翔太・瀬能 宏：相模湾から得られた北限記
録のテンジクタチ

石原龍雄・松本涼子：箱根町におけるモリアオガ
エル (*Rhacophorus arboreus*) の分布と推測さ
れる移入経路について

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 第 23 巻 2 号 通巻 87 号

[発行日] 2017 年 6 月 20 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

石浜佐栄子：表紙「地球を『はぎ取る』」

石浜佐栄子：「特別展 地球を『はぎ取る』～地層
が伝える大地の記憶～」

折原貴道：「菌類の調査、いっしょにやりませんか？
—市民参加型の生き物調査の取り組み—」

鈴木 聡：「街中に残された哺乳類の貴重なすみか
—河川敷—」

土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌①
開高 健の巻」

自然科学のとびら 第 23 巻 3 号 通巻 88 号

[発行日] 2017 年 9 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

瀬能 宏：表紙「ムラソイの黄化個体」

大西 亘：「地域自然史博物館のデジタル・アーカイブ - 概要 -」

荻部治紀：「ヒアリってどんなアリ？ - 正しく恐れよう外来アリたち -」

山下浩之：「県の石」

佐藤武宏：「日本の海の自然を詰め込んだ箱庭・相模湾」

小林瑞穂：ライブラリー通信「箱根のガイドブック」

自然科学のとびら 第23巻4号 通巻89号

[発行日] 2017年12月15日

[発行部数] 250部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

加藤ゆき：表紙「トキ」

加藤ゆき：「神奈川県レッドデータブック 2 回目の改訂に向けて」

笠間友博：「“地層バイキング” 特別展「地球を『はぎ取る』」ワークショップ報告」

石浜佐栄子：「作って、読み解く “お天気の上ましま” 特別展「地球を『はぎ取る』」で作った 114

日間の地層」

田中徳久：「維管束植物標本の特筆すべきコレクション」

土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌② 正岡 子規の巻」

自然科学のとびら 第24巻1号 通巻90号

[発行日] 2018年3月15日

[発行部数] 250部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

新井田秀一：表紙「宇宙から見た東京～神奈川」

渡辺恭平：「古民家で暮らすハチたちを調べて」

大西 亘：「地域自然史博物館のデジタルアーカイブが目指すもの」

広谷浩子：「大型冷凍庫リニューアル ～ 「大整理」から得た指針とは？～」

田口公則：展示シリーズ 21 「レインボーアンモナイト」

小林瑞穂：ライブラリー通信「楽しいきのこの世界」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 第22号

[発行日] 2017年8月25日

[発行部数] 500部

[編集担当] 田村 哲、平賀保彦、折原貴道

[内容]

沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6.2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	145	化石どうぶつ園	1,100	8
地球 SOS	500	13	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006	2,000	18
絶滅した生物	500	12	読みもの ナウマンゾウがいた！	800	19
貝からの伝言	500	17	樹洞	1,000	10
櫻井コレクションの魅力	400	18	水生昆虫大百科	1,000	29
日本の魚学・水産学事始め	1,000	4	大トンボ展	1,200	19
オオカミとその仲間たち	1,100	22	益田一と日本の魚類学	1,400	4
カニの姿	1,200	3	どうなる？どうする！外来生物	1,000	41
フットのひとりごと	400	1	地球を『はぎ取る』 展示解説書	900	1,050
神奈川県植物誌 2001	9,800	7	合計		1,440

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、当博物館が目指す以下のような新しい博物館を支えるシステムとして整備されることとなった。

- ・高度情報化における自然・文化の情報センター
- ・映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- ・他の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

上記の3システムは、1995年度より稼働している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」の2つのサブシステムにより構成され、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援する。

なお、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせに対しては、当初、別のサブシステムが計画されていたが、現在はインターネットの普及により博物館のウェブサイトをもって代替運用している。

当システムは当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2016年度の機器更新では、最新のOSとセキュリティ対策ソフトにより安全で快適なシステムが構築されている。2018年3月31日現在の、博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名		メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ディスク容量			
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S8	16GB	600GB×6 (RAID5)	1	収蔵資料管理システム (アプリサーバ)
		RedHat Enterprise Linux 6.5				
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	16GB	500GB×2 (RAID1)	1	収蔵資料管理システム (サーチサーバ)
		RedHat Enterprise Linux 6.5				
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	4GB	500GB×2 (RAID1)	1	展示情報システムの管理
		RedHat Enterprise Linux 6.5				
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	16GB	900GB×2 (RAID1)	1	ウェブサイトの管理
		RedHat Enterprise Linux 6.5				
	Update サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	8GB	1TB×4 (RAID1)	1	Windows Update の管理
		Windows Server 2012 R2 Standard				
	CMS サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M1	4GB	250GB×2 (RAID1)	1	ウェブサイト更新管理
		RedHat Enterprise Linux 6.6				
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M	8GB	500GB	1	
		Windows 8.1 Professional				
画像入力用	富士通 CELSIUS W530	8GB	500GB	1		
	Windows 8.1 Professional					
ミュージアムライブラリー	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D583/K	2GB	320GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 8.1 Professional				
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M 他	8GB	500GB	3	
		Windows 8.1 Professional 他				
研究室・バックヤード	研究用WS	富士通 CELSIUS W550 他	16GB	1TB	2	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 8.1 Professional 他				
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M 他	8GB	500GB	42	
		Windows 8.1 Professional 他				

*28年度リースを反映させて作成。備品・消耗品はカウントせずリースのみの数

*機種名・使用OS・ソフトは機器更新 納入明細より作成

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

収蔵資料管理システムでは、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料情報を、サーバーで一元管理するとともに、資料の画像情報の管理も行う。このサブシステムは博物館情報システムの中核となるシステムであり、資料の受入からラベル等の印刷やダウンロードまでをカバーできる。

当サブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』および『神奈川県植物誌 2001』の証拠標本を含む『維管束植物データベース』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真を属性情報とともにデータベース化した『魚類写真資料データベース』など、30のデータベースから構成され、館外資料の情報を格納するデータベースも準備されている。2003年度より、書籍（図

書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。標本・アーカイブズ登録状況は、50ページに記載した。また、ライブラリー情報は次に示した。

分野	2016年度までの登録件数	2017年度の登録件数	合計
図書	26,115	1,134	27,249
雑誌	3,684	91	3,775
別刷り	340	0	340
合計	30,139	1,225	31,364

また、これらの情報は、研究への利用はもちろん、一部ではあるがミュージアムライブラリーやウェブサイトで公開されている。なお、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

7.2.2 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。2017年度は神奈川の自然のチョウ・トンボを一新し、「昆虫」というメニューを新規作成した。この他に、神奈川県立歴史博物館が作成・提供している「画像で見る歴史と文化」、「収蔵品コレクション」も閲覧が可能である。

また、展示情報システムの一部は、2004年7月より、当館ならではのコンテンツとして、ウェブサイト上で公開している。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126種の画像や解説文を提供する。
	関東ロー層	神奈川の主要な火山灰層、1,170点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を770枚、うち学芸員のおすすめ写真を63枚解説と共に提供する。
	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類20種の画像や解説文、骨の画像を380枚提供する。
酒井コレクション細密画		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660種の画像を提供する。
菌類細密画		菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129点の画像を提供する。
日本で見られる恐竜		国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書26,423冊、雑誌3,651タイトルが検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1 ウェブサイト

小田原市と共同で1995年10月より開設していたウェブサイト（ウェブページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブサイトのデザインを大幅に改良した。ウェブサイトでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997年度以降のアクセス実績に関しては、資料の項（106ページ）に掲載した。

月別ウェブトップページアクセス数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
人数	31,296	33,830	33,067	41,964	57,878	34,409	35,059	28,526	27,165	32,567	32,123	40,205	428,089	35,674

7.3.2 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年より運用している。近年では毎年約5,000件の画像資料を追加している。

2004年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（ページビュー数；画像のダウンロード数は含まない）に関しては、資料の項（106～107ページ）に掲載した。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概要	年間アクセス件数
魚類写真資料データベース http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類 104,195 件の画像を提供している。研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	1,193,401 件
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類 96,785 件の画像を提供している。	460,591 件

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的にかかわり情報を提供しているウェブサイトについて、表にまとめた。

博物館の情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概要	提供件数
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大地・地球地学紀行、増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。	約2,500件

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数は GBIF 全体では 2018 年 4 月 5 日現在 9 億 8,248 万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net (サイエンスミュージアムネット) として国立科学博物館経由で GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006 年度より、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携を図り、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2017 年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全 3 館、全体で 38,400 件の自然史標本情報の提供を行った。

2017 年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館

大磯町郷土資料館

相模原市立博物館

神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの 2017 年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
維管束植物	10,000 件
軟体動物	3,000 件
魚類	10,000 件
両生類	150 件
爬虫類	100 件
昆虫	12,150 件
合計	35,400 件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1997（平成 9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選により選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、ミュージズ・フェスタ 2018（22～23 ページ参照）に参加したり、博物館との共催でサロン・ド・小田原（4 回／90 ページ参照）や、よろずスタジオ（9 回／67 ページ参照）を開催した。

事務局

1. 総会を 2017 年 4 月 9 日（日）に開催した。
2. 役員会を 6 回開催し、以下の事項を検討・実施した。
 - 1) 友の会の運営について
 - 2) 会員への発送作業などについて
 - 3) 総会、およびイベントについて
 - 4) ミューズ・フェスタ 2017 について
 - 5) 20 周年記念誌発行関連事業について

2017 年 4 月で友の会発足 20 周年を迎えたことに関連して、20 年の歩みを振り返りつつ、これからの友の会のあり方を模索するため「友の会で語る博物館の楽しみ方 ―博物館友の会 20 周年記念誌―」を 2017 年 9 月 20 日（水）に刊行。あわせて、2018 年 2 月 11 日（日・祝）に発行記念パーティーを開催した。

[20 周年記念誌編集委員会]

鈴木智明、中村恭子、星野和子、田口公則、関口康弘、飯島俊幸

広報部

1. 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
2. ツイッター (@kpmtomo) による情報提供
3. 友の会入会案内チラシ（表面：入会案内、裏面：友の会 行事予定表）の作成・配付
4. 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
5. 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 96～99 号）発行
6. 「自然科学のとびら 友の会版」を 4 回（通巻 87～90 号）発行

企画部

友の会が主催する講座や観察会を企画し、それらが円滑に実施できるように博物館側との調整を行い、次の講座を実施し、延べ 34 講座、2,228 人が参加した（別表のとおり）。

8.1.2. 観察会・講座等

	行事名	開催日	開催場所	参加者数
1	樹木観察基礎講座「果物のなる木々 ウメやモモの仲間」	4/8(土)	実習実験室	15
2	総会	4/9(日)	SEISA ミュージアムシアター	40
3	総会イベント「友の会20周年を迎えて」講演・シンポジウム	4/9(日)	SEISA ミュージアムシアター	42
4	共催 よろずスタジオ「アンモナイトのレプリカを作ろう」(分野:古生物)	4/16(日)	講義室東側	134
5	植物観察会「奥多摩・横沢入に春の植物を訪ねて」	4/26(水)	東京都あきる野市	24
6	箱根明星ヶ岳からの火山地形俯瞰と久野石観察会	5/13(土)	箱根明星ヶ岳周辺	雨天中止
7	共催 よろずスタジオ「動物の足の裏に注目」(分野:哺乳類)	5/21(日)	講義室東側	144
8	生物間共生について「世界遺産の無人島 聳島列島で自然環境再生に挑戦する」	6/10(土)	実習実験室	17
9	樹木観察基礎講座「果物のなる木々 ナシとその仲間」	6/11(日)	実習実験室	13
10	共催 よろずスタジオ「葉脈標本を作ろう」(分野:植物)	6/25(日)	実習実験室	183
11	地話懇話会「同位体岩石学と歩んで」	6/28(水)	講義室西側	19
12	植物観察会「三つ峠周辺の植物散策」	7/7(金)	山梨県河口湖町	33
13	パソコンで鉱物結晶図を描いてみよう	8/6(日)	実習実験室	11
14	ブランクトン観察	8/14(月)	実習実験室	中止
15	「箱根火山の火山灰を調べてみよう」	8/18(金)	実習実験室	386
16	地話懇話会「地球を剥ぎ取る～特別展開連解説～」	8/23(水)	講義室西側	34
17	植物観察会「谷川岳山麓を歩く」	9/5(火)	群馬県水上町	31
18	共催 よろずスタジオ「きのこの仲間を見てみよう」(分野:菌類)	9/17(日)	講義室東側	97
19	大磯丘陵の地質を巡る～特別展の剥ぎ取り標本採集地を観る～	10/15(日)	大磯丘陵周辺	雨天中止
20	共催 よろずスタジオ「巻貝の中はらせん階段？」(分野:貝類)	10/15(日)	講義室東側	153
21	植物観察会「剣崎で秋の海浜植物観察」	10/18(水)	三浦市剣崎	31
22	樹木観察基礎講座「果物のなる木々 クリとその仲間」	10/21(土)	講義室西側	8
23	生物間共生講座IV「植物と他生物との巧みで多様な共生関係」	10/28(土)	実習実験室	27
24	共催 よろずスタジオ「木の実・草の実で楽しい工作」(分野:植物)	11/19(日)	講義室東側	70
25	身近な材料を使った岩石薄片(プレパラート)作り体験	11/25(土)	実習実験室	7
26	共催 よろずスタジオ「ミツクリザメの歯をよく見てみよう」(分野:魚類)	12/17(日)	講義室東側	272
27	共催 よろずスタジオ「砂で遊ぼう」(分野:地質)	1/21(日)	講義室東側	167
28	地話懇話会「活断層が作る地形と調査・研究からわかること」	1/24(水)	講義室西側	34
29	樹木観察基礎講座「果物のなる木々 ウンシュウミカンとその仲間」	1/28(日)	講義室西側	16
30	地図を楽しもう	2/11(日)	実習実験室	6
31	早春の地層・地質観察会～三浦半島中部横断の地形・地質観察会～	2/12(月祝)	三浦半島中部周辺	30
32	共催 よろずスタジオ「昆虫の体を調べてみよう」(分野:昆虫)	2/18(日)	講義室東側	124
33	植物観察会「入生田の植物に親しむ」	3/3(土)	入生田周辺	26
34	地話懇話会「南から来た伊豆半島の歴史を紐解く」	3/28(水)	講義室西側	34
合 計				2,228

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供（講演）、第2部の交流会（ワークショップなど）を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待している。

第125回サロン・ド・小田原

「シーラカンスから海を学ぶ ―シーラカンス研究最前線―」

[開催日] 2017年8月16日(水)

[会場] 博物館東・西講義室

[話題提供] 藪本美孝氏(北九州市立いのちのたび博物館)、パウロ・ブリトー氏、カミラ・クペロ氏(リオデジャネイロ州立大学)

[交流会] 標本解説、シーラカンスのワークシートなど

[参加者数] 75名

第127回サロン・ド・小田原

「希少昆虫の保全現場最前線―レッドリストが救うもの―」

[開催日] 2018年1月20日(土)

[会場] 特別展示室、博物館西講義室

[展示見学] 特別展示室

[話題提供] 須田真一氏(中央大学保全生態研究室 研究員)

[交流会] 質疑応答、意見交換など

[参加者数] 41名

第126回 サロン・ド・小田原

「地球の現場の保存と再現 なぜ、地層をはぎ取るのか―芸術と地質学のコラボレーション―」

[開催日] 2017年9月30日(土)

[会場] 博物館東・西講義室

[トークセッション] 森山哲和(考古造形研究所)、平田大二(館長)

[交流会] 話題提供者を囲んでの質疑応答など

[参加者数] 41名

第128回サロン・ド・小田原

「大きな標本をてのひらサイズに? フォトグラメトリーと博物館」

[開催日] 2018年3月24日(土)

[会場] 博物館東・西講義室

[話題提供] 森 健人(国立科学博物館支援研究員)

[交流会] ワークショップ:スマートフォンを利用したフォトグラメトリー

[参加者数] 22名

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会 (WESKAMS)

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのあり方を考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は53施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS(ウエスカムズ)」と名付け、その事務局を当館に置いている。

WESKAMSの目的を達成させるための事業について、協議・検討する場として「館園長・協力会員会議」を年2回程度開催している。

また、WESKAMS に加盟するミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て、特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
7/12 (水)	情報交換会	箱根ガラスの森美術館	10 館園 16 名、協力会員 4 名
2/23 (金)	館園長・協力会員会議	生命の星・地球博物館	14 館園 19 名、協力会員 3 名

ミュージアム・リレー

開催日・開催場所	内容	一般	高校生	関係者
第 236 走 2017 年 4 月 21 日 (金) ① MOA 美術館 ② 小田原城天守閣	①昨年1年間リニューアルのため閉館。今年の2月にリニューアルオープン。美術館の一角にある能楽堂で、杉本博司氏の設計によるリニューアルの内容、高さ4mの漆塗りの自動扉・映り込みのない展示ガラス等のリニューアルの特徴点などについて聴講。現在開催中の「奇想の絵師岩佐又兵衛 山中常盤物語絵巻」のポイントや見所の解説を受け見学。	22 名		8 名
	②天守閣では、江戸時代・戦国時代の小田原城についての常設展示、現在開催中の特別展「小田原城址の150年」などについて解説を受け見学。常盤木門 SAMURAI 館は、甲冑や刀剣を展示、武士の精神性や武器の美術性にスポットをあてる内容。武士の甲冑の魂を表現する5分間のプロジェクション・マッピングを鑑賞。	33 名		4 名
第 237 走 2017 年 5 月 19 日 (金) ①箱根美術館 ②箱根写真美術館 ③箱根強羅公園	①美術館の概要や所蔵作品の紹介後、箱根火山の溶岩流を活用した石楽園、200本以上の紅葉や全国各地の苔を集めた苔庭などを見学。その後、通常は非公開の茶室山月庵を見学。最後に日本及び中国の各地の窯で焼かれた陶磁器や縄文土器、弥生時代の埴輪等の所蔵品を鑑賞。	14 名		3 名
	②フランスで活躍した写真家吉田大朋氏のファッションフォトグラファー特別企画展が開催中。河野和典氏のギャラリートークを聴講後、フランスのデザイナーファッションを撮影した作品を中心に、各種写真集・ポートレートなどの解説を受け鑑賞。	14 名		2 名
	③開園100周年を超え、1日に約1,000人の来場者があることや、左右対称のフランス式整形庭園の特徴など、園長より公園の概略の説明を受けた後、熱帯植物館やブーゲンビリア館を解説付きで見学。	12 名		2 名
第 238 走 2017 年 6 月 2 日 (金) ①松田山ハーブガーデン ②小田原市尊徳記念館	①ハーブガーデンでフリンジドラベンダーのハーブ摘み取りを行い、ハーブ館の体験工房でハーブの解説を受けながらハーブによるリースづくりを実施。その後、3階でハーブティーを飲みながら周囲の景観を見学。	7 名		2 名
	②二宮金次郎の一生を描いたアニメビデオを視聴し、尊徳の一生の転機となった事象を中心に聴講。その後、展示室、隣地にある尊徳の生家、来訪者の目印の碑、無名の橋、一族の菩提寺である善栄寺墓所、独自の工夫で米の収穫増につなげた捨苗栽培跡地を見学。	11 名		3 名
第 239 走 2017 年 7 月 12 日 (水) ①箱根駅伝ミュージアム ②箱根ガラスの森美術館	①大正9年からの箱根駅伝の今昔について、写真やボードに記載された以外のエピソードを中心に聴講。近年は、学園改革・受験者増の手段としての駅伝、ユニフォームの変遷に見られる各大学のPR戦略など、駅伝の展開と時代や社会の変化とを重ね合わせたユニークな解説を受けた。	5 名		3 名
	②開催中の「ヴェネチアン・グラス二千年の旅展」の概略説明後、古代ガラスの魅力、ヴェネチアン・グラスの特徴、古代ガラスとヴェネチアン・グラスの形態・技法の共通点、銀化の輝きを再現したイリデセンス・グラスなど、解説を受けながら鑑賞。毎週水曜日に行われる馬頭琴コンサートも体験。	27 名		7 名

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第 240 走 2017 年 8 月 25 日 (金) ①箱根湿生花園 ②箱根ビジターセンター	①箱根湿生花園の成り立ち・経緯等の園の概要説明後、開催中の「世界の食虫植物」展を見学。その後、現在咲いている植物を中心に、特徴や生育のための工夫等についての詳細な解説を聞きながら、園内を周遊・散策。	7 名		1 名
	②センターの概要説明後、園内に出て植物や昆虫の観察を行いながら散策。食べられる植物の実や葉などを実際に手にとり、におい・手触り等も体験。その後室内で、木の実の自然素材を使ったブローチづくり工作を体験。	9 名		1 名
第 241 走 2017 年 9 月 22 日 (金) ①箱根開所・恩賜箱根公園 ②本間寄木美術館	①開所では、今年 5 月に放送されたプラタモリのテーマ「鉄壁！箱根開所はなぜ破れない、その理由は？」に基づき 8 箇所のポイントを巡る。その後、江戸から明治へのパトタッチというストーリーで、恩賜箱根公園へ。湖畔展望館、ベルツの碑、弁天の鼻展望台、二百階段などの見所を散策。開所は江戸末期の凶面で復元、箱根離宮は明治 19 年完成で、両者は 20 年しか離れていない点に着目、隣接施設によるリレー方式の試みとなった。	9 名		2 名
	②「寄木に生きた 70 年の歩み」と題して、本間館長の作品展を開催中。館長から各時代の転機となった作品、製作の苦労話などを解説。その後、自宅に移動して、旅枕の実物とその収納品を紹介、箱根細工が伝統的工芸品としての国の指定を受ける際の顛末、その際出会った江戸時代の厨子の 3 年がかりの複製などについて伺った。	28 名		4 名
第 242 走 2017 年 10 月 27 日 (金) ①小田原文学館 ②小田原城天守閣	①大正 13 年建設のスパニッシュ様式の本館の説明後、下曾我の自宅から移築された尾崎一雄書斎を見学。その後、小田原出身の文学者北原武夫の生誕 110 年記念特別展を鑑賞。最後に、北原白秋をはじめとした小田原ゆかりの文学者の展示について解説を受けた。	10 名		2 名
	②江戸時代の姿の復元を目指した小田原城改修の概要や小田原北条氏の歴史の説明を受けた後、開催中の特別展「小田原北条氏の絆～小田原城とその支城～」を鑑賞。最後に、5 階最上階で、武士の守護神として信仰されてきた摩利支天像を安置する新たな空間について、小田原の木を使い地元の方々が再現する様子をビデオ鑑賞。	12 名		3 名
第 243 走 2017 年 11 月 17 日 (金) ①松永記念館 ②箱根町立郷土資料館	①開催中の特別展「益田鈍翁と横井夜雨」について、解説を受け見学。その後、庭園を散策し、松永記念館の元を築いた「電力王」松永安左エ門が晩年を過ごした「老櫓荘」へ移動。茶室の造作などをはじめ、使用目的に応じて細部までこだわった各部屋の特徴などの解説を受けた。	13 名		2 名
	②開催中の特別展「絵葉書に見る近代箱根の風景」について 275 枚にわたる絵葉書を解説を受けながら鑑賞。その後、小田急と西武の開発・交通戦争の歴史など、温泉に焦点をあてた常設展のテーマごとに館内を見学。	7 名		2 名
第 244 走 2017 年 12 月 1 日 (金) ①箱根・芦ノ湖 成川美術館 ②箱根神社宝物殿	①美術館開設の経緯、収蔵作品の概要、日本画の技法や特徴、高価な顔料の生成方法、各作家によるその使い方などについて聴講。その後、開催中の「開館 30 周年記念特別展～戦後日本画の山脈」のうち、1 階に展示されている現役作家の作品について、その人となりや経歴なども含めて、解説を受け鑑賞。	30 名		2 名
	②神社御鎮座 1260 年にあたり開催中の特別展「箱根神社神像群～信仰と歴史～」について解説を受けた。国の重要文化財である御神像の 10 年に 1 回の公開、東日本最古の仏像や全国的にも数少ない鎌倉時代の資料など、貴重な資料を鑑賞した。	27 名		2 名
第 245 走 2017 年 12 月 15 日 (金) ①箱根ラリック美術館 ②星の王子さまミュージアム	①ルネ・ラリックの生涯について、当初のジュエリー・宝飾デザインから始まり、全く異なるガラス工芸の大量生産の分野への進出、最後は建築や船、列車などの大型装飾への展開など、代表的な作品や業績を中心に解説を受けた。	21 名		2 名
	②庭園を通りながら、サン＝テグジュベリゆかりの城・街並みなどを模した建物の見学後、その出生や経歴、生み出した作品など、1944 年に地中海上で行方不明になるまでの生涯の解説を受けた。その後、代表的作品である「星の王子さま」のあらすじをたどる展示を見学。	7 名		1 名
第 246 走 2018 年 2 月 23 日 (金) ①小田原フラワーガーデン ②生命の星・地球博物館	①溪流の梅園を散策。「清楚な白梅～萼のことなり～」がテーマで、梅の萼の違いによる印象の違い、品種や花びらの形の違い、紅梅と白梅の区別など、詳細な解説を受けた。その後、トロピカルドームで冬が見所の熱帯植物などを見学。最後に、酸っぱいレモンを甘くする「ミラクルフルーツ」体験を行った。	7 名		2 名
	②博物館の概要・展示の見所等についての説明後、企画展「レッドデータの生物一知って守ろう神奈川の生き物たち」を見学。レッドデータブックができるまでの歩みや、神奈川県レッドデータ生物の現状、今後の改訂に向けた取り組み等について、標本や展示により聴講。	11 名		3 名

開催日・開催場所	内容	一般	高校生	関係者
第247走 2018年3月16(金) ①人間国宝美術館 ②町立湯河原美術館	①年3回、テーマを定めて特別展を開催。今回は特別企画展示「民芸を斬る～民芸から離れた人間国宝、民芸に身を捧げた人間国宝」を中心に解説を受け、その後、館内の展示品を自由見学。最後に、人間国宝が制作した茶碗を自由に選び、その茶碗で抹茶のサービスを受けた。	9名		2名
	②平成18年開館の現代日本画家・平松礼二館で、岩絵具、膠等の画材の解説を受けた後に、平松の「湯河原を描く」シリーズの素描や代表的な日本画作品を鑑賞。その後、常設館へ移動し、竹内栖鳳を中心とした湯河原ゆかりの作家の作品の解説を受けた。最後に、館内に新設された平松のアトリエで、作品の制作現場の雰囲気味わった。	11名		2名

8.4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」(1階)

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップなので、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトにあわせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思っただけのような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」(3階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」

を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色をだすため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」(1階)

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

Ⅲ 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日

条例第 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の必要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者（以下「観覧者」という。）は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者（別表備考 2 に規定する者を除く。）は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。）第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。）並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
- (3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表（第4条関係）

	区分	個人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生を除く。）	1人につき 300円	1人につき 250円
	20歳未満の者（高校生を除く。）学生（65歳以上の者を除く。）	同 200円	同 150円
	65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円
神奈川県立生命の星・地球博物館	20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生を除く。）	同 520円	同 410円
	20歳未満の者（高校生を除く。）学生（65歳以上の者を除く。）	同 300円	同 200円
	65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

備考1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関する事。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関する事。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関する

こと。

- (4) 人事に関する事。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関する事。
- (6) 予算の経理に関する事。
- (7) 観覧料の徴収に関する事。
- (8) 物品の調達及び処分に関する事。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関する事。
- (10) その他他部課の主管に属しない事。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関する事。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関する事。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関する事。

(4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

(1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。

(2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

(1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管

及び閲覧に関すること。

(2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

(1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。

(2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

(1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。

(2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。

(3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。

(4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。

(5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。

(6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。

(7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)

(2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)

(3) 12月28日から翌年の1月4日まで

(4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈

川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986年	10月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手
12月		第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988年	7月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
12月		神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応義塾大学名誉教授））から提言
1989年	3月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定 神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定
4月		教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
11月		神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足
12月		展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手
1990年	2月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手
3月		自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定
9月		博物館情報システム実施計画策定
10月		建築基本設計着手
1991年	3月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
4月		組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
1992年	4月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の4班体制となる
6月		第二期造成工事着手
8月		博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
10月		自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1993年	4月	博物館情報システム開発着手
6月		第三期造成工事着手
1994年	6月	第四期造成工事着手
12月		自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正
1995年	1月1日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3部4課を置く
3月		博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
3月20日		開館記念式典実施
3月21日		一般公開開始

2.2. 開館から2017年度末まで（資料収集・調査研究事業を除く）

1995年	3月21日	一般公開開始
4月29日		開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中雄一
5月7日		入館者10万人到達（開館41日目）
6月22日		紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）
9月6日		ジブチ共和国大統領ご視察
9月24日		入館者30万人到達（開館158日目）
11月10日		神奈川県博物館協議会（2001年まで毎年実施）
1996年	3月20日	開館1周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士
4月		シンボルマーク製作
4月17日		入館者50万人到達（開館321日目）
6月1日		学習指導員による団体サービス（ガイドランス）
9月		ガイドランスビデオ製作
1997年	3月1日	エントランスガイドランス開始
3月20日		開館2周年記念講演会「3年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうにご利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士
		バリアフリー音声ガイドサービス開始
3月21日		日本植物分類学会第27回大会（3月23日まで）
5月10日		生命の星・地球博物館友の会発足
7月23日		入館者100万人到達（開館705日目）
10月17日		WESCAMS ミュージアム・リレーを開始
11月15日		日本鞘翅学会第10回記念大会（11月16日まで）
1998年	1月30日	日本古生物学会1998年年会（2月1日まで）
3月21日		開館3周年記念事業「生命の星・地球フェスタ'98」（3月29日まで）
3月30日		天皇陛下・皇后陛下行幸啓
4月4日		日本動物分類学会第34回大会（4月5日まで）
8月26日		日本第四紀学会1998年大会（8月28日まで）
9月12日		中国遼寧省友好代表団来館
11月3日		入館者150万人到達（開館1,090日目）

1999年

- 3月20日 「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
- 8月4日 中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
- 11月6日 日本蜻蛉学会大会(11月7日まで)
- 11月12日 天皇陛下ご在位10周年慶祝事業 無料公開
- 11月14日 みなかんネットワーク大会
- 11月27日 常設展示化石標本3点の盗難を確認
- 12月9日 常設展示化石標本10点の盗難を確認

2000年

- 3月20日 開館5周年記念講演会「博物館は宝の山!」
- 3月23日 Xu Daosheng(湖北省博物館)・Jang, Sang-Hoon(韓国国立中央博物館)ほか視察
- 3月31日 濱田隆士館長退任
- 4月1日 青木淳一館長就任
- 5月13日 日本土壌動物学会第23回大会(5月14日まで)
- 8月6日 入館者200万人到達(開館1,613日目)
- 10月6日 2000年度日本魚類学会年会(10月9日まで)
- 10月15日 200万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」

2001年

- 3月20日 開館6周年記念講演会「自然史(誌)を楽しむ～いま箱根の自然は～」
- 3月27日 神奈川県博物館協議会を廃止
- 4月15日 青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
- 10月19日 中国遼寧省職員視察
- 11月9日 ミュージアム・リレー第50走達成記念講演会
- 11月22日 ミュージアム・リレー第50走達成記念シンポジウム
- 11月23日 日本蜻蛉学会(11月25日まで)

2002年

- 2月21日 博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
- 3月19日 箱根フリーパス対象施設に参加
- 3月21日 開館7周年記念シンポジウム「触まれるかながわの生物」
- 7月19日 入館者250万人到達(開館2,206日目) 250万人達成感謝ウィーク
- 7月21日 「自然を楽しむみち」案内板贈呈式

2003年

- 1月30日 博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」
- 3月11日 全国科学博物館協議会総会(3月12日まで)
- 3月21日 ミュージアム・フェスタ(開館記念事業として、以降毎年実施)
- 3月28日 青木淳一館長が小田原城下町大使に就任
- 7月20日 夏休み期間中、17時30分まで開館時間延長(2004年まで実施)
- 8月2日 日本蘚苔類学会(8月3日まで)

2004年

- 3月9日 博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例について」
- 5月25日 入館者300万人到達(開館3,770日目)
- 11月20日 日本鞘翅学会第17回大会(11月21日まで)

2005年

- 3月8日 博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
- 7月18日 夏休み中無休開館期間(以降、毎年実施)

2006年

- 1月14日 ミュージアム・リレー第100走達成記念行事(1月15日まで)
- 3月23日 博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
- 3月31日 青木淳一館長退任
- 4月1日 管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の2部3課となる。斎藤靖二館長就任
- 7月8日 入館者350万人到達(開館3,409日目)
- 11月12日 自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」

2007年

- 2月28日 全国科学博物館協議会理事会総会
- 3月30日 博物館課題研究会

2008年

- 3月11日 博物館課題研究会
- 3月22日 子ども自然科学作品展(以降毎年実施)
- 8月12日 入館者400万人到達(開館4,062日目)

2009年

- 3月10日 博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」

2010年

- 10月21日 入館者450万人到達(開館4,863日目)

2011年

- 3月13日 ミューズ・フェスタ2011(東日本大震災により中止)

2012年

- 8月3日 入館者500万人到達(開館5,183日目)

2013年

- 8月22日 世界の動物切手コレクション寄贈(功刀欣三様)
- 10月8日 天皇陛下行幸(特別展天覧)
- 11月29日 奥村定一昆虫コレクション寄贈(奥村哲子様)

2014年

- 1月13日 入館者550万人到達(開館5,716日目)
- 3月19日 貝類標本コレクション寄贈(名倉菊江様)
- 3月31日 斎藤靖二館長退任
- 4月1日 平田大二館長就任、斎藤靖二名誉館長就任
- 7月7日 林原自然科学博物館教材・教育用標本一式寄贈(株式会社林原メセナセンター)
- 9月11日 メソサウルス類化石・ダウリアアチョウザメ本剥製・アラスカ産オオカミ本剥製寄贈(三浦菊男様)

2015年

- 3月15日 開館20周年記念シンポジウム「自然史系博物館のあるべき姿と評価軸ー生命の星・地球博物館の活動からー」
- 8月29日 入館者600万人到達(開館6,190日目)
- 10月31日 今関細密画コレクション寄贈(今関士郎様)

2016年

- 3月16日 子ども自然科学作品展会期を延長(5月8日まで)活動報告展の休止

2017年

- 5月3日 入館者650万人到達(開館6,667日目)

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数		25	26	20	28	31	25	25	24	20	19	21	25	289	
有料入場者数	個人	成年個人	7,171	7,419	4,392	8,322	15,799	6,223	6,337	5,269	3,553	5,401	6,001	6,676	82,563
		未成年・学生個人	189	373	144	144	646	338	203	202	228	168	354	515	3,504
		高校生	124	119	32	117	532	123	71	55	70	68	108	263	1,682
		65歳以上	1,576	1,300	921	1,352	3,107	1,250	1,469	1,207	786	826	937	1,462	16,193
	団体	成年団体	168	281	517	1,155	3,100	1,179	1,417	481	78	37	210	235	8,858
		未成年・学生団体	0	0	0	39	111	118	24	22	1	0	63	0	378
		高校生	0	60	0	21	94	15	42	4	0	0	29	0	265
		65歳以上	249	315	199	250	571	278	614	439	72	208	225	30	3,450
小計		9,477	9,867	6,205	11,400	23,960	9,524	10,177	7,679	4,788	6,708	7,927	9,181	116,893	
無料入場者数	園児	2,022	2,018	1,662	3,833	5,442	2,392	3,095	1,996	1,032	1,983	2,486	4,523	32,484	
	小学生	3,572	5,129	4,154	4,370	9,069	4,327	10,919	5,463	1,744	1,823	2,369	3,485	56,424	
	中学生	1,933	1,489	456	558	1,979	180	350	432	369	177	173	449	8,545	
	障害者	630	767	658	742	1,369	1,010	1,080	777	382	378	511	651	8,955	
	その他	1,272	1,156	735	1,374	1,652	1,158	2,684	1,883	503	382	745	2,833	16,377	
	小計	9,429	10,559	7,665	10,877	19,511	9,067	18,128	10,551	4,030	4,743	6,284	11,941	122,785	
合計		18,906	20,426	13,870	22,277	43,471	18,591	28,305	18,230	8,818	11,451	14,211	21,122	239,678	
1日平均(人)		756.2	785.6	693.5	795.6	1,402.3	743.6	1,132.2	759.6	440.9	602.7	676.7	844.9	829.3	
前年比(%)		96.1	102.1	108.0	97.8	108.4	81.0	121.5	99.6	101.9	85.6	115.5	95.4	101.4	

		2017年度			一般公開開始からの累計*			
		1日平均	構成比(%)	前年比(%)	入場者	1日平均	構成比(%)	
有料入場者	個人	成年個人	285.7	34.4	99.2	2,085,339	301.0	33.6
		未成年・学生個人	12.1	1.5	99.1	83,032	12.0	1.3
		高校生	5.8	0.7	95.1	15,071	2.2	0.2
		65歳以上	56.0	6.8	102.9	135,436	19.5	2.2
	団体	成年団体	30.7	3.7	96.8	209,944	30.3	3.4
		未成年・学生団体	1.3	0.2	75.1	8,514	1.2	0.1
		高校生	0.9	0.1	125.0	1,287	0.2	0.1
		65歳以上	11.9	1.4	68.5	36,479	5.3	0.6
小計		404.5	48.8	98.1	2,575,102	371.7	41.5	
無料入場者	園児	112.4	13.6	103.3	544,511	78.6	8.8	
	小学生	195.2	23.5	107.8	1,624,668	234.5	26.1	
	中学生	29.6	3.6	100.0	277,346	40.0	4.5	
	障害者	31.0	3.7	99.3	180,368	26.0	2.9	
	その他	56.7	6.8	102.9	1,009,563	145.7	16.2	
	小計	424.9	51.2	104.7	3,636,456	524.9	58.5	
合計		829.3	100.0	101.4	6,211,558	896.6	100.0	

*1995年3月21日から6,928日開館

2017年度記録

最高：2017年8月15日 3,960人
最低：2018年1月31日 200人

3.1.2. 特別展示室入場者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
有料	成年	/	/	/	2,652	7,968	2,819	2,772	619	/	/	/	/	16,830
	未成年・学生				53	353	207	109	38					760
	高校生				63	308	75	60	12					518
	65歳以上				479	1,861	723	804	200					4,067
	小計				3,247	10,490	3,824	3,745	869					22,175
無料	5,712	2,381		4,398	11,981	6,067	9,746	2,047	3,823	9,983	11,928	4,043	72,109	
合計	5,712	2,381	0	7,645	22,471	9,891	13,491	2,916	3,823	9,983	11,928	4,043	94,284	

3.1.3. 講座・観察会・研修会等参加者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	840	526	563	1,256	1,653	1,031	701	431	606	677	920	939	10,143
サロン・ド・小田原					75	41				41		22	179
研修・実習・学校	170	118	278	237	397	189	348	205	322	221	165	125	2,775
ボランティア活動	338	403	268	364	328	298	341	319	260	281	334	362	3,896
博物館実務実習				68	157								225
合計	1,348	1,047	1,109	1,925	2,610	1,559	1,390	955	1,188	1,220	1,419	1,448	17,212

- ・「講座・講演会」は、博物館主催の自然科学講演会、他の機関との共催講演会、博物館主催講座、よろずスタジオ（友の会との共催を含む）、自由研究なんでも相談の参加者数。
- ・「研修・実習・学校」には、博物館見学実習、理科学習や総合的な学習への対応、中学生や高校生の職場体験、教員の各種研修、学校の各種研修などの人数（館内実施のみ）。
- ・ボランティア活動は、学芸ボランティア、ライブラリーボランティア、展示解説ボランティアの活動延べ数。
- ・利用人数は、実際に利用した人数（延べ人数）によって算出している（3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出）。

3.2. 年度別利用者数の推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303	299	305
利用者												
入館者												
常設展入場者	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851	242,368	234,012
特別展示室入場者		42,951	109,851	99,825	96,573	77,239	77,058	67,397	105,344	108,259	107,992	117,014
ライブラリー利用者						129,726	117,747	100,307	103,086	104,128	89,973	94,166
講座・観察会・研修等参加者		2,381	2,402	1,683	1,708	1,943	6,634	2,962	2,136	3,280	5,561	9,291

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
開館日数	309	311	308	306	304	308	305	299	287	288	286	289
利用者				306,563	299,089	344,328	355,803	352,066	326,030	311,391	338,554	341,443
入館者			311,740	293,778	289,560	323,873	334,695	329,340	310,088	295,644	315,978	319,134
常設展入場者	241,549	232,650	232,046	217,690	208,682	241,344	242,524	240,240	227,354	220,651	236,404	239,678
特別展示室入場者	108,588	113,682	98,305	103,527	82,631	113,601	112,793	73,769	117,841	71,908	98,234	94,284
ライブラリー利用者	97,399	97,072	92,465	87,370	82,840	90,131	95,337	97,463	92,401	94,699	87,411	91,143
講座・観察会・研修等参加者	7,863	8,328	8,572	10,344	6,817	16,827	18,294	24,765	14,631	11,232	18,719	17,212

3.3. 特別展・企画展開催実績

【特別展】

No	開催期間	タイトル	日数	入館者		
				有料	無料	合計
1	1995年10月7日～11月26日	チョウとガの世界	41	3,247	13,655	16,902
2	1996年3月1日～5月12日	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	63	-	94,566	94,566
3	1996年7月20日～9月23日	追われる生きものたち	58	19,011	33,475	52,486
4	1997年3月1日～5月11日	櫻井コレクションの魅力ー偉大なアマチュア自然科学者の軌跡ー	61	-	40,848	40,848
5	1997年7月20日～11月3日	地球再発見ー新しい地球像をもとめてー	92	18,033	46,886	64,919
6	1998年2月1日～3月31日	日本の魚学・水産学事始めーフランツ・ヒルゲンドルフ展ー	48	1,557	7,398	8,955
7	1998年7月18日～9月27日	オオカミとその仲間たちーイヌ科動物の世界ー	61	17,714	30,588	48,302
8	1999年1月30日～3月31日	カニの姿ー酒井コレクションからー	51	3,746	14,228	17,974
9	1999年7月17日～9月5日	海から生まれた神奈川ー伊豆・小笠原弧の形成と活断層ー	43	8,585	16,807	25,392
10	1999年10月1日～11月28日	のぞいてみよう！5億年前の海ー三葉虫が見た世界ー	49	4,690	21,470	26,160
11	2000年7月15日～9月3日	特別展 サルがいて、ヒトがいてー野生動物との共存を考えるー	43	9,949	24,359	34,308
12	2001年2月10日～4月8日	ふしぎ大陸 南極展	49	2,141	11,643	13,784
13	2001年7月20日～9月16日	神奈川の植物 その10余年の変化	51	6,197	10,886	17,083
14	2001年10月20日～12月16日	地球を見る～宇宙から見た神奈川～	50	6,511	13,628	20,139
15	2002年7月20日～9月29日	人と大地とーWonderful Earthー	64	12,891	23,674	36,565
16	2002年12月7日～3月2日	ザ・シャークー鯨の進化と適応・ケースコレクションより～	68	11,840	19,211	31,051
17	2003年7月19日～9月15日	侵略とかく乱のはてにー未来へつなげる自然とはー	51	14,109	25,477	39,586
18	2003年11月1日～1月25日	丹沢の自然ーその生い立ちと生きものー	69	6,186	11,376	17,562
19	2004年7月17日～10月31日	東洋のガラパゴス 小笠原ー固有生物の魅力とその危機ー	93	17,602	31,862	49,464
20	2005年7月16日～11月6日	化石どうぶつ園ー北アメリカ漸新世の哺乳類ー	105	22,243	54,988	77,231
21	2006年7月15日～11月5日	ふしぎな生きもの菌類ー動物？植物？それとも？ー	106	18,408	54,099	72,507
22	2007年7月21日～11月4日	ナウマンゾウがいた！ー温暖期の神奈川～	100	20,016	57,007	77,023
23	2008年7月19日～11月19日	「箱根火山」いま証される噴火の歴史	106	20,312	44,001	64,313
24	2009年7月18日～11月8日	木の洞をのぞいてみたらー樹洞の生きものたち～	105	19,109	84,418	103,527
25	2010年7月17日～11月7日	日本列島20億年 その生い立ちを探る	104	19,727	33,939	53,666
26	2011年7月16日～11月6日	およげ！ ゲンゴロウくんー水辺に生きる虫たち～	104	18,183	52,723	70,906
27	2012年7月14日～11月4日	大空の覇者ー大トンボ展ー	103	23,070	42,666	65,736
28	2013年7月20日～11月4日	益田ーと日本の魚類学ー魚類図鑑に生涯を捧げたDANDY～	97	16,964	27,170	44,134
29	2014年7月19日～11月3日	どうする？どうなる！外来生物 とりもどそう 私たちの原風景	96	25,091	49,160	74,251
30	2015年7月18日～11月3日	生き物を描くーサイエンスのための細密描画～	99	15,379	21,035	36,414
31	2016年7月16日～11月6日	Minerals in the Earthー大地からの贈り物ー	101	25,565	38,041	63,606
32	2017年7月15日～11月5日	地球を「はぎ取る」～地層が伝える大地の記憶～	103	22,175	34,239	56,414

【企画展】

No	期間	タイトル	日数	入館者
1	1996年6月8日～6月23日	新収資料展	13	10,501
2	1996年12月5日～12月15日	文化財保護ポスター展	10	1,471
3	1996年12月20日～1月31日	ゆく年くる年展	30	10,194
4	1997年5月23日～6月22日	ふれる彫刻100展	25	-
5	1997年12月6日～12月14日	文化財保護ポスター展	8	-
6	1997年11月15日～11月24日	新収資料展	9	6,374
7	1997年12月20日～1月11日	ゆく年くる年展	12	2,997
8	1998年4月25日～5月24日	植物画で観る山の花 ―小林政敏作品集より―	26	13,375
9	1998年10月24日～11月23日	ふれる彫刻 Part 2 ―地球の心を彫る！	26	14,316
10	1998年12月12日～1月10日	新収資料展	12	4,168
11	1999年4月24日～5月30日	北アルプスの四季―岳をめぐる―	32	15,119
12	1999年12月11日～1月16日	カラー魚拓の世界	24	6,082
13	2000年3月18日～5月14日	平成11年度活動報告展 開かれた博物館をめざして ―生命の星・地球博物館の5年間の歩み―	52	17,647
14	2000年9月23日～11月5日	切手で語る魚類の世界	42	11,797
15	2000年10月7日～10月8日	田中茂徳博士と魚学研究ゆかりの品々	2	600
16	2002年1月4日～1月27日	地球の息吹 富士彩々	22	7,708
17	2002年2月16日～3月17日	みんなの手づくり恐竜展	25	14,003
18	2002年3月21日～4月21日	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	26	13,029
19	2002年4月27日～6月2日	新収資料展	34	3,363
20	2003年3月21日～4月6日	日本の自然にヘラクレスはいらない ―移入昆虫がもたらす諸問題を考える―	17	9,442
21	2003年	友の会活動報告および活動紹介展	-	-
22	2003年4月26日～6月8日	活動報告展―学芸員のお仕事	38	18,711
23	2004年3月20日～4月4日	きらわれものだよ、全員集合！ ―きらわれものたちの意外な素顔―	14	8,263
24	2004年	博物館友の会活動報告および活動紹介展	-	-
25	2004年4月24日～6月6日	活動報告展―学芸員の腕自慢	33	28,714
26	2004年	きのこアート展	-	-
27	2004年12月18日～2月27日	+2℃の世界 ―縄文時代に見る地球温暖化―	56	23,669
28	2005年3月20日～4月10日	博物館10年の歩み・友の会活動紹介	20	5,180
29	2005年4月29日～5月29日	収蔵資料展	26	15,925
30	2005年12月10日～2月12日	丹沢～むかし・今・あした～	51	14,785
31	2006年3月18日～4月9日	マイミュージアム・みんなの活動報告展 ・マイミュージアム写真展	19	9,997
32	2006年4月29日～5月28日	学芸員の活動報告展	26	12,716
33	2006年12月9日～2月25日	パノラマにつぼん ～地球観測衛星の魅力～	64	15,939
34	2007年3月17日～5月6日	みんなの活動報告展	45	16,883
35	2007年12月8日～2月24日	日本最後の秘境 南硫黄島	65	24,476
36	2008年4月19日～5月18日	学芸員の活動報告展	27	15,041
37	2008年12月6日～2月22日	46億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	62	14,954
38	2009年4月18日～5月31日	学芸員の活動報告展	37	16,352
39	2009年12月5日～2月21日	押し葉 ～古瀬 義 植物標本コレクション～	60	9,553
40	2010年4月17日～5月30日	学芸員の活動報告展	37	16,135
41	2010年12月11日～2月27日	日本最初の植物同好会 ～横浜植物会の100年～	63	10,132
42	2011年4月16日～5月29日	学芸員の活動報告展	38	18,560
43	2011年12月10日～2月26日	箱根ジオパークをめざして ―箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見！―	63	17,204
44	2012年4月21日～5月27日	学芸員の活動報告展	32	14,210
45	2012年12月15日～2月24日	博物館の標本工房 Atelierum specimnum animalum in museo	56	28,574
46	2013年4月20日～5月26日	学芸員の活動報告展	32	10,631
47	2013年12月14日～2月23日	アンデスを越えて ―南米パタゴニアの火山地質調査から―	56	14,921
48	2014年4月19日～5月25日	学芸員の活動報告展	30	11,626
49	2014年12月13日～3月1日	恐竜の玉手箱	53	30,786
50	2015年4月25日～5月24日	学芸員の活動報告展	24	6,619
51	2015年12月19日～2月28日	日本のスゲ 勢ぞろい ―撮って 集めた 269種！―	46	18,150
52	2016年12月17日～2月26日	石展2 ―かながわの大地が生み出した石材―	46	21,480
53	2017年12月16日～2月25日	レッドデータの生物 ―知って守ろう 神奈川の生き物たち―	47	25,734

3.4 資料登録実績

今号より、資料登録実績は、標本とアーカイブズを分けて、小計を算出し、資料に付随して登録した付随メディア数も示した。また、合計については、登録件数に加え、登録点数を算出した（50 ページを参照）。

分野	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
【資料】〈標本〉												
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754		1,333	1,281	1,507	1,981
植物群落									10	40	64	
コケ		2,670	14	83	6	7	61					
菌類・地衣類			2	459	218	1,717	1,001					
藻類												
植物その他				5			2					
魚類		846	733	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879	1,635	2,583
哺乳類		1,432	65	1				417	170	8	21	64
鳥類												4
両生類												
爬虫類												
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616		36	147	9	93	12
甲殻類					4,218			12			15	439
動物その他					28	4	2	11				
昆虫		26,839	817	742	623	6						1
クモ												
化石		2,220	3,477	21	594	2,304		72	24	3		86
岩石			492	259	52	32			1,173	128		434
鉱物		181		92					1,472			5
地質・ボーリング		1										
はき取り												
地学その他												
衛星画像										401		27
小計	0	*1 204,913	7,911	8,887	12,559	12,678	5,260	1,879	6,051	2,749	3,335	5,636
【資料】〈アーカイブズ〉												
植物標本写真												
魚類写真	1,345	*2 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361	3,780	813
哺乳類写真												
鳥類写真												
両生類写真												
爬虫類写真												
昆虫写真												
クモ写真												
衛星処理画像												
景観画像												
博物館活動												
菌類細密画												
甲殻類細密画												59
小計	1,345	*1 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361	3,780	872
【資料】〈ライブラリー〉												
図書										11,355	886	772
雑誌										2,730	95	51
別刷り												
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,085	981	823
資料合計	1,345	*1 211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	30,195	8,096	7,331
【付随メディア】												
維管束植物								6				
非維管束植物												
植物その他												
魚類原画像												
魚類文書												
哺乳類											1	
鳥類											98	
両生類												
爬虫類												
無脊椎動物								112			9	1
昆虫原画像								798				
クモ原画像												
化石								4,100			2	
地学								100	886	73		
衛星画像										298	88	26
菌類細密画												
甲殻類細密画												609
小計								*6 5,116	886	371	198	636

- *1 1995年度の小計は、誤りを修正したため、年報21号に掲載されていた数値と異なる。
- *2 1995年度の魚類写真の登録件数は、1994年度の登録件数と分割して掲載したため、年報第13号までの数値とは異なる。
- *3 2014年度と2015年度のはぎ取りの登録件数は、誤りを修正したため、年報第21号までの数値とは異なる。
- *4 2015年度の両生類写真と爬虫類写真の登録件数は、誤りを修正したため、年報第21号までの数値とは異なる。
- *5 2015年度の菌類細密画の登録件数は、年報第21号で掲載漏れであったもので、年報21号までの数値とは異なる。
- *6 付随メディアについては、2001年度のシステムの更新により構築された。
- *7 2016年度の菌類細密画の登録件数は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
- *8 アーカイブズの甲殻類細密画の小計は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
- *9 付随メディアの登録件数は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	合計			
												登録件数	登録点数		
9,879	10,136	13,677	5,429	6,975	5,528	3,742	6,899	14,643	20,361	10,743	3,837	305,198	305,198		
58						3		89				264	264		
						6,525		1			151	9,518	9,518		
			13,174	1,415	4,565	596	936	1,677	723	1,261	518	28,262	28,262		
		2,062				1,368	906					4,336	4,336		
						247				1,391	80	1,725	1,727		
3,127	2,377	2,207	2,908	1,981	2,325	4,267	1,301	2,013	2,371	1,942	2,723	45,080	85,815		
194	634	482	178	616	460	286	368	207	169	107	13	4,991	5,001		
149	212	281	76	209	434	196	102	30	244	120	59	3,017	3,023		
		4	644	53	19	1	64	101	312			286	52	1,129	1,129
										74	103	584	584		
397	136	314	4,626	4,165	3,228	1,592	449	700	543	3,789	1,250	28,312	28,822		
559	1,520	1,237	231	471	315	1,777	3,456	3,190	1,109	395	560	19,504	19,809		
	8	3				10		31		4	10	111	111		
								8,846	11,629	11,466	3,073	64,042	64,042		
										20		20	20		
1	17	19	1,331	650	617	872	368	481	643	1,094	1,136	16,030	16,603		
		1,008	2,266		172	200	160	205	304	1,845	1,564	10,294	10,294		
11,061			4,297	1,956	225	107	2,512	738	5,375	1,400	29,421	29,453			
1									1			3	3		
								* 3	7	* 3	41	21	69	105	
								17				6	23	23	
	234	81	36		135	24	60	55	57			1,110	1,110		
25,426	15,274	21,375	30,899	20,832	19,754	21,931	15,176	34,805	39,245	39,912	16,556	573,043	615,252		
								183	948	15	2	31	1,179	1,185	
1,986	6,253	4,990	4,025	5,148	14,248	23,488	13,280	8,480	7,852	10,169	12,192	176,682	208,846		
										1	9	10	94		
										116	99	215	608		
									* 4	21	34	20	75	199	
									* 4	28	11	6	45	153	
											1,104	1,104	1,107		
												0	0		
70	42	17		7	6	3	8	1	4			158	158		
378	983			1			1,099	115	144		8	2,728	2,728		
										1,079	39,633	40,712	40,714		
										* 5	485	* 7	485	633	
142	99		48	26	33	32	36	15	15		3	* 8	508	508	
2,576	7,377	5,007	4,073	5,181	14,288	23,523	14,606	9,559	8,079	11,897	53,105	223,901	256,933		
900	970	1,299	531	564	643	1,798	1,756	1,939	1,468	1,234	1,134	27,249	27,249		
58	107	57	140	62	55	34	50	77	80	88	91	3,775	3,775		
										340		340	340		
958	1,077	1,356	671	626	698	1,832	1,806	2,016	1,548	1,662	1,225	31,364	31,364		
28,960	23,728	27,738	35,643	26,639	34,740	47,286	31,588	46,380	48,872	53,471	70,886	828,308	903,549		
		546	1,356		382		5,116	53	15	8	2	7,484	10,782		
												0	0		
						1,645						1,645	1,744		
		15	1,397	3,477	2,113	22,124	3,974	8,222	8,654	9,904	9,664	69,544	87,169		
										6	2	8	13		
31	68	1		1				3	2			107	257		
	28								1	1	2	130	131		
									10	5	1	16	111		
				2					12	1		15	57		
	1	159	32	33	6				3	7	4	367	562		
						1,195			2		9,829	11,824	12,020		
												0	0		
		3	7	4	37	860	158	195	528	1,294	525	7,713	10,551		
		131	908			13,518	160	30		16	3	15,825	29,217		
			10			492	84	55				1,053	1,053		
										458		458	538		
95										814		* 9	1,518	1,518	
126	97	855	3,710	3,517	2,538	39,834	9,492	8,558	9,227	12,514	20,032	117,707	155,723		

3.5. ウェブサイトアクセス実績(トップページアクセス数)

教育局総務室 ICT 推進グループから送付されてくるウェブサイトアクセス数

月\年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
4月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979	11,071	15,489	15,131
5月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848	13,215	11,870	15,950
6月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055	15,225	14,086	12,910
7月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531	14,975	14,781	16,799
8月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083	16,654	19,838	22,899
9月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989	13,885	13,081	17,050
10月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232	13,843	14,690	17,037
11月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960	12,685	10,995	13,615
12月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984	11,129	9,720	11,474
1月				919	1,913	3,781	6,052	7068	11,210	11,551	12,471	12,993	14,008
2月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583	11,680	11,580	13,607
3月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405	10,523	13,494	13,934
合計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200	157,356	162,617	184,414
1日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	223.45	329.48	421.31	431.11	445.53	505.24

月\年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
4月	15,404	17,371	13,374	16,955	18,753	20,579	30,638	32,309	34,108	33,847	31,296	
5月	16,176	18,322	16,241	19,934	20,808	20,810	30,730	32,089	36,339	32,793	33,830	
6月	14,200	15,401	14,482	15,831	15,776	18,604	28,123	30,744	28,040	30,331	33,067	
7月	19,207	18,089	19,499	24,539	21,778	23,117	37,580	39,962	41,347	43,379	41,964	
8月	25,040	26,442	23,293	28,580	29,898	29,693	52,015	58,221	59,194	55,027	57,878	
9月	17,456	16,232	17,184	18,018	20,824	22,709	32,025	33,407	36,363	40,142	34,409	
10月	18,089	16,157	16,240	18,271	18,950	24,982	30,821	31,227	31,626	35,352	35,059	
11月	14,307	13,131	13,204	16,226	14,737	22,138	23,088	30,044	29,057	28,192	28,526	
12月	12,054	11,249	11,230	12,869	13,721	24,483	23,275	23,960	24,815	25,115	27,165	
1月	15,464	13,281	16,388	15,582	15,953	26,583	26,068	29,266	27,018	30,821	32,567	
2月	14,965	12,386	15,478	15,641	15,864	27,069	22,090	29,705	31,388	29,280	32,123	
3月	16,465	14,377	19,352	14,884	21,436	30,926	33,406	38,477	37,334	38,675	40,205	
合計	198,827	192,438	195,965	217,330	228,498	291,693	369,859	409,411	416,629	422,954	428,089	4,333,952
1日平均	543.24	527.23	536.89	595.42	624.31	799.16	1,013.31	1,121.67	1,138.33	1,158.78	1,172.85	

*印：マシントラブルのため、記録なし

3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績(ページビュー数)

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
4月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	220,043	99,695
5月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	240,523	118,998
6月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	263,042	120,450
7月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	515,252	109,688
8月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	432,478	268,450
9月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	184,433	85,334
10月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	149,227	127,688
11月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	228,696	153,279
12月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	297,112	150,850
1月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	253,132	148,606
2月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	121,448	140,702
3月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	152,091	159,317
合計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	3,057,477	1,683,057
1日平均	2,323.67	2,048.08	3,033.60	2,719.20	5,729.56	6,986.98	8,376.65	4,598.52

月\年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
4月	166,484	162,602	309,246	91,705	92,795	99,257	
5月	153,868	313,999	163,432	143,909	109,061	93,503	
6月	144,236	212,569	171,152	92,868	135,356	101,096	
7月	134,806	152,539	139,031	108,716	113,189	103,761	
8月	148,590	177,790	154,394	100,596	95,387	110,866	
9月	285,293	82,260	195,767	138,967	110,293	76,050	
10月	225,939	154,416	136,219	523,166	158,321	146,460	
11月	221,528	149,742	158,264	103,959	115,347	88,389	
12月	294,780	225,794	154,851	95,505	114,781	79,371	
1月	218,061	123,939	153,369	185,669	77,331	84,827	
2月	255,931	117,098	209,135	323,135	87,150	96,391	
3月	125,164	106,299	137,904	107,145	135,892	113,430	
合計	2,374,680	1,979,047	2,082,764	2,015,340	1,344,903	1,193,401	24,070,392
1日平均	6,505.97	5,422.05	5,706.20	5,506.39	3,684.67	3,269.59	

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の日本語版の数字

3.7. FishPix のアクセス実績 (ページビュー数)

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
4月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	196,525	118,641
5月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	196,359	135,441
6月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	296,704	135,375
7月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	859,781	95,507
8月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	634,275	119,911
9月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	260,201	36,732
10月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	103,445	102,937
11月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	130,073	191,063
12月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	258,017	163,636
1月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	368,860	146,540
2月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	75,224	238,617
3月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	166,420	314,119
合計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	3,545,884	1,798,519
1日平均	81.62	304.84	999.22	903.72	4,688.95	6,898.35	9,714.75	4,913.99

月\年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
4月	270,626	180,127	513,503	57,258	23,771	34,409	
5月	160,802	430,334	121,742	105,152	31,433	33,159	
6月	179,240	192,540	181,172	39,907	64,179	37,009	
7月	205,817	299,288	197,461	50,543	45,105	35,773	
8月	155,855	351,893	275,623	49,653	26,091	42,948	
9月	341,199	55,493	335,630	72,875	30,042	29,340	
10月	188,278	202,531	88,810	214,005	49,270	59,633	
11月	272,550	234,042	162,126	46,273	28,459	27,791	
12月	172,266	350,115	165,323	35,756	36,665	32,621	
1月	244,346	134,166	365,763	78,702	23,785	33,317	
2月	325,167	132,751	198,370	219,626	28,703	51,405	
3月	102,502	93,876	149,483	27,362	61,970	43,186	
合計	2,618,648	2,657,156	2,755,006	997,112	449,473	460,591	20,348,290
1日平均	7,174.38	7,279.88	7,547.96	2,724.35	1,231.43	1,261.89	

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の英語版の数字

3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録 (参加者の→は各走開催中の人數動向)

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
1	1997/10/17(金)	生命の星・地球博物館	59	21	30
2	1997/11/ 7(金)	箱根美術館→強羅公園	32	26	30
3	1997/12/ 3(水)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	47	13	0
4	1998/ 1/28(水)	Antique Museum・江戸民具街道	22	20	30
5	1998/ 2/25(水)	小田原フラワーガーデン	60	16	30
6	1998/ 3/11(水)	箱根武士の里美術館	38	20	30
7	1998/ 4/ 3(金)	箱根ガラスの森美術館	29	27	20
8	1998/ 5/27(水)	箱根町立箱根湿生花園	26	21	30
9	1998/ 6/17(水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	29	29	90
10	1998/ 7/ 8(水)	箱根美術館→強羅公園	39	27	58
11	1998/ 8/26(水)	箱根町立大涌谷自然科学館	12	21	28
12	1998/ 9/30(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	14	11	28
13	1998/10/14(水)	遠藤貝類博物館	15	16	30
14	1998/11/13(金)	箱根町立郷土資料館	13	13	70
15	1998/12/ 2(水)	本間寄木美術館	13	20	60
16	1999/ 1/20(水)	生命の星・地球博物館	21	20	70
17	1999/ 2/ 3(水)	小田原城天守閣と歴史見聞館	17	15	22
18	1999/ 3/23(火)	鈴廣のかまぼこ博物館	17	15	22
19	1999/ 4/16(金)	MOA美術館	150	25	100
20	1999/ 5/26(水)	箱根美術館→強羅公園	92	26	50
21	1999/ 6/29(火)	箱根ガラスの森美術館	28	15	50
22	1999/ 7/22(木)	生命の星・地球博物館	47	10	38
23	1999/ 8/25(水)	箱根町立箱根湿生花園→箱根武士の里美術館	25	30	20
24	1999/ 9/22(水)	彫刻の森美術館	14	19	40
25	1999/10/21(木)	遠藤貝類博物館	12	16	50
26	1999/11/19(金)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	20	18	160
27	1999/12/ 9(木)	箱根芦ノ湖成川美術館	23	18	50
28	2000/ 1/19(水)	本間寄木美術館	10	18	50
29	2000/ 2/24(木)	小田原市郷土文化館	31	28	60
30	2000/ 3/30(木)	生命の星・地球博物館	42	30	20
31	2000/ 4/18(火)	Antique Museum・江戸民具街道	68	25	53
32	2000/ 5/19(金)	パール下中記念館	22	15	23
33	2000/ 6/ 7(水)	箱根美術館→強羅公園	46	20	67
34	2000/ 7/13(木)	箱根ガラスの森美術館	18	13	56
35	2000/ 8/23(水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	88	27	21
36	2000/ 9/13(水)	報徳博物館	27	17	16
37	2000/10/12(木)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	10	21	60
38	2000/11/ 2(木)	箱根町立郷土資料館	25	10	60
39	2000/12/ 8(金)	箱根ビジターセンター→箱根町立大涌谷自然科学館	17	16	60
40	2001/ 1/25(木)	生命の星・地球博物館	56	29	160
41	2001/ 2/22(木)	鈴廣のかまぼこ博物館	2	13	30
42	2001/ 3/23(金)	彫刻の森美術館	5	16	30
43	2001/ 4/13(金)	箱根武士の里美術館	5	20	30
44	2001/ 5/16(水)	箱根☆サンテグジュペリ星の王子さまミュージアム	0	16	60
45	2001/ 6/ 8(金)	湯河原ゆかりの美術館	5	16	60
46	2001/ 7/19(木)	小田原市郷土文化館分館「松永記念館」と「老樗荘」	30	17	30
47	2001/ 8/30(木)	彫刻の森美術館(昼・夜 2回開催)	20→30	23→23	30→0
48	2001/ 9/27(木)	Antique Museum・江戸民具街道	20	16	30
49	2001/10/12(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	7	26	60
50	2001/11/ 9(金)	生命の星・地球博物館	32	24	0
51	2001/12/ 7(金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根→箱根おもちゃ博物館	50	16	30
52	2002/ 1/25(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	35	18	30
53	2002/ 2/15(金)	小田原フラワーガーデン	56	25	60
54	2002/ 3/22(金)	小田原城天守閣小田原動物園	15	11	8
55	2002/ 4/14(日)	MOA美術館	3	15	0
56	2002/ 5/16(木)	箱根ガラスの森美術館	11	21	14
57	2002/ 6/14(金)	箱根ビジターセンター	17	15	42
58	2002/ 7/12(金)	松田山ハーブ館・ハーブガーデン→松田町自然館	10	12	16
59	2002/ 8/23(金)	彫刻の森美術館	15	26	0
60	2002/ 9/13(金)	生命の星・地球博物館	31	15	20
61	2002/10/18(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	9	22	0

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
62	2002/11/ 1(金)	箱根町立郷土資料館	25	20	0
63	2002/12/12(木)	箱根園水族館	8	20	50
64	2003/ 1/17(金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根→箱根おもちゃ博物館	12	18	22
65	2003/ 2/14(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20	22	60
66	2003/ 3/14(金)	湯河原ゆかりの美術館	6	6	10
67	2003/ 4/11(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	10	15	0
68	2003/ 5/15(木)	Antique Museum・江戸民具街道	27	18	45
69	2003/ 6/ 6(金)	生命の星・地球博物館→鈴廣のかまぼこ博物館	10	16	40
70	2003/ 7/25(金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージゼ	20	19	13
71	2003/ 8/ 8(金)	MOA美術館	17	17	0
72	2003/ 9/30(火)	ポーラ美術館	63	23	0
73	2003/10/30(木)	箱根町立郷土資料館	52	13	0
74	2003/11/18(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	37	22	40
75	2003/12/11(木)	箱根園水族館	10	11	30
76	2004/ 1/16(金)	生命の星・地球博物館→本間寄木美術館	16	18	15
77	2004/ 2/20(金)	小田原市尊徳記念館	15	11	40
78	2004/ 3/18(木)	彫刻の森美術館	13	17	5
79	2004/ 4/16(金)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	26	19	40
80	2004/ 5/ 9(日)	箱根美術館→強羅公園→箱根写真美術館	43	19	0
81	2004/ 6/15(火)	箱根ガラスの森美術館	20	21	30
82	2004/ 7/ 2(金)	ポーラ美術館	61	22	15
83	2004/ 8/20(金)	生命の星・地球博物館	23	25	5
84	2004/ 9/ 3(金)	小田原城天守閣	14	11	0
85	2004/10/15(金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	20	18	38
86	2004/11/12(金)	箱根町立郷土資料館→小田原箱根ベゴニア園→箱根おもちゃ博物館→オルゴールの小さな博物館・箱根	17	16	0
87	2004/12/10(金)	MOA美術館	37	10	30
88	2005/ 1/14(金)	箱根園水族館→箱根芦ノ湖成川美術館	17→29	10→17	20→0
89	2005/ 2/25(金)	小田原フラワーガーデン	36	15	22
90	2005/ 3/17(木)	彫刻の森美術館	44	25	0
91	2005/ 4/15(金)	湯河原ゆかりの美術館	28	12	0
92	2005/ 5/18(水)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	15→23	10→11	40→40
93	2005/ 6/10(金)	ポーラ美術館	70	29	40
94	2005/ 7/ 6(水)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	39→39→39	35→35→35	40→40→40
95	2005/ 8/29(月)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20→27	10→23	0
96	2005/ 9/28(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館	75	16	10
97	2005/10/12(水)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	33→33	24→24	50→50
98	2005/11/29(火)	箱根園水族館	30	13	40
99	2005/12/ 8(木)	箱根町立関所資料館→箱根駅伝ミュージアム	28→28	14→14	40→40
100	2006/ 1/14(土)	箱根ガラスの森美術館	82	33	10
101	2006/ 2/10(金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージゼ	25→25	22→22	
102	2006/ 3/17(金)	小田原市尊徳記念館	35	17	32
103	2006/ 4/21(金)	ポーラ美術館	73	19	68
104	2006/ 5/10(水)	箱根駅伝ミュージアム→函嶺・ふる里集蔵館	6→24	9→20	
105	2006/ 6/17(土)	小田原フラワーガーデン	25	13	
106	2006/ 7/ 6(木)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	12→15	7→11	60→60
107	2006/ 8/31(木)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	15→15	7→17	0→30
108	2006/ 9/22(金)	箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	25→25	11→11	60→60
109	2006/10/13(金)	MOA美術館	53	15	45
110	2006/11/10(金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	38→38	14→12	45→0
111	2006/12/ 8(金)	箱根ガラスの森美術館	30	14	26
112	2007/ 1/19(金)	箱根園水族館	24	20	34
113	2007/ 2/23(金)	箱根ラリック美術館	62	13	40
114	2007/ 3/ 9(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	36→36→36	19→19→19	70→70→70
115	2007/ 4/13(金)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	13→35	5→15	30→60
116	2007/ 5/16(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	26→26	11→11	45→45
117	2007/ 6/29(金)	鈴廣のかまぼこ博物館→湯河原町立湯河原美術館	22→22	12→12	60→60
118	2007/ 7/13(金)	箱根ガラスの森美術館	41	32	27
119	2007/ 8/28(火)	箱根町立箱根関所→箱根駅伝ミュージアム	20→20	7→5	7→9
120	2007/ 9/ 8(土)	生命の星・地球博物館	29	31	12
121	2007/10/26(金)	箱根町立箱根混生花園→彫刻の森美術館	30→38	5→9	40→40
122	2007/11/13(火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	20→20	12→9	33→33
123	2007/12/ 7(金)	箱根ベゴニア園→箱根写真美術館→強羅公園	20→20→20	13→13→13	30→30→30
124	2008/ 1/18(金)	箱根園水族館→箱根・芦ノ湖成川美術館	14→37	8→9	34→34
125	2008/ 2/15(金)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡	14→37	8→9	34→34

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
126	2008/ 3/19(水)	本間寄木美術館→小田原城、小田原市郷土文化館	27→10	9→7	17→17
127	2008/ 4/23(水)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	12→40	5→13	0
128	2008/ 5/21(水)	箱根美術館→強羅公園	30→30	12→10	64→65
129	2008/ 6/24(火)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	14→38	13→14	64→64
130	2008/ 7/15(火)	彫刻の森美術館→箱根ガラスの森美術館	24→24	12→26	60→60
131	2008/ 8/29(火)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根神社宝物殿→箱根駅伝ミュージアム	13→7→1	10→8→7	0
132	2008/ 9/16(火)	箱根町立箱根関所→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	3→4	11→8	50→50
133	2008/10/29(水)	箱根ラリック美術館→箱根町立箱根湿生花園	58→39	22→19	0
134	2008/11/ 7(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→10	14→11	60→60
135	2008/12/10(水)	小田急箱根ベゴニア園→箱根トイミュージアム	9→10	11→14	40→40
136	2009/ 1/30(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→16	5→14	33→33
137	2009/ 2/17(火)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡見学	23→22	22→21	50→50
138	2009/ 3/19(木)	松永記念館→小田原城天守閣・小田原市郷土文化館	35→35	8→11	12→12
139	2009/ 4/21(火)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	18→39	5→10	0
140	2009/ 5/15(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	17→17→17	23→27→27	0
141	2009/ 6/12(金)	小田原フラワーガーデン→松永記念館	12→10	11→15	0
142	2009/ 7/17(金)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→箱根ガラスの森美術館	15→44	5→12	0
143	2009/ 8/28(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	16→17→10	10→9→10	0
144	2009/ 9/29(火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→13	6→3	0
145	2009/10/16(金)	彫刻の森美術館→箱根ビジターセンター	17→9	5→11	39→0
146	2009/11/27(金)	箱根町立郷土資料館→小田急箱根ベゴニア園	3→2	4→6	0
147	2009/12/11(金)	箱根ラリック美術館→箱根芦ノ湖成川美術館	64→33	9→10	0→31
148	2010/ 1/29(金)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	12→31	11→11	0→30
149	2010/ 2/ 5(金)	小田原城天守閣および小田原市郷土文化館→小田原市尊徳記念館とその周辺の史跡	17→13	4→4	39→43
150	2010/ 3/ 5(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	9→14	5→5	0
151	2010/ 4/27(火)	彫刻の森美術館	11	6	0
152	2010/ 5/18(火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
153	2010/ 6/ 8(火)	箱根ガラスの森美術館	31	12	0
154	2010/ 7/ 2(金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根町立芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	20→13	12→6	0
155	2010/ 8/27(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	5→3→3	8→8→6	0
156	2010/ 9/17(金)	箱根ビジターセンター→ポーラ美術館	11→60	7→12	0
157	2010/10/15(金)	真鶴町立遠藤貝類博物館→真鶴町立中川一政美術館	22→25	10→12	43→43
158	2010/11/12(金)	箱根町立郷土資料館→小田原市郷土文化館→小田原城	19→21	6→6	0
159	2010/12/10(金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	43→44	9→10	0
160	2011/ 1/16(日)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	5→6	3→6	0
161	2011/ 2/18(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	6→9	9→14	44→44
162	2011/ 3/ 4(金)	鈴廣のかまぼこ博物館→小田原市松永記念館	5→4	3→3	0
163	2011/ 4/27(水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→8	9→5	50→50
164	2011/ 5/17(火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
165	2011/ 6/ 8(水)	箱根ガラスの森美術館→小田原城	23→9	8→4	47→0
166	2011/ 7/ 8(金)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	13→63	7→27	0
167	2011/ 8/24(木)	松永記念館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	12→1→3	4→6→7	0
168	2011/ 9/ 3(土)	彫刻の森美術館→箱根ビジターセンター	10→6	6→5	0
169	2011/10/14(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	30→23	6→7	47
170	2011/11/18(金)	箱根町立郷土資料館	5	2	39
171	2011/12/16(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンニテグジュベリ	50→65→17	5→9→4	0
172	2012/ 1/20(金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	16→13	4→4	0
173	2012/ 2/ 3(金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	6→6	3→2	0
174	2012/ 3/ 2(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→11	3→10	0
175	2012/ 4/20(金)	小田原市郷土文化館→彫刻の森美術館	14→5	5→3	0
176	2012/ 5/18(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	26→26→26	7→7→7	0
177	2012/ 6/21(木)	箱根マイセンアンティーク美術館→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	24→8	3→3	0
178	2012/ 7/ 6(水)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	26→55	4→4	0
179	2012/ 8/23(木)	箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	7→11	3→3	0
180	2012/ 9/ 5(水)	箱根ビジターセンター→箱根ガラスの森美術館	13→31	4→14	0→40
181	2012/10/17(水)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	7→7→7	7→6→6	0→42→42
182	2012/11/15(木)	小田原城→箱根町立郷土資料館	22→1	4→4	0
183	2012/12/13(木)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンニテグジュベリ	34→14	4→3	40→40
184	2013/ 1/17(木)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	18→9	5→5	0
185	2013/ 2/ 6(水)	小田原フラワーガーデン→すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	6→15→7	4→3→4	0
186	2013/ 3/ 1(金)	江戸民具街道→生命の星・地球博物館	11→9	13→9	0
187	2013/ 4/19(金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	6→15	2→3	0
188	2013/ 5/17(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→28→28	11→11→11	35→35→35
189	2013/ 6/ 7(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	40→16→17	14→11→11	0→43→43

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
190	2013/ 7/10(水)	箱根ガラスの森美術館→箱根ビジターセンター	66→25	10→8	0
191	2013/ 8/23(金)	箱根町立箱根湿生花園→生命の星・地球博物館	22→24	5→3	0
192	2013/ 9/13 (金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	22→60	8→20	0
193	2013/10/17 (木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	28→31→25	5→4→8	0
194	2013/11/15 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原城→小田原文学館	11→25→21	6→5→6	0
195	2013/12/17 (火)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュペリ	30→17	10→11	0
196	2014/ 1/24 (金)	松永記念館→人間国宝美術館	14→11	8→7	0
197	2014/ 2/28 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	17→6	6→7	0
198	2014/ 3/26 (水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→7	4→4	0
199	2014/ 4/25 (金)	箱根駅伝ミュージアム	1	2	0
200	2014/ 5/16 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	34→34→34	19→19→19	0
201	2014/ 6/13 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	13→11	7→5	0
202	2014/ 7/ 9 (水)	箱根ガラスの森美術館	31	8	0
203	2014/ 7/11 (金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	3→7	4→4	0
204	2014/ 8/29 (金)	箱根町立箱根湿性花園→箱根ビジターセンター	17→15	4→4	0
205	2014/ 9/25 (木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→17→14	4→5→6	0
206	2014/10/24 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原文学館→小田原城	11→14→18	5→5→6	0
207	2014/11/ 7 (金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	17→70	3→5	0
208	2014/12/ 5 (金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュペリ	40→12	6→8	0
209	2015/ 1/23 (金)	湯河原町立湯河原美術館→人間国宝美術館	14→18	3→3	0
210	2015/ 2/27 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	20→3	7→1	0
211	2015/ 3/20 (金)	徳富蘇峰記念館→小田原市郷土文化館→生命の星・地球博物館	22→11→21	3→3→3	0
212	2015/ 4/24 (金)	小田原城→小田原市郷土文化館	39→20	4→3	0
213	2015/ 5/15 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→30→30	8→3→3	0
214	2015/ 6/26 (金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	16→9	3→2	0
215	2015/ 7/ 8 (水)	箱根ガラスの森美術館→ポーラ美術館	70→103	5→10	0
216	2015/ 8/21 (金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→11	6→3	0
217	2015/ 9/25 (金)	彫刻の森美術館→神奈川県立恩賜箱根公園	15→11	2→2	0
218	2015/10/16 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	24→18	3→3	0
219	2015/11/13 (金)	小田原文学館→MOA美術館	5→37	2→1	0
220	2015/12/ 2 (水)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュペリ	48→24	5→5	0
221	2016/ 1/ 8 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム	31→11	3→3	0
222	2016/ 2/26 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	14→5	1→3	0
223	2016/ 3/18 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→13	4→1	0
224	2016/ 4/22 (金)	本間寄木美術館	34	8	0
225	2016/ 5/13 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	11→11→10	2→1→2	0
226	2016/ 5/27 (金)	箱根関所→彫刻の森美術館	17→10	5→4	0
227	2016/ 7/13 (水)	星の王子さまミュージアム箱根サンテグジュペリ→箱根ガラスの森美術館	6→32	2→8	0
228	2016/ 8/26 (金)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ビジターセンター	3→8	4→5	0
229	2016/ 9/28 (水)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→8	4→4	0
230	2016/10/21 (金)	松田山ハーブガーデン→箱根町立郷土資料館	4→3	3→5	0
231	2016/11/25 (金)	小田原文学館→松永記念館	7→14	2→3	0
232	2016/12/ 2 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根ラリック美術館	13→19	3→4	0
233	2017/ 1/12 (木)	小田原城	54	5	0
234	2017/ 2/24 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	18→21	3→3	0
235	2017/ 3/17 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→10	2→1	0
236	2017/ 4/21(金)	MOA美術館→小田原城天守閣	22→33	3→4	0
237	2017/ 5/19(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	14→14→12	3→2→2	0
238	2017/ 6/ 2(金)	松田山ハーブガーデン→小田原市尊徳記念館	7→11	2→3	0
239	2017/ 7/12(水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	5→27	3→7	0
240	2017/ 8/25(金)	箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→9	1→1	0
241	2017/ 9/22(金)	箱根関所→恩賜箱根公園→本間寄木美術館	9→9→23	3→2→4	0
242	2017/10/27(金)	小田原文学館→小田原城天守閣	10→12	2→3	0
243	2017/11/17(金)	松永記念館→箱根町立郷土資料館	13→7	2→2	0
244	2017/12/ 1(金)	箱根・芦ノ湖 成川美術館→箱根神社宝物殿	30→27	2→2	0
245	2017/12/15(金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	21→7	2→1	0
246	2018/ 2/23(金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	7→11	2→3	0
247	2018/ 3/16(金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館	9→11	2→2	0

3.9. 来館者アンケート

来館者の年齢層やグループ構成、来館の目的、広報物の効果を、館内・館外の案内等を調べるために来館者を対象としたアンケートを行った。

3.9.1. エントランスホールでのアンケート(記入式)

[調査方法]

1 階エントランスホールにてアンケート用紙を配布、自由記述により実施。

[調査期間]

3月10日(土)、11日(日)
(ともに午前9時30分～午後2時30分まで)

[回答数]

201 枚

[調査項目]

年代/同伴者/居住地/来館のきっかけ/広報物の確認場所/館への自由意見

アンケート結果

Q1 だれといっしょに来ましたか？

ひとりで	友だちと	家族と	団体旅行で	その他	未記載	合計
3	23	167	6	1	1	201
1.5%	11.4%	83.1%	3.0%	0.5%	0.5%	100.0%

Q2 来館された方の年齢(学年)区分と人数を教えてください。

※団体人数の件数

1人の件数	2人	3人	4人	5人以上	未記載
3	37	61	60	40	0
1.5%	18.4%	30.3%	29.9%	19.9%	0.0%

※年齢(学年)区分と来館人数

未記入	幼児以下	小学生	中学生	高校生	大学生	
0	131	444	25	7	7	
0.0%	12.6%	42.8%	2.4%	0.7%	0.7%	
20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
50	135	126	31	68	14	1,038
4.8%	13.0%	12.1%	3.0%	6.6%	1.3%	100.0%

Q3 何回目の来館ですか？

はじめて	2回目	3～5回目	6～10回目	11回以上	未記載
41	33	79	24	23	1
20.4%	16.4%	39.3%	11.9%	11.4%	0.5%

Q4 お住まいはどちらですか？

小田原市	南足柄市	箱根町	湯河原町	大井町	山北町	開成町	松田町
82	11	3	7	5	2	11	1
横浜市	川崎市	相模原市	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	厚木市
13	2	4	4	3	2	9	1
秦野市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	葉山町	二宮町	寒川町
3	3	3	3	1	1	3	2
東京都	静岡県	埼玉県	長野県	未記載			
15	3	1	1	2			

Q5 当館を何でお知りになりましたか？

ポスターを見た	チラシを見た	博物館ウェブサイト	Facebook・twitter	テレビ	ラジオ	県のたより
21	71	34	2	1	0	11
10.4%	35.3%	16.9%	1.0%	0.5%	0.0%	5.5%
雑誌	新聞	招待券をもらった	割引券をもらった	知人から聞いた	その他	未記載
1	2	3	2	30	18	12
0.5%	1.0%	1.5%	1.0%	14.9%	9.0%	6.0%

Q 5a ポスター・チラシをどちらでご覧になりましたか？

学校	美術館・博物館	小田急電鉄	箱根登山鉄道	その他の施設	未記載
79	3	1	0	7	3
85.9%	3.3%	1.1%	0.0%	7.6%	3.3%

Q 6 今日の来館の目的は何ですか？

常設展を見たかった	シアターで映像を見たかった	ミュージズ・フェスタに参加するため	ライブラリーで調べものをするため	その他	未記載
91	10	89	0	16	21
45.3%	5.0%	44.3%	0.0%	8.0%	10.4%

Q 7 前後の立ち寄り先を教えてください。

【前】

家から	箱根から	小田原から	伊豆から	その他から	未記載
159	9	7	0	5	21

【後】

家へ帰る	箱根へ	小田原へ	伊豆へ	その他へ	未記載
63	10	23	1	9	95

主な内訳 *家から→博物館→家へ：47件
 *家から→博物館→観光地・宿泊地等へ：27件
 *観光地・宿泊地等から→博物館→家へ：7件
 *観光地・宿泊地等から→博物館→観光地・宿泊地等へ：5件

Q 8 無料Wi-Fiについてうかがいます。館内で無料Wi-Fiが利用できたらお使いになりますか？

使う	使わない	わからない	未記載
102	47	34	18
50.7%	23.4%	16.9%	9.0%

Q 8a Wi-Fiをどのような携帯端末で利用したいと思いますか？

携帯電話	スマートフォン	タブレット	ゲーム機	パソコン	その他	未記載
21	87	12	2	3	0	5
20.6%	85.3%	11.8%	2.0%	2.9%	0.0%	4.9%

Q 8b Wi-Fiを利用してどのようなことを行いたいと思いますか？

生命の星・地球博物館について検索	博物館の音声ガイドを利用	交通情報を検索	近隣観光施設を検索	飲食施設を検索	その他	未記載
42	33	14	32	20	1	22
41.2%	32.4%	13.7%	31.4%	19.6%	1.0%	21.6%

Q 9 旅行や外出時に情報を集めるときに主に何を使いますか？

主に携帯端末	特に決まっていない	主に情報紙やチラシ	主に案内所等の人に聞く	未記載
115	23	20	6	47
57.2%	11.4%	10.0%	3.0%	23.4%

Q 10 館外の案内（駅や道路に設置している道順・開館時間などの案内看板）と、館内の案内（順路案内・トイレやレストランなどの場所案内）それぞれについて、わかりやすかったかどうかを教えてください。

【館外の案内】

わかりやすい	わかりにくい	見ていない	未記載
130	17	35	18
64.7%	8.5%	17.4%	9.0%

【館内の案内】

わかりやすい	わかりにくい	見ていない	未記載
146	5	26	23
72.6%	2.5%	12.9%	11.4%

Q 11 館外の案内（駅や道路に設置している道順・開館時間などの案内看板）についてあてはまるものを選んでください（何個でも）。

駅からの道順がわかりにくい	駅の看板がわかりにくい	駅の看板に外国語を追加した方がよい	来るまでの道順がわかりにくい	道路沿いの看板がわかりにくい	道路沿いの看板に外国語を追加した方がよい
10	5	9	10	13	7
5.0%	2.5%	4.5%	5.0%	6.5%	3.5%

Q 12 館内の案内（順路案内・トイレやレストランなどの場所案内）についてあてはまるものを選んでください（何個でも）。

絵文字などを追加してほしい	色やデザインを統一したほうがよい	外国語を追加したほうがよい	案内を大きくしてほしい	案内はシンプルで目立たないほうがよい	今のままでちょうどよい
20	8	6	24	3	94
10.0%	4.0%	3.0%	11.9%	1.5%	46.8%

Q13 全体の満足度について教えてください。

大変満足	満足	不満	大変不満	未記入
97	87	1	0	16
48.3%	43.3%	0.5%	0.0%	8.0%

Q14 当館へのご意見やご要望がありましたらお知らせください。

33件の意見、要望、感想等が寄せられました。詳細は省略

3.9.2. 常設展示室での利用者アンケート（シール式）

[調査方法]

[調査期間と時間]

1階常設展入口内にポスターを掲示して、自身の居住地域の欄にシールを貼ってもらった。

2018年3月24日（土）～4月8日（日）まで
午前9時～午後4時30分

[集計結果] 上段：2018年3月24日～31日の2017年度内7日間のデータの集計

中段：2018年4月1日～4月8日の7日間のデータ集計

下段：2018年3月24日～4月8日を通しての14日間の合計

神奈川県	関東地方	北海道	東北地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州・沖縄地方	外国
1,020	513	11	23	123	18	12	2	16	28
661	444	7	8	79	20	3	1	10	37
1,681	957	18	31	202	38	15	3	26	65

※関東地方は、神奈川県を除く都県の合計

期 間	入館者数	協力者数	協力者の割合
2018年3月24日～31日	8,315	1,766	21.2%
2018年4月1日～4月8日	6,307	1,270	20.1%
2018年3月24日～4月8日	14,622	3,036	20.8%

神奈川県内の地域ごとの内訳

横浜市	川崎市	相模原市	県西地域	県央地域	湘南地域	横須賀三浦
327	98	56	114	129	225	71
152	70	43	117	55	170	54
479	168	99	231	184	395	125

各地域の詳細（左数値：3月分、右数値：4月分）

横浜市内の内訳						川崎市内の内訳						相模原市内の内訳			
鶴見区	20	5	磯子区	4	6	緑区	9	13	川崎区	0	12	緑区	16	5	
神奈川区	25	9	金沢区	23	8	瀬谷区	10	6	幸区	9	5	中央区	20	12	
西区	16	1	港北区	25	17	栄区	15	3	中原区	21	12	南区	20	26	
中区	6	3	戸塚区	28	19	泉区	19	5	高津区	11	1				
南区	12	12	港南区	20	6	青葉区	30	3	多摩区	17	4				
保土ヶ谷区	16	7	旭区	22	8	都筑区	27	21	宮前区	16	12				
									麻生区	24	24				

県西地域の内訳						小田原市内の内訳									
小田原市	79	80	山北町	4	1	緑	2	7	足柄	2	3	富士見	1	0	
南足柄市	3	16	開成町	6	5	新玉	0	0	芦子	4	2	豊川	1	2	
中井町	6	8	箱根町	2	0	幸	0	1	二川	8	0	上府中	9	6	
大井町	3	3	真鶴町	3	0	万年	0	4	久野	8	3	曾我	3	1	
松田町	0	2	湯河原町	8	2	十字	0	0	東富水	9	3	下曾我	0	2	
						片浦	5	2	富水	1	3	国府津	0	1	
						早川	0	1	桜井	2	9	前羽	5	0	
						大窪	2	1	酒匂小八幡	5	8	橋北	2	8	
						山王網一色	4	2	下府中	6	11				

県央地域					湘南地域					横須賀三浦地域				
厚木市	41	22	綾瀬市	11	6	平塚市	71	32	伊勢原市	14	24	横須賀市	31	27
大和市	22	11	愛川町	7	2	藤沢市	73	52	寒川町	7	7	鎌倉市	17	9
海老名市	24	6	清川村	0	0	茅ヶ崎市	24	22	大磯町	6	2	逗子市	11	14
座間市	24	8				秦野市	24	24	二宮町	6	7	三浦市	5	0
											葉山町	7	4	

近隣都県											
茨城県	18	5	群馬県	5	1	千葉県	71	58	山梨県	8	4
栃木県	8	10	埼玉県	76	102	東京都	335	268	静岡県	75	53

外国の内訳											
中国		1	フィリピン	1		イギリス	2	2	アメリカ	6	9
韓国		4	ベトナム		1	フランス		1	その他北米	4	2
台湾		3	インド	1		ドイツ	2		オーストラリア	1	1
香港		7	その他アジア	3		その他ヨーロッパ	7	1			
タイ		1									
マレーシア	1	3									
シンガポール		1									

4. 調査研究関連資料

4.1. 研究成果

4.1.1. 博物館基礎研究（総合研究）

最新版「神奈川県植物誌」の編纂・刊行のための植物相調査

[研究期間] 2013年度～2017年度

[研究担当者] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘

[研究内容]

神奈川県では当博物館が中心となり、1979年より専門家と市民が協力して『神奈川県植物誌 1988』と『神奈川県植物誌 2001』を作成してきた。

『神奈川県植物誌 1988』は、県内を108個の調査区に分け、各調査区で証拠となる標本作製し、標本に基づく分布図を作成する初めての試みであった。そのために、調査期間内にすべての標本が採集された。

『神奈川県植物誌 2001』では、再度、すべての植物について標本作成するのは負担が大きかったため、主に新たに見つかった植物について標本が作製された。分布を拡大した植物については分布図上の分布点の増加として明らかであったが、分布が縮小した植物を示すのは難しい。そこで、3回目の改訂となる今回は、

『神奈川県植物誌 1988』の調査時からの変化を明らかにするために、111調査区（『神奈川県植物誌 2001』調査から川崎市や横浜市の分区により増加）で1988年以後に標本が採集されていない植物について、重点的に標本作成を行うことにした。そのため、チェックリストでは標本の採集時期によりマークを変えて表示して植物相調査を行った。

2013年度より調査計画の策定、会員への調査方法の周知を行い、実際の調査を開始した。2014年度には富士箱根伊豆国立公園、県立自然公園、国有林などの採集許可を得、2015年度からは丹沢大山国立公園の採集許可を得て、県内全域の植物相調査を実施した。野外での植物相調査は2016年度末まで費やした。標本は当館のほか、川崎市宙と緑の科学館、横浜市こども植物園、横須賀市自然人文博物館、相模原市博物館、平塚市博物館、厚木市郷土博物館、愛川町郷土資料館、茅ヶ崎市文化資料館、藤沢市教育文化センター、大磯町郷土資料館に収蔵された。執筆は神奈川県植物誌調

査会会員 37 名で分担した。各執筆者は 2016 年度後半～2017 年前半にかけて、前述した標本収蔵館を周り、自分の担当する分類群の標本の同定確認作業を行った。

本研究で集められた標本と、これまでにデータベース化された神奈川県産の標本データをあわせると、データ総数はおよそ 500,000 件になった。これらの標本データから、県内産維管束植物全種の分布図が作成

された。

分類群の配列は最新の分類体系である APGIV を採用し、現在、各植物の記載、植物図、分布図を配した『神奈川県植物誌 2018』の 2018 年 6 月刊行を目指し、編集作業を進めている。

4.1.2 博物館基礎研究（個別研究）

東アジアにおけるトガリネズミ類（真無盲腸類）化石の分類学的研究（2）

[研究期間] 2015 年度～2017 年度

[研究担当者] 大島光春

[研究内容]

日本ではトガリネズミ類、あるいは近縁な化石は新第三紀からの産出がほとんど知られていなかったが、岐阜県可児市土田のおよそ 1850 万年前（前期中新世）の瑞浪層群中村層から 1995 年に発見された左下顎骨が、国立科学博物館（標本番号 NMNS PV-20155）に保存されていることがわかった。（1）でこの標本の学会発表を行い、（2）では新種記載※し、ホロタイプとして指定した。

NMNS PV-20155 はプレシオソレックス属として東アジアから初記録であり、新種 *Plesiosorex fejfari* として記載した。*P. fejfari* の特徴は、大きく細長い下顎体をもつこと、下顎体の腹側がほぼ水平であること、関節突起と下顎角が共に長く後方へ突き出していること、第 3 小臼歯の歯根が 2 本あること、第 1 大臼歯のハイポコニュリッド（歯の遠心にある小咬頭）やシンギュラム（歯帯）を欠いていることなどである。種小名を“*fejfari*”とし、プラハにあるチャールズ大学 Univ. Karlovy の名誉教授で、新生代哺乳類の研究に貢献されたオルドリッチ・フェイファー Oldřich Fejfar 博士に献名した。プレシオソレックス属の化石記録にこの新種を加え、分岐分析の結果を重ねると、プレシオソレックス属は中新世の初めにヨ

ーロッパに出現（*P. soricinooides*）し、前期中新世の間に中央アジア（*P. aydarlensis*）、東アジア（*P. fejfari*）を経て北アメリカ（*P. coloradensis*）まで分布を拡げたことが分かった。その後それぞれの地域で進化したため、中期中新世の種同士を比べると、ヨーロッパの系統（*P. germanicus* と *P. schaffneri*）と北アメリカの系統（*P. donroosai* と *P. latidens*）に分かれたと考えられる（中期中新世以降アジアからの産出は知られていない）。

※ Oshima, M., Y. Tomida & T. Orihara, 2017. A new species of *Plesiosorex* (Mammalia, Eulipotyphla) from the Early Miocene of Japan: first record of the genus from East Asia. *Fossil Imprint*, 73 (3-4): 292-299.

デジタル標高モデル（DEM）や地球観測衛星画像を用いた神奈川の地形解析

[研究期間] 2013 年度～2017 年度

[研究担当者] 新井田秀一

[研究内容]

目的：神奈川の地形を調べる

地形を解析する手法として、地表面や地形を計測したデータを用いた画像解析がある。この基になるデータとしては地球観測衛星画像やデジタル標高モデル（DEM）がある。日本国内については高解像度の測量が各地で進められており、新規の DEM 公開が随時行われ

ている。特に航空機レーザ測量による DEM は、写真測量により地図化ののち等高線から求めている従来の DEM とは異なり、地形をより正確に再現できると考えられるため、これを用いて神奈川の地形を調べる。

結果：

前回の研究成果として、地形の計測については、レーザ測量によるデータの有効性を示している。神奈川県においては、横浜・川崎市域は、すでに国土地理院によるレーザ測量による 5 m メッシュの DEM が公開されている。このほか、県内の市街地については、ほぼレーザ測量が行われているが、藤沢市、茅ヶ崎市、厚木市などに欠測部分が存在する。さらに、山間部においても欠測部分が存在するところがあるが、1 級河川流域を中心としたレーザ測量結果が別の機関によって行われており、国土地理院から公開されているところもある。

そこで、今回、レーザ測量を中心に統合し、欠測部分を写真測量によって補ったデータセットを作成した。その際、2016 年に公開データ内容および符号化規則が変更されたため、従来使用していたプログラムが使用できなくなり、その修正に時間を要した。

これから：

今後、このデータセットによる地形解析を行う予定である。また、海上保安庁海洋情報部や海洋研究開発機構が公開している海底地形データも取り込み、海陸一体化した詳細な DEM を作成したいと考えている。

底生・浮遊性有孔虫を用いたメタン湧出イベントの検出と日本海の古海洋環境の復元

[研究期間] 2014 年度～2017 年度

[研究担当者] 石浜佐栄子

[研究内容]

日本海は周囲を浅い海峡で囲まれていることから、第四紀後半には汎世界的な海水準変動の影響によって、劇的な海洋環境の変化を受けている。特に約 2 万年前の最終氷期極相期 (LGM) には、約 120 m にもおよぶ海水準の低下によって日本海がほぼ閉塞され、表層水の低塩分化による鉛直循環の停止と底層の強選

元環境化が起こったと推定されている。現在の日本海は、対馬暖流の流入と、対馬暖流を起源とする日本海独自の底層水 (日本海固有水) の存在が特徴的であるが、過去の海水準変動はこの対馬暖流の強弱や日本海固有水の形成にも影響を及ぼしてきたと考えられる。

有孔虫は、水塊の変化を反映して群集が変化し、また殻の炭酸カルシウム中に当時の海水組成の情報を記録していることから、海洋環境の復元に有効である。これまで、日本海における有孔虫殻の同位体比に関する研究は数多く行われてきたが、最終氷期以降の変動に焦点を当てた研究事例が多く、10 万年以上の長期にわたって底生・浮遊性有孔虫の双方を対象に研究を行った事例はあまりない。また近年の調査により、日本海東縁には表層型ガスハイドレートが分布することが次第に明らかになってきたが、過去の海水準変動がハイドレートの分布にどのような影響を及ぼし、ハイドレートの分解活動が海洋環境の変化にどのように影響を与えてきたのかなどについては、まだ明らかになっていない。

今回、最上トラフで採取された RC1408 コアについて、浮遊性・底生有孔虫殻の群集および同位体組成変動の調査を行ったところ、本コアは海洋同位体ステージ (MIS) 1~9 (現在～約 34 万年前まで) に相当することが明らかになった。MIS 1, 5e, 9 に相当する層準では、同位体比の変動や *Globigerinoides ruber* 等の温暖種の産出から、対馬暖流の流入を推定することができた。MIS 2, 6 の氷期極相期の層準では、浮遊性有孔虫の酸素同位体比の -3‰ に及ぶ減少が確認され、海水準の低下による日本海の閉塞と表層水の低塩分化による影響をあらわすものと解釈される。メタン湧出イベントの検出に関しては、メタン湧出域に特徴的な底生有孔虫 *Rutherfordoide cornuta* が複数の海域のコア試料において TL3 層準付近で産出すること、底生有孔虫や一部浮遊性有孔虫殻の炭素同位体比がやや負にふれることがあることから、海水準が低下した LGM 期周辺の時期に短期的なハイドレート分解イベントやメタン湧出イベントが起こったことが示唆された。

4.1.3. 外来研究員による研究

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

[研究担当者] 山口喜盛

[研究内容]

丹沢山地の堂平と箱根仙石原において、ハープトラップを使用してコウモリ類の捕獲調査を実施した。堂平においては前年と同じようにコテングコウモリのみが、仙石原ではモモジロコウモリが多数記録された。また、県内において情報提供のあったオヒキコウモリ、ユビナガコウモリ、ヒナコウモリの生息地を調査した。

水生動物に対するアメリカザリガニの影響調査

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

2015年7月18日から8月3日にかけて、新潟県十日町市松之山、松代地区のアメリカザリガニが未確認である5地点、アメリカザリガニが捕獲された9地点、捕獲されないが痕跡や生息情報が確認された5地点、合計19地点において、ワナとタモ網により水生動物を採集した。対象はアメリカザリガニ、両生類、魚類、貝類、ヒル類、水生昆虫（トンボ目幼虫、アメンボ科を除くカメムシ目、コウチュウ目）とし、採集された種類と個体数を記録した。両生類は幼生と、変態後の段階（未成熟の幼体または成体）を、水生昆虫では幼虫と成虫をそれぞれ別にし、コミズムシ属数種の成虫と、アカネ属数種の幼虫はそれぞれ1つにまとめて計数した。

ワナは「あなごかご」と「四手網」では、煮干しを寄せ餌にし、夕方に設置し、13～19時間後に回収した。アメリカザリガニ未確認地点、捕獲地点、痕跡・情報地点の各合計種類数は、それぞれ、7、4、2であった。アメリカザリガニ未確認地点のみで、アカハライモリ成体、ツチガエル成体・幼生、ゲンゴロウ成虫、クロゲンゴロウ成虫が捕獲され、3者共通の種類はモリアオガエル幼生であった。

たも網は、目合い1mm、幅39cmのものを使用し、調査水域の水際から約1mの範囲を10分間採集した。

アメリカザリガニ未確認地点、捕獲地点、痕跡・情報地点の各合計種類数は、それぞれ、28、10、25であった。アメリカザリガニ捕獲地点において、マツモムシとコミズムシ属が概ね採集される傾向があり、（全調査地点で9種類確認された）トンボ目幼虫については、シオカラトンボ1種のみが9地点中1地点で確認された。

神奈川県産クモ類の調査と標本収集

[研究担当者] 水山栄子

[研究内容]

今年度は以下の内容で調査研究を行った。

神奈川県産クモの調査及び標本の採集

1. 横浜市緑区新治

29年度は7回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

2. 葉山町長柄

29年度は7回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理

標本の整理

神奈川県産クモ類のコレクション構築に向けて、採集標本の同定を行い、当館に約200種の標本を収蔵、ミュージックにカテゴリーを作成し、順次登録中。その他

クモの教材を作成し、昆虫少年少女のひろば使用 当館主催昆虫観察会においてクモの観察を指導 国立科学博物館付属自然教育園の生物相調査に参加

ウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre) の生活史について

[研究担当者] 加賀玲子

[研究内容]

本研究では、これまでウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre) の生活史や産卵行動などの基礎情報を蓄積してきたが、寄主の解明に重要な材内の状況を把握するため、できるだけ多くのサンプルを

集め、寄主の特定と生活史の空白部分の解明を目指す。
調査方法及び材料

成虫の発生時期（4月末～5月末）のクリ園での生態観察と、提供していただいた成虫が割り出された木サンプル材内の状況の詳細を観察した。

結果

本種成虫が割り出されたカミキリムシ蛹室の中からカミキリムシ幼虫が正常に脱皮した殻と、3サンプル中2サンプルでカミキリムシ幼虫の口器が本種が紡いだ共同の繭の中に取り込まれた形で回収された。口器の形状、脱皮殻の形状から、これらはミヤマカミキリのものであると同定された。8月初旬に割った材中では、本種が既に成虫になっていた。

考察

本種の寄主は、従来言われてきたシロスジカミキリの幼虫ではなく、ミヤマカミキリであること、正常に脱皮した状態の脱皮殻が蛹室内に残されていたことから、終齢幼虫→前蛹→脱皮までは正常に成長し、次のステージである蛹の状態に寄生されたことがわかった。本種がミヤマカミキリの蛹を寄主とすることが物的証拠をもって明らかになった。このことは、本種の発生時期が主に5月の2週間ほどと短いことを、この時期はミヤマカミキリが蛹の時期であることから矛盾なく説明できる。また、本種の生活史で、8月初旬には成虫になり、発生時期である翌年4月末までの、少なくとも9ヶ月間を材中で過ごすことが明らかになった（加賀玲子・川島逸郎・荻部治紀, 2018. ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre) の生活史, 特にその寄主について. 本館研究報告, (47): 59-66.）。

今後の課題

本種の生活史の中で、卵が産下される場所、幼虫、蛹の部分は未解明である。全てが生木の材中であることがその観察を困難にしている理由であるが、これまでの材を割っての観察方法では、生息状況を傷つけるリスクも高い。できればCTスキャン、ファイバースコープなどの機材を使っての観察を試みたい。

神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵山登明彦コレクションのチビシデムシ亜科の分類学的研究

[研究担当者] 西川正明

[研究内容]

山登明彦コレクションに含まれるタマキノコムシ科チビシデムシ亜科の分類学的検討を行った。コレクションを検討したところ、クリバネチビシデムシ、タンザワヒメチビシデムシ、イシハラヒメチビシデムシ、クシヒゲチビシデムシ、ルイスチビシデムシ、ヒレルチビシデムシ、*Catops sp.* (*Catops longulus* group)、ミヤマチビシデムシ、ホソムネコチビシデムシ、オオクロチビシデムシ、カバイロコチビシデムシ、ヒダカコチビシデムシ、ムネグロコチビシデムシの13種が認められた。これらは、ほぼ同一地域(福島県檜枝岐)で得られたものだが、ニセチビシデムシ族の種がまったく含まれていないこと、ミヤマチビシデムシ、オオクロチビシデムシ、カバイロコチビシデムシの個体数が多いことが特徴としてあげられる。前者は採集法の問題があるかもしれないが、正確な理由は不明である。後者3種の個体数が多いことは、本州中部の比較的標高の高い産地における典型的な種構成と思われた。

今後、ヒダカコチビシデムシの再記載、種名未定の *Catops sp.* の解決をめざして研究を進める所存である。

神奈川県を基準産地とするササ類4種を含む県内産タケ亜科の比較分類学的研究および県内産タケ亜科の同定検索表の構築

[研究担当者] 支倉千賀子

[研究内容]

県内の植物標本を収蔵する博物館11か所のタケ亜科標本約4400点の再検討し、特にこれまで分布が十分に明らかでなかったメダケ属の各種についてはその区別点を明確に認識し多くの標本の同定変更を行った。また、横浜を基準産地とするメダケ属ヨコハマダケ *Pleioblastus matsunoi* Nakai ex Makino et Nemoto の学名変遷について以下のように再確認した。

ヨコハマダケ（基準産地：横浜）

Pleioblastus matsunoii Nakai ex Makino et Nemoto, Fl. Jap. ed. 2: 1378 (1931);

[Nakai in J. Arn. Arb. 6: 146 (1925), nom. nud.];

Nakai in J. Jpn. Bot., 10: 276 (1934);.

Suzuki, Ind. Jap. Banb. 298, pl. 115, 367 (1978).

[*Arundinaria matsunoii* Makino in J. Jpn. Bot. 2: 8 (1918), n. n.];

Makino et Nemoto, Fl. Jap: 1423 (1925).

Nipponocalamus matsunoii (Nakai) Nakai in J. Jpn. Bot. 18: 359 (1942), ut *matsunoii* (Makino) Nakai.

本州中部の変形菌相の研究

[研究担当者] 矢野倫子

[研究内容]

平成 29 年度も変形菌の採集記録が少ない本州中部の亜高山帯において調査を継続した。数年に亘り、本研究で石川県、新潟県、静岡県などの調査を積み重ねたことにより、本州中部の山地帯～亜高山帯における変形菌相の概要の一端が明らかになってきた。29 年度は特に富士山南面（静岡県域）の亜高山帯において、標高ごとの変形菌分布（垂直分布）の解明のための調査を行った。調査は入山可能な春季から秋季間に富士山静岡県域の須走登山道（ふじあざみライン）と富士宮登山道（富士スカイライン）の亜高山帯において 100 m ごとに 10 地点を選定し、集中的に実施した。その結果として、平成 25 年 7 月から平成 29 年 7 月までの調査で 311 標本が得られ、平成 22 年 10 月から平成 26 年 9 月までの調査報告（矢野ほか，2015）と併せて、和歌山県田辺市で開催された国際変形菌分類・生態学会議（ICSEM 9）（平成 29 年 8 月 18 日～23 日）においてポスター発表を行った。その中には、日本新産のケンショウケホコリ *Trichia ambigua* や、我国では過去に報告された例が少ないうえ、その標本が行方不明である点で貴重な発見であるナカヨシカタクミホコリ *Symphytocarpus confluens* が含まれていた。今後は学術誌上において、富士山南面の変形菌垂直分布とこれら希少種について報告したいと考えて

いる。

平成 29 年度に行った調査は以下の通りである。

1. 石川県産変形菌調査：金沢地方海岸部において平成 29 年 3 月、4 月の計 2 回行った。
2. 富士山静岡県域変形菌調査：亜高山帯における調査を須走登山口、富士宮登山口において平成 29 年 5 月から 11 月にかけて計 5 回行った。
3. 新潟県妙高市妙高山周辺での調査：平成 29 年 5 月から 11 月まで計 7 回調査を行った。
4. 秋田、宮城両県の栗駒山周辺国有林での調査：平成 29 年 5 月、6 月 9 月に計 3 回行った。

ニカワアナタケ上に発生する分生子柄束形成菌の同定および *Hymenostilbe mycetophila* の分類学的再検討

[研究担当者] 杉本 泉

[研究内容]

1. 担子菌類のきのこの一種、ニカワアナタケ上に発生する分生子柄束（シンネマ）形成菌 *Hymenostilbe mycetophila* Y. Kobayasi は *Hymenostilbe* 属が昆虫寄生菌であり分生子形成様式が異なる点等から分類学的位置づけを再検討する必要がある。

筆者は 2015～17 年にかけて、富山市内で本種と思われる菌を採集し、2016～17 年は分離培養した。2016 年 10 月 22 日に分離培養したものから菌株を取得でき、NCBI BLAST でのヌクレオチド相同性検索の結果では、*Sarocladium mycophilum*, *Mycosymbioces mycenaphila* と近縁であった。*Sarocladium mycophilum* は菌寄生で、30℃では生育できず 15℃が生育の適温である点（Giraldo et al., 2015）が本種と共通している。*Hymenostilbe mycetophila* は形態観察と基質から *Dendrostilbella mycophila* に近い種ではないかと筆者は考えているが、2018 年現在、GenBank 等の国際ヌクレオチドシーケンスデータベースには登録されていない。2017 年採集の *Hymenostilbe mycetophila* の形態は培地上に形成された分生子柄束に類似しており、分生子柄の分枝がはっきりしない子実体がある点が 2015～16 年採集の標

本と異なっている。2017年の標本からの培養は成功しなかった。2016年富士山近くの幸助山で黒くなったキノコから発生していた分生子柄束菌は形態観察と発生基質から *Dendrostilbella* 属と考えられたが、分離培養に失敗し NCBI BLAST でのヌクレオチド相同性検索の結果は硬質菌であった。2016年7月に続き、2017年9月にも秩父で探索したが、ニカワアナタケと *H. mycetophila* は再発見できなかったため、これからも引き続き探索してゆきたい。

2. 糸状不完全菌類の観察と培養

2017年3月～2018年3月に採集・観察し種・属まで同定できた糸状不完全菌は10種28属であった。これらの中で、分生子柄束形成菌 *Tilachlidium brachiatum*、*Stilbella jaapii*、*Sclerographium fligineum* の3種、3標本から菌株を得ることができた。

神奈川県産資料に基づくハルペラ目菌の分類学的研究 2

[研究担当者] 渡辺 舞

[研究内容]

接合菌類は陸上進出した初期の菌類という点で、菌界全体の系統進化を考える上でも重要なグループである。しかし、その分類学的研究は遅れており、中でも昆虫等の節足動物の腸内生菌についての解明度は低い。水生昆虫の腸内生接合菌であるハルペラ目菌についても、国内では著しく研究が遅れているため、各地で分布状況を調査し多様性を把握してゆく必要がある。神奈川県は、水生昆虫等の昆虫相が十分に調査されており、調査を進める上での基盤が整っている。そこで、県内におけるハルペラ目菌の多様性の一端を解明することを本研究の目的とし、調査を行った。今回、2017年4月に小田原市入生田の宮沢川において、カゲロウ目フタスジモンカゲロウ幼虫を寄主とするハルペラ目菌について調査を行った。フタスジモンカゲロウは過去にハルペラ目の付着が確認されているが、今回の調査でも同様に菌の付着が確認された。ハルペラ目は水生昆虫の幼虫の腸管内に付着器を形

成し付着生活する。しかし、本菌はハルペラ目において例外的に、腸管外に付着器を生じ、体表に付着生活する種である。今後、分類学的記載に向けて、本菌の形態的特徴等を詳しく調査してゆきたい。

また、平成28年度に行った、アシマダラブユから得られたハルペラ目についての通年観察の結果を神奈川県自然誌資料にて報告した(陶山・佐藤・折原, 神奈川県自然誌資料 39: 1-4, 2018)。

丹沢山地と伊豆半島の中新統の石灰岩より産出する化石群集から古環境を復元する

[研究担当者] 門田真人

[研究内容]

NHK スペシャル「ジオ ジャパン」総合1チャンネルで7月に放映された番組の「伊豆弧の連続衝突」章撮影班を延べ5日間丹沢山地に案内しロケ地解説など協力した。

30年間有余にわたる丹沢・伊豆の中新世サンゴ化石群の調査と保全活動、そして地学普及活動に対して日本地質学会関東支部功労賞を授与された。

化石について二件の共同研究を学会誌に投稿した。

1. 宮崎県高岡山地で採集の新第三紀後期層から採集サザエ類化石報告を日本貝類学会誌「ちりぼたん」に投稿、現生種オオコシダカサザエとして Vol. 47、(2017) に掲載された。

2. 伊豆半島湯ヶ島層産巻貝類化石ギンタカハマの近似種を日本貝類学会誌「(VENUS) ビーナス」に投稿し、日本貝類学会誌「ちりぼたん」に投稿、75 (2017) に掲載された。

普及活動として学校機関へ5回の出前授業(内、大学1回)、巡検講師2回、講演並びに講座6回、博物館行事2回である。有志で丹沢地学的遺産保全活動を2回実施した。

*厚木市2件の委嘱を受けて活動中。

1. 文化財保護審議委員会委員7年目、

2. 同博物館設立協議会委員4年目副委員長に就任中

*神奈川県地学会、会誌編集部として活動

*社会福祉法人「こどもの国」運営協議会員に就任し

地学行事を」立ち上げるための地質調査中

瀬戸内海周辺のサヌキトイドの蛍光 X 線分析値から見た判別群

[研究担当者] 高橋 豊

[研究内容]

瀬戸内火山岩類の特性を引き出し得ると考える蛍光 X 線分析試料の選択を、現地踏査をとおして行ってきた。その数を下記に、小豆島：(分析岩石試料数) / (踏査地点数) = 54/37 の例にならって、地質の上で区分される岩体ごとに、サヌキトイドと考えて採集した試料数で示す。研究に必要な試料の追加踏査、採取もありうる。

蛍光 X 線分析値を 30 年度より、前年度分約 80 個と合わせて順次示してゆくこととする。

踏査地域の区分けを下記に示し、各地域で取得した分析用岩石試料数/踏査地点数を示す。

○四国北東部は、

a 小豆島地域：(分析岩石試料数) / (踏査地点数) = 54/37

b 香川県東部：五色台 41/20・白峰 20/9・城山 29/14・金山 17/28・国分台 20/6・志度

津 4/2 など 131/77。

○香川県西部、観音寺岩体など

a 観音岩体、七宝山 4/3・志保山 4/2・穂積山 4/2・石ケ谷 2/1・曾保 2/1・吉津峠 2/3 石ケ谷 2/2・弥谷山 2/2・我拝師山 2/2、など 24/18

○四国北西部は、

a 四国北西部中央構造線沿い：丹原町湯谷口など 20/8

b 松山市付近および島嶼部：北松山興居島 6/2・黒岩 6/2・太山寺 20/15・梅津 2/2

c 松山市南部：桂ヶ森・皿ヶ嶺・黒森山など：37/22

d 高縄半島および今治市付近：高縄 6/3・鹿島 6/3・恵良山 5/2

e 内子町河川：4/2・伊予市谷 4/2

f 西条市天福寺 4/2

伊豆・小笠原弧における浅海性魚類の多様性解明

[研究担当者] 栗岩 薫

[研究内容]

本研究の目的は、日本周辺海域において唯一の海洋島環境である伊豆・小笠原弧上の島嶼群、伊豆諸島・豆南諸島・小笠原群島・火山列島について、(1) 網羅的サンプリングによる浅海性魚類相の作成による種多様性の解明、および (2) ハタ科アカハタを用いた集団ゲノミクスによる遺伝的集団構造の形成史の解明、の二つである。3年計画の1年目である本年度は、まず北硫黄島・硫黄島・南硫黄島からなる火山列島において浅海性魚類の採集調査を行った。

当該海域における包括的な浅海性魚類調査は、北硫黄島では 49 年ぶり、硫黄島では 23 年ぶり、南硫黄島では 10 年ぶりであった。その結果、未記載種の可能性がある 2 種、日本未記録種を 3 種含む、9 目 37 科 91 属 133 種 339 個体の魚類を採集し、神奈川県立生命の星・地球博物館、国立科学博物館、および鹿児島大学総合研究博物館に分散登録した。

現在、火山列島における浅海性魚類相をまとめた論文を準備中であり、これにより、伊豆・小笠原弧上の島嶼群における網羅的サンプリングが完了する。今後は上述の二つの目的を達成するための解析を進める予定である。なお、本年度に予定していたハタ科アカハタの高精度全ゲノム決定は、実験および解析スケジュールの都合で来年度実施へ変更した。

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究

[研究担当者] 中村進一

[研究内容]

神奈川県内における蝶類のうち、RD種(レッドデータ種)に選定されている種について、神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の現状把握に努め、その衰亡の要因について調査する。これまでの研究で横浜市内における状況はほぼ把握できた(中村、2001、神奈川県虫報、(133): 1-53; 2003、神奈川県虫報、(144): 1-14)ので、今後は横浜市以外の地域を中心に調査を進めたい。

なお、本研究の目的の1つであった神奈川県内のRD種の選定については、2006年に発行された「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」において、中村・高桑の連名で公表済みである。今後も、レッドデータブックの改訂を視野に入れて調査を進めたい。つぎに、2008年前半にRD種の1種クロツバメシジミの生息地が環境悪化との情報を得、視察に向かった。唯一、生息が近年まで確認されている地でも、食草となるツメレンゲの衰退が目立ちこのままではクロツの生息が危ぶまれるので、まずは食草保全をすることを思いついた。保全方法の一つにツメレンゲ自生地周囲の環境保全のため、雑木の枝払い、周辺の背丈の高い草取りを行うこととし、その許可を管理する土木事務所に許可申請を行った。結果、2008年9月9日に現地(ツメレンゲ生息地)で事務所関係者複数人と会い、目的と作業方法の説明をし、了解を得たので、10月26日作業協力者と私の2人で前出の作業をし、ツメレンゲの育成の作業を実施して助成をした。結果、ツメレンゲの株は大きく育ち、株数も増えて、2009年4月には、その自生地でクロツの姿が確認された。しかし、その後、経過は芳しくなく2009年夏以降から2010年には私自信は確認していない。ツメレンゲも徐々に大きな株は減り、株も全体に少なくなってきた

いる。それでも2012年には僅かな個体が確認されたが、発生時期に必ず確認される訳ではなく、危機的な個体群によって継続されていると考えられ絶滅危惧IA類のランクは変更できない。今後とも、その経過を継続的に観察しつつ、本種の確認に専念したいと思っている

つぎに、本県では山梨県との県境付近にのみ生息するキマダラモドキの生息環境が近年悪化(雑木、灌木の繁茂により、林内空間の消失)しているとの情報を得たので、その生息地の視察と環境整備を早急に計画して、まずは、生息確認をすることを目的とした。上記以外の絶滅危惧IA~IB類、情報不足種のホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、ムモンアカシジミ、キマダラツバメシジミ、シルビアシジミ、ホシミスジ、オオミスジなど草原を基盤とする種の近年、生息が確認されていないとの情報があるので、視察を含め、2016年から2017年に亘り同所へ5回ほど趣き調査をしたが、RD種の確認ができなかった。今後は聞き取り調査も含め、情報を集約してさらなる現地調査を実施したい。

4.2. 研究成果(外部資金助成等・共同研究等)

爬虫類の水生適応と収斂進化：インドガビアルの捕食様式の特異化と形態進化について

[助成金の種類] 藤原ナチュラルヒストリー振興財団

[研究期間] 平成29年度

[研究組織] 松本涼子

水生適応した動物に現れる収斂現象として、代表的な形態が「細長い口先と扁平な頭骨」である。これをもつ、現生ワニのインドガビアルは、水中で頭部を横に振り獲物を捕らえる特徴的な運動様式が知られているため、「細長い口先と扁平な頭骨」は、水の抵抗を最小限にした運動への適応であり、同様の収斂現象を示す絶滅動物の生態復元のモデルとされてきた。し

かし、力学的・解剖学的検証がされていないため、推測の域を出ていない。この研究では頭骨の形態と捕食様式の異なる、ワニ(細長い口先：インドガビアル vs 幅広い口先：アリゲーター)の首の筋および、頸椎の形態を比較し、背側・側面それぞれの方向における頸椎の可動域をCT及び骨格から求め比較する事で、インドガビアルの首の運動機能の特異性を検証した。

<側屈における可動域>

頸椎の前面と後面の関節突起の角度は、動きの方向を制限する要素であると考えられる。そのため、各種ワニの第2-9頸椎における関節突起の角度を求めた。また成長段階による変異を確認するため、インドガビ

アルを含む一部の種については、複数個体計測した。その結果、インドガビアルでは、側屈は首前方(v2-4)が貢献しており、背屈には首後方(v5-9)が貢献している。一方吻部の幅広い小型のワニ(カイマン、アリゲーター等)では、首の前方から後方まで関節突起の角度は一定であり、鈍角であることから、首全体が斜め横方向の運動に適している。

<背屈における可動域>

比較に用いた14種のワニでは、頸椎前方の可動性が極端に低いが、頸椎後方では可動性が高い。インドガビアルに限らず、今回解析したワニについては、一般的に背屈の可動域は首の中央から後方で高くなっていた。

<CTデータとの整合性>

骨格から得られた可動域が、軟組織の付いた状態で首を動かした際の骨格可動域と整合的であるか検証するため、CT撮像を行なった。CTによる画像及び頸椎の可動域を解析した結果、頸椎から予想される可動域を支持する結果が得られた。

<絶滅動物への応用>

インドガビアルと収斂進化の関係にある絶滅爬虫類のチャンプソサウルス(*Champsosaurus*)において、上記の手法を用いて、側屈・背屈の可動域を求めた。その結果、側屈運動への特殊化が認められたが、インドガビアルとは異なり、首の中央部から後方に限定され、首全体の側屈に適している。これは、チャンプソサウルスの後頭部が後方に張り出し、首前方を覆っており、首の可動域を制限しているためと考えられる。また、背側への可動域は狭く、首の上下運動には適していない事が明らかになった。

<まとめ>

頸椎の形態、可動域、筋の比較から、インドガビアルは首の付け根(首前方)に限定した側屈運動に特殊化することで、最小限の動きでより素早い側屈運動を可能にしていると考えられる。形態から予測される首の運動機能の特殊性は、彼らの捕食様式と整合的である。また、今回研究対象とした全てのワニで背屈方向への可動性が高いことが明らかになった。これは、彼

らの嚙下方法である首を上下にふって inertial feeding と整合的である。インドガビアルと収斂進化の関係にある絶滅爬虫類のチャンプソサウルスの頸椎においても同様に可動域を検証した結果、側方方向への特殊化が確認されたことから、インドガビアルと同様、側方に首を向けた捕食に適していたと考えられる。また、背屈方向への可動性が低いことから、inertial feeding に適していなかったと考えられる。

剥ぎ取り標本作製体験を活用する教育プログラムの開発～地層・岩石学習の深化をねらって～

[助成金の種類] 笹川科学研究助成 実践研究部門

[課題番号] 29-823

[研究期間] 平成29年度

[研究組織] 笠間友博・野田啓司(海老名市立今泉中学校、研究協力者)

研究の目的

一般的に地層剥ぎ取り標本作製では、毒性のある接着剤を使用するため博物館講座参加者が行うことはできない。家庭用の接着剤での実施例も少ないのは、接着力不足により標本に欠損部分が生じやすいからである。よって講座の展開も標本の出来栄えに参加者の関心が移り、標本作製で満足したところで終了となってしまう場合がほとんどで、地層・岩石学習の深化までは及びにくい。したがって剥ぎ取り標本は展示、観察材料としての有効性は評価されているが、その作製過程が学習にどのように影響するかについての研究例はほとんどない。本研究では、剥ぎ取り標本作製を参加者各自が行うことにより地層・岩石学習が深まるのか、またどのような学習プログラムが作成可能なのかを探った。本研究では接着力不足を補う目的で大幅に剥ぎ取り面積を縮小し、面積の縮小を補うため、高速硬化型の接着剤を使用して剥ぎ取り標本の採集数を増やした。具体的には11.5 mm φスティック状ホットメルト接着剤をライターで直接加熱して標本に押し付けて剥ぎ取りサンプリングをした。露頭や岩石標本は、神奈川県地層学習で最もポピュラーなフィールドである三浦半島や大磯丘陵のものを対象とした。

研究成果

実践研究は野外と屋内に分けて行った。野外では延べ3回の講座を行い、延べ78人が参加した。野外では、剥ぎ取り標本付柱状図作製や地層剥ぎ取り標本分類図作製の2つのプログラムを作成して実践研究に臨んだ。事後のアンケートでは、97%が面白いまたは大変面白いと答え、82%が地層への理解が深まったまたはたいへん深まったと答え、プログラムの有効性とともにより多くの子ども達が剥ぎ取りに興味を持ち、地層の理解に役立っていることが判った。なお、具体的項目を尋ねた所、86%が地層を構成している粒子の大きさが分かったと答えた。地層は砂粒などの粒子からできているので、剥ぎ取りを活用することによって、地層の最も基本的な理解の向上に役立つことも判った。屋内では、岩石標本の好きな部分を剥ぎ取って標本作製するというプログラムを作成して実践研究に臨んだ。事後のアンケートでは100%（全員）が楽しいまたはたいへん楽しいと答え、92%が岩石標本をただ観察するだけに比べ、剥ぎ取りを行ったことによって理解が深まったあるいはたいへん深まったと答えた。また、面積は小さいが98%が、地層剥ぎ取りというものがどういうものかわかるようになったとも答えた。室内実習でも地層の理解度の向上や岩石標本の学習深化に対して効果があることが判った。

本研究の成果の一部については、下記の普及著作物で紹介した。

笠間友博（2017）“地層バイキング”特別展「地球を『はぎ取る』」ワークショップ報告．自然科学のとりら、神奈川県立生命の星・地球博物館, Vol. 23, No. 4: 28-29.

また、下記の学会発表を行った。

笠間友博・野田啓司（2017）ホットメルトを用いた地層剥ぎ取りサンプリング講座“地層バイキング”実践報告．日本地学教育学会2017年兵庫大会，2017年9月16日，P-16，神戸大学。

地球の現象を体感する新しい展示の実践的研究 ～地層の実物標本とハンズオン実験を軸に

[助成金の種類] 平成29年度全国科学博物館活動等助成事業

[課題番号] 17008

[研究期間] 平成29年度

[研究組織] 石浜佐栄子（研究代表者）・山下浩之・大島光春・田口公則（研究分担者）

地震や津波、地盤の液状化、火山の噴火、過去の環境変動など、地球上で起こった「現象」は地層の中に記録されている。地層は、砂や泥や火山灰などが集まった「物質」であるだけでなく、地球の表層で起こった出来事をも表現しており、過去の時の流れや多様な激変災害、環境変動などを解読する手がかりとなっている。地層は他の自然史資料とは異なり、単純に収集保存することが難しいが、「地層はぎ取り」という技法を用いると、表面を原状のまま剥がし取って実物標本化し、保存・活用することができる。つまり、地層の実物標本を用いれば、地球の「現象」を記録した大地の現場を博物館内で再現し、その現場を来館者が体感することも可能となる。また地学現象の中には、スケールを小さくして条件を単純化すれば、実験でその原理を体験することができるものも多い。小型化したハンズオンな実験装置を開発・製作し、適切なかたちで展示することができれば、地学現象への理解が未熟な子どもたちにも興味と理解を促すことができる。

そこで本研究では、特別展「地球を『はぎ取る』～地層が伝える大地の記憶～（平成29年7月15日～11月5日）」の場において大地の現場を博物館内に再現し、その現場を来館者が体験できることを目指した。当館所蔵の大型の地層剥ぎ取り標本に対して、露頭（崖）の現場と同様の状態で観察できるよう、垂直吊り下げ方式や傾斜立てかけ方式など、様々な方式での展示を試みた。地球の現象を記録した大地の現場を大きなスケールで再現し、体感できるようにすることで、来館者の実感や興味を引き出し、理解を促すことができた。また、来館者一人一人が体験できる単純で動きのあるハンズオンな実験装置を開発・製作して、断層の動きや液状化現象を“体感”できるようにした。関連するはぎ取り標本とあわせて展示することで、子ど

ものみならず全ての世代の来館者の理解が深化することを目指し、来館者アンケートにおいても実験展示は非常に高く評価されたことが明らかになった。

本研究の成果については、平成 30 年 2 月 15 日に福岡市科学館で開催された第 25 回全国科学博物館協議会研究発表大会において発表し、博物館関係者や教育関係者等へ向けて広く発信した。

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

〔土地概要〕

	本館	連絡橋EV棟
所在地	小田原市入生田499番地	
敷地面積	22,460.90㎡	153.60㎡
地目	宅地	宅地
用途	無指定（一部住居地域）	住居地域
建ぺい率	70%（住居60%）	60%
容積率	400%（住居200%）	200%
現況	国道1号線と早川とはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	

〔建物概要〕

	本館	連絡橋EV棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下1階地上4階建て	地上2階建て
建築面積	8,218.11㎡	30.97㎡
延床面積	19,020.14㎡	43.86㎡
最高高さ	23.25m	

〔各階別面積〕

	面積	主要室
地下1階	5,852.14㎡	駐車場・機械室等
1階	7,427.00㎡	エントランスホール・ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2階	2,166.00㎡	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3階	3,017.00㎡	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4階	506.00㎡	機械室等
塔屋	52.00㎡	
合計	19,020.14㎡	

〔用途別面積〕（本館）

エントランススペース	984.00㎡
展示スペース	5,075.00㎡
学習スペース	867.00㎡
収蔵スペース	1,433.00㎡
研究スペース	804.00㎡
管理・その他	5,057.00㎡
地下駐車場	4,800.14㎡
合計	19,020.14㎡

〔建物仕上げ〕外部（本館）

外部仕上げ	
屋根	（勾配屋根）カラーステンレス （陸屋根）アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ

〔建物仕上げ〕内部（本館・主な箇所のみ）

エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	P.B下地ガラスクロスE.P
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付けC.L及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレートO.P

〔設計・施工〕（本館）

設計	
建築	㈱国設計
設備	㈱国設計
展示	㈱丹青社
造成	中野設計工務㈱
施工監理	
建築	㈱国設計
設備	㈱国設計
展示	㈱日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務㈱
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降	㈱日立製作所
展示	㈱丹青社
造成	㈱杉山組・㈱若林組・箱根建設㈱・㈱加藤組 ㈱吉沢組・日本鋼管工事㈱・㈱秋山組
外構	土谷建設㈱・㈱菊原建設
植栽	㈱加藤造園・㈱深谷造園・栄立造園土木 緑栄造園土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成4年10月10日～平成6年12月20日
展示工事	平成4年10月10日～平成7年3月1日

〔設計・施工〕（連絡橋EV棟）

設計・施工	中野設計工務㈱
建築	内田建設㈱
電気	㈱昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター㈱

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

〔電気設備〕		〔昇降機設備〕	
受配電設備	受電電圧 3相3線式 6.6kV 50Hz 変圧器容量 2,175kVA (乾式モールド形) 進相コンデンサー 327kvar 高圧母線 5系統 低圧幹線 102系統	1号機 乗用 (展望用車椅子仕様) B1F, 1F, 2F, 3F 停止 13人乗り 45 m/min (ロープ式)	2号機 乗用 (車椅子仕様) B1F, 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)
自家発電設備	原動機 ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm) 発電機 ブラシなし交流発電機 300kVA Pfo.8 (1,500rpm) 起動方式 直流電動機起動式	3号機 乗用 (車椅子仕様) 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式)	4号機 荷物用 1F, 2F, 3F 停止 3,000 kg 30 m/min (油圧式)
太陽光発電設備	出力電気方式 三相3線式 210V 公称出力 7.5KW システム構成 システム連携型	連絡橋 乗用 (車椅子仕様) 1F, 2F 停止 11人乗り 45 m/min (油圧式)	エスカレーター (1200型・車椅子兼用) 1F~3F 30 m/min (電動式)
蓄電池設備	種類 シール形ポケット式アルカリ電池 公称電圧 103.2V (86セル) 容量 350Ah (5時間率) 用途 受配電機器操作用・非常灯用	〔防災設備〕	
電話設備	交換機 デジタル交換機 局線 6回線 (12回線実装) 内線 120回線 (144回線実装)	自動火災報知設備 受信機 P型1級 70回線 防災連動制御盤 40回線 熱感知器・煙感知器 一式	
電気時計設備	親時計 水晶発振式 (出力2回線) 子時計 アナログ式 29台 デジタル式 5台	消火設備 屋内消火栓 40箇所 屋内消火ポンプユニット 140ℓ/min 1台 屋外消火栓 6箇所 屋外消火ポンプユニット 700ℓ/min 1台 泡消火設備 (地下1階駐車場) 薬剂量 600ℓ, 泡ヘッド 696個 泡消化ポンプユニット 1,120ℓ/min 1台 移動式粉末消火器 (駐車場他) 9台 連結散水設備 (地下1階部分) ヘッド数 12個 誘導灯設備 (避難口・通路・階段) 165台 ガス漏れ警報器 検知器12個 受信機1台	
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示一式	非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵) 電力増幅器 360W 2台 電力増幅器 240W 1台 スピーカー 232個	
その他	身障者警報呼出表示装置・避雷針設備 インターホン設備・テレビ共聴設備	排煙設備 排煙機 (廊下系統) 15,800m ³ /h 1台 排煙機 (一般系統) 38,000m ³ /h 1台	
〔空調設備〕		ITV設備 本館監視用 固定カメラ 8台 可動カメラ 8台 モニターテレビ 19型4台×2箇所 連絡橋EV監視用 固定カメラ 3台 モニターテレビ 19型3台×2箇所	
空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式 中央式 各階ゾーンユニット方式+2管式 FCユニット併用方式 パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)	〔その他の設備〕	
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT 3台	自動扉設備 エントランスホール等の出入口に設置 8台	
空調機等	ユニット型空調機 16台 ファンコイルユニット 53台 ビルマルチエアコン 37台 パッケージエアコン 11組	自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用) 東側前庭 8系統・3階テラス11系統	
換気設備	第1種及び第3種 給気ファン7台 排気ファン44台	カスケード設備 (人工滝) 間口 24m 高さ3m 水量 2.5m ³ /min 照明付き	
自動制御設備	中央監視装置一式		
〔衛生設備〕			
受水槽	75 t		
雨水槽	300 t		
中水槽	28 t		
中水処理装置	5t/h 1台 (上水用)		
加圧給水ポンプユニット	540ℓ/min 1組 (中水用)		
加圧給水ポンプユニット	1,470ℓ/min 1組		
汚水ポンプ	300ℓ/min 2台		
雑排水ポンプ	300ℓ/min 2台		
雨水ポンプ	1,000ℓ/min 6台		
雨水ポンプ	200ℓ/min 2台		
湧水ポンプ	200ℓ/min 2台		
〔ガス設備〕			
地下1階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温、レストラン、ともしびショップ等に供給			

5.2.2. 研究設備

【大型標本製作室】

品名	型番 (メーカー)	数量
ロックトリマー (岩石粉碎機)	(IWAMOTO)	1台
ジョークラッシャー (岩石粉碎機)	2002-EX (吉田製作所)	1台
大型岩石カッター (自動送り)	SC-14 (ニチカ)	2台
中型岩石カッター	MC-442 (マルトー)	1台
小型岩石カッター	MC-100 (マルトー)	1台
旋盤	FS450A (TOYOAS)	1台
超音波洗浄器	B-62 (Brainson)	1台
ふるい震とう器	NVS-200 (C.M.T.)	1台
岩石研磨回転台	RP-5 (マルトー)	2台
卓上帯のこ台	(PROXXON)	1台
遊星ボット型ボールミル	LA-P04 (伊藤製作所)	1台
解剖台		1台

【標本製作室】

品名	型番 (メーカー)	数量
マイクロカッター	MC-201 (マルトー)	1台
自動メノウ乳鉢	(日本地科学社)	1台
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol (ニコン)	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10 (オリンパス)	1台
プレパラップ (岩石薄片作成装置)	MG-300 (マルトー)	1台
プランボール (精密研磨台)	Planopol-V (Struers)	1台
ディスクプラン (岩石切断研磨装置)	Discoplan-TS (Struers)	1式
ポバク (岩石試料作成用真空装置)	Epovac (Struers)	1式
真空装置	G-50S (真空機工)	1式
自動染色装置	DRS-601 (サクラ精機)	1台
ミクロトーム	HM340 (カールツァイス)	1台
パラフィン伸展器	PS-52 (サクラ精機)	1台
パラフィン溶融機	(アルプ)	1台
荷重計測器	FGS-50V-L (日本電産シンボ)	1式
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10 (日本電産シンボ)	2台
デジタルマイクロスコープ	VHX-900 (キーエンス)	1台
透過型/ルネスタ式微分干渉顕微鏡	BX50-33-DIC, BX51 (オリンパス)	2台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD (オリンパス)	1台
実体顕微鏡	SZX12 (オリンパス)	1台
実体顕微鏡	SZ61-1 (オリンパス)	5台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12 (オリンパス)	1台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A (ニコン)	1式
ツルグレン装置	B-1 (伊原電子工業)	1台
植物標本乾燥機	(入江製作所)	1台
燻蒸器	(特許理化興業)	1台
ドラフト	(ダルトン)	2台
ビデオマイクロスコープ	VMS-70 (SCALAR)	1台

【化学分析室】

品名	型番 (メーカー)	数量
精密天秤	RC210P (Sartorius)	1台
化学天秤	LaboratoryLC4200S (Sartorius)	1台
免震台		2台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200 (Advantec)	1台
ビードサンプラー	NT-2100 (東京科学)	1式
ピストシリンダー型高圧発生装置	A1型 (トライエンヂニアリング)	1式
マッフル炉	STR-11K (ISUZU 製作所)	1台
乾燥機 (DryOven)	ANS-111S (ISUZU 製作所)	1台
超音波洗浄器	UT53N (SHARP)	1台
エアコンプレッサー	PA800S (日立製作所)	1台
電気泳動装置	Bio-Rad 他	1式
サブマリン型電気泳動装置	Mupid-exU (アドバンス)	1式
凍結乾燥機	VD-31 他 (TAITEC 他)	1式
限外濾過器	XX80 (MILLIPORE)	1台
HPLC 装置	PU-980 他 (日本分光)	1式
吸光度計	MPR・4Ai (TOSOH)	1台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B (TAITEC)	1台
冷蔵庫	SMR-120VAG (SANYO)	1台
遠心分離機	CFS-300, CFA-12 (IWAKI)	2台
マルチポイントスターラー	F-6A (TAITEC)	1台
ディーブフリーザー	BFH-110 (ESPEC)	1台
オートクレーブ	LBS-245 (トミー精工)	1台
ポータブルクリーンベンチ	APC4 型 (iuchi)	1台
乾熱滅菌器	DS-450 (iuchi)	1台
サーマルサイクラー	TC-96GHbA (日本ジェネティクス)	1台
ドラフト	(ダルトン)	1台

【冷凍乾燥室】

品名	型番 (メーカー)	数量
大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
中型冷蔵庫	RS-5203 (日立フリーザー)	1台
インキュベーター	PCI-301 (ASONE)	3台
凍結乾燥機	RLE II (KYOWAC)	1台

【試料分析室】

品名	型番 (メーカー)	数量
蛍光 X 線分析装置	Primus II (リガク)	1式
試料固結装置 (BriquettingMachine)	MP-35 (島津製作所)	1台
走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV (日本電子)	1式
金蒸着装置	JFC-1200 (日本電子)	1台
臨界点乾燥装置	JCPD-5 (日本電子)	1台
炭素蒸着装置	SC-701C (サンヨー)	1台
一眼レフデジタルカメラ (ボディー)	D70 (ニコン)	1台
デジタルプロジェクター	V-1100Z (ブラス)	1台

【写真室】

品名	型番 (メーカー)	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol (ニコン)	1式
軟 X 線非破壊検査装置	CMB-2 (ソフテックス)	1台
中判カメラ	MamiyaRB67 (マミヤ)	1式
カラー撮影用照明	HMI-575 (broncolor)	2台
マクロ撮影装置	(オリンパス)	1式
一眼レフカメラ	F70, F90 (ニコン)	2台
レンズ用デシケーター		2台
紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor (ニコン)	1台
デジタル一眼レフカメラ	D1X (ニコン)	1式
フィルム用冷蔵庫	MR-18-H (三菱電機)	1台
暗室用具		1式

【化石ラボ】

品名	型番 (メーカー)	数量
コンプレッサー	(日立製作所)	1台
サンドブラスター	CH-4000 (WULSUG)	1台
エアスライバー (小型削岩機)	CP9361 他 (ChicagoPneumatic 他)	4台
デンティストドリル	(Sverital)	2台
実体顕微鏡 (コハ・キルスタット付き)	SMZ-2B (ニコン)	2台
集塵機	VF-5 (AMANO)	2台

【実習実験室】

品名	型番 (メーカー)	数量
実習・研究用生物顕微鏡	CHT (オリンパス)	15台
偏光顕微鏡	LABPHOTO2-POL (ニコン)	7台
実習用実体顕微鏡	SZ40 (オリンパス)	24台
透過型落射光顕微鏡	BX60F (オリンパス)	2台
ツルグレン装置		1台
エアサンプラー	LV-100 (横河電機)	1台

【収蔵庫】

品名	型番 (メーカー)	数量
電気炉	MAX1200°C (石塚電気製作所)	1台
電気炉	MAX1500°C (石塚電気製作所)	1台
ボルトスライダー (トランス)	S-260-20 (200V) (YamabishiElectric)	1台
ボルトスライダー (トランス)	S-260-50 (200V) (YamabishiElectric)	1台
パワーコントローラー	(石塚電気製作所)	1式
パワーコントローラー	MODEL-S (Uチノー)	1式
ロックトリマー (改)	A 型 (IWAMOTO)	1台
実体顕微鏡	SZH10 (オリンパス)	1台
測微計測装置		1台

【学芸部】

品名	型番 (メーカー)	数量
夜間暗視スコープ	M-994 (LittonElectricDevices)	1式
テレメトリー受信機	RX900 (TELEVILT)	1台
テレメトリー受信機	FI-290MkII (ヤエス)	2台
実体顕微鏡	SZH10 (オリンパス)	2台
実体顕微鏡	SMZ-10A (ニコン)	2台
実体顕微鏡	SZ61-1 (オリンパス)	1台
実体顕微鏡	ファールブルフオト EX (ニコン)	1台

【その他】

品名	型番 (メーカー)	数量
水中撮影写真機材	(ニコン/アンティス)	1式
骨格標本作成槽		1式
大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
携帯型 GPS	FG-0210 (エンバックス)	3台
大型体重計	TRU・TESTSR2000 (フジヤ商会)	1式

5.3. 面積表

[エントランススペース]

室名	面積 (㎡)
エントランスホール	782
(救護室)	(15)
(幼児室)	(13)
(ミュージアムショップ)	(26)
(ともしびショップ)	(35)
(ロッカー室)	(17)
レストラン	202
小計	984

[展示スペース]

室名	面積 (㎡)
ミュージアムシアター	467
1階総合展示室	2,348
(化石ラボラトリー)	(32)
3階総合展示室	1,245
(CPUルーム)	(93)
ジャンボブック展示室	581
(ジャンボブック編集室)	(45)
特別展示室	434
(準備室1)	(74)
(準備室2)	(44)
小計	5,075

[学習スペース]

室名	面積 (㎡)
講義室	306
(講師控室)	(16)
実習実験室	139
ミュージアムライブラリー	211
書庫	211
小計	867

[研究スペース]

室名	面積 (㎡)
学芸員室	246
共同研究室	39
試料分析室	74
化学分析室	44
(化学天秤室)	(5)
クリーンルーム (1)	12
クリーンルーム (2)	8
標本製作室	173
燻蒸室	11
乾燥室	9
昆虫標本製作室	17
冷凍乾燥室	39
大型標本製作室	72
液浸標本製作室	13
液浸標本準備室	13
写真室	18
準備室	16
小計	804

[収蔵スペース]

室名	面積 (㎡)
収蔵庫1	1,260
収蔵庫2	77
液浸標本収蔵庫	96
小計	1,433

[管理スペース]

室名	面積 (㎡)
館長室	47
第1会議室	42
第2会議室	42
管理課事務室	91
企画情報部事務室	83
ボランティア・友の会事務局室	34
学習指導員室	49
司書室	39
電話交換室	13
更衣室	13
警備員室	29
(簡易宿泊室)	(14)
湯沸室	11
総合案内員室	24
中央監視室	29
機械室・電気室等	1,824
倉庫	119
トイレ	332
搬入口スペース	70
その他 (廊下・階段等)	2,166
小計	5,057

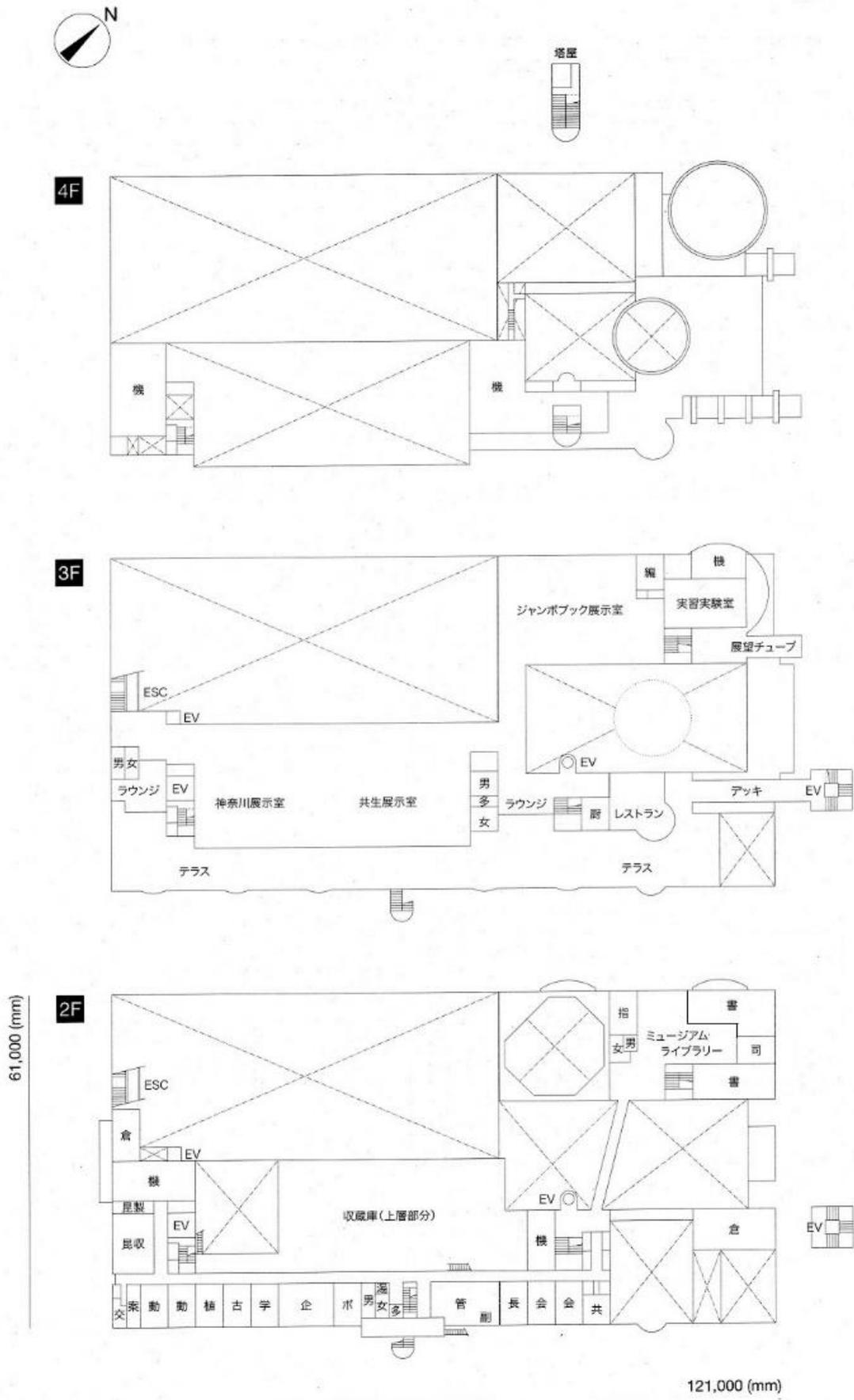
[地下駐車場]

室名	面積 (㎡)
地下駐車場	4800.14
(清掃作業室)	(32)
(トイレ)	(59)
(機械室)	(34)
小計	4800.14

カッコ内の数字は内数

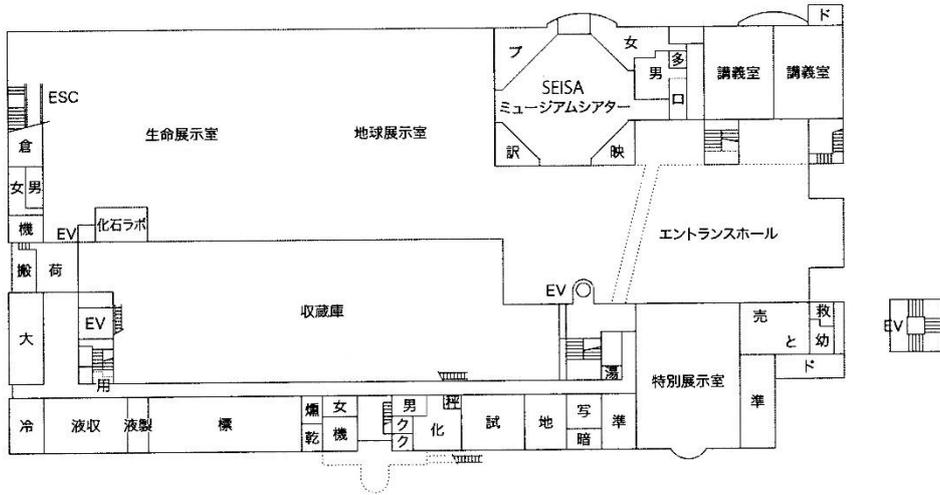
本館延床面積	19020.14 (㎡)
連絡橋EV棟	43.86 (㎡)
総延床面積	19064.00 (㎡)

5.4. 平面図

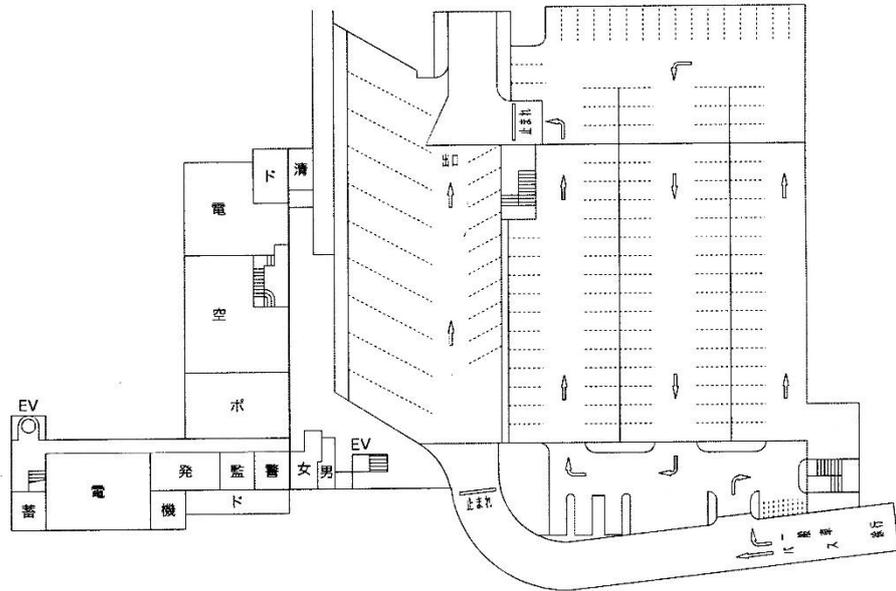




1F



BF



略字	フロア	室名
機	4 3 2 1 B	機械室
EV	3 2 1 B	エレベーター
男	3 2 1 B	男性トイレ
女	3 2 1 B	女性トイレ
ESC	3 2 1	エスカレーター
多	3 2 1	多目的トイレ
編	3	ジャンボブック編集室
厨	3	厨房
湯	2 1	給湯室
倉	2 1	倉庫
長	2	館長室
副	2	副館長
管	2	管理課
企	2	企画情報部室
学	2	学芸部長室
動	2	学芸部 (動物) 研究室
植	2	学芸部 (植物) 研究室
古	2	学芸部 (古生物・博物鑑学) 研究室
司	2	司書室
指	2	学習指導員室
案	2	総合案内員室
ボ	2	ボランティア・友の会事務局室
交	2	電話交換室

略字	フロア	室名
会	2	会議室
共	2	共同研究室
昆収	2	昆虫標本収蔵庫
書	2	書庫
昆製	2	昆虫標本製作室
ド	1 B	ドライエリア
地	1	学芸部 (地球環境) 研究室
売	1	ミュージアムショップ
と	1	ともしびショップ
救	1	救護室
幼	1	幼児室
ブ	1	プロジェクター室
訳	1	通訳室
映	1	映写室
ロ	1	ロッカー室
液収	1	液浸標本収蔵庫
搬	1	搬入口
荷	1	荷解室
大	1	大型標本製作室
標	1	標本製作室
液製	1	液浸標本製作室
冷	1	冷凍乾燥室
燻	1	燻蒸室

略字	フロア	室名
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	B	ポンプ室

神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第23号(2017年度)

発行日	2018年6月26日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 平田大二 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499 電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846 http://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	(株)あしがら印刷

編集担当 田村 哲 (管理課)・平賀保彦 (企画普及課)・折原貴道 (学芸部)

Web版については、51ページ以降の「寄贈資料」について、一部の寄贈者の方の氏名を掲載していません。